

週一ベジタリアン運動の推進主体における活動変遷とその特徴に関する研究 ーベルギーの NPO 団体 EVA(Ethical Vegetarian Alternative)を対象としてー

近藤研究室 0812039 本間友香里

1. 背景・論点

(1) 背景

地球温暖化による気候変動等の環境問題が深刻化する中、大量のエネルギーや水が投入され、温室効果ガスを多く排出している畜産業における環境負荷が問題視されている。現在、海外を中心に、この畜産業における環境負荷の低減を目的とした「週一ベジタリアン運動」という運動が行われている。その内容は、週7日のうち1日だけベジタリアンの食生活を行い、畜産製品の消費を減らしていこうというもので、運動の例の中でも、ベルギーの NPO 団体 EVA(Ethical Vegetarian Alternative)が行っている

「Donderdag Veggiedag (Thursday Veggie Day)」は、2009 年よりゲント市のオフィシャルキャンペーンにもなっており、成功している例といえる。

しかし、肉食文化を持つベルギーにおいて、なぜこのキャンペーンが成り立っているのか。また、なぜ行政と協働関係を構築出来ているのか。本研究では、肉食文化の中で、週一ベジタリアン運動を成功させている EVA に注目していく。

(2) 先行研究

Donderdag Veggiedag を対象とした研究として、Yuko Tamaru (2010)¹⁾と Xixi Zhao (2011)²⁾の研究が挙げられる。Tamaru (2010)は Donderdag Veggiedag で行われている市民へのアプローチ方法の効果を市民へのアンケートより分析している。Xixi (2011)は過去3年間における食事の変化や Donderdag Veggiedag に関するアンケートを市民に対して実施し、その結果から Donderdag Veggiedag におけるソーシャル・マーケティング効果をみている。

両者の研究は、Donderdag Veggiedag における戦略が市民の意識や行動に対してどのような、またどれ程の影響を与えているか、という部分に焦点が当てられおり、EVA の活動における特徴や強み、戦略といった部分まで言及されていない。

そこで本研究では、EVA の活動が成功している要因を明らかにするために、Donderdag Veggiedag に限らず、EVA の設立から現在に至るまでの変遷を追ひ、EVA の活動に変化が起こったターニングポイントや、EVA の活動における特徴や強み、また戦略的に行われていることを明らかにしていく。

2. 研究の目的・意義

本研究では、週一ベジタリアン運動を成功させている EVA の活動における戦略や強み、また行政との合意形成に至ったポイントを明らかにすることを目的とする。これらのことが明らかになることで、週一ベジタリアン運動を日本で推進している団体、また週一ベジタリアン運動に限らず、行政との協働関係を築こうと試みている NPO 団体にとって有用な情報となることが考えられる。これが本研究の意義

である。また「週一ベジタリアン運動」を対象とした既存研究も国内では皆無に近いことから、今後この運動を対象に研究する際の参考資料ともなることが本研究の意義として挙げられる。

3. 研究方法

本研究では次の方法で研究を進めていく。

(1) 文献調査

週一ベジタリアン運動に深く関わっている思想である「ベジタリアニズム」と「動物愛護」に関する文献を収集し、変遷を明らかにする。また運動で主張されている「環境」や「動物愛護」、「健康」に関する文献も収集し、畜産業から発生する問題やその影響についても明らかにしていく。

(2) インターネットを使った情報収集

国内外における週一ベジタリアン運動の状況を把握するために、インターネットを用いて情報を収集する。また国内の状況をより把握するために、「東京ヴィーガンズ・クラブ」とその他のベジタリアン団体に対してヒアリング調査を行う。国外の状況については、キャンペーン推進団体の HP やメディアの記事を中心に情報を収集する。

(3) EVA に対する問い合わせと現地調査

EVA に関する情報は、まず HP や資料等から収集する。そしてそれらからでは不明な部分に関して、直接問い合わせをし明らかにする。また資料入手やキャンペーンの様子を把握するために、現地調査も実施する。表1が現地調査の行程である。

表1 現地調査の行程

日程	調査内容
8月24日	Leenaert氏へのヒアリング調査
8月25日	EVAのオフィス内を見学とLeenaert氏へのヒアリング調査
8月26日	Leenaert氏へのヒアリング調査とゲント市内のベジタリアンショップの調査
8月31日	Leenaert氏へのヒアリング調査と資料収集
9月1日	Donderdag Veggiedagに参加しているレストランの調査

EVA の活動変遷は図1のようなシステム図にまとめ、変遷を追うと同時に、外部との関係性の変化を明確にしていく。

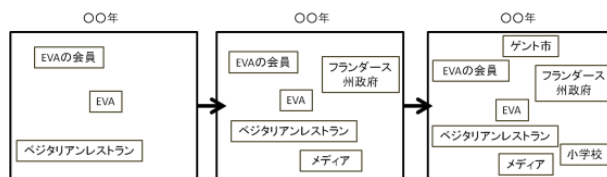


図1 EVAの変遷をシステム図に表したイメージ図

次に EVA の方向性や活動の変化を見るために、フランダーズ州政府の助成金を申請する際に作成された Beleidsplan2005-2009 及び Beleidsplan2011-2015 の

SWOT 分析を比較し、分析する。SWOT 分析に関しては、図化されていないので、図 2 のように図化し、その変化を読み取っていく。

	内部環境	外部環境
良影響	Strengths(強み)	Opportunities(機会)
悪影響	Weaknesses(弱み)	Threats(脅威)

図 2 SWOT 分析を図化したイメージ

最終的に(1)(2)(3)で集めた情報をもとに、週一ベジタリアン運動を成功させている EVA の活動における特徴や強み、また行政との合意形成に至ったポイントを明らかにしていく。

4. 週一ベジタリアン運動の現状とその思想的背景 (1)ベジタリアニズムと動物愛護について

ベジタリアンとは、植物性食品を中心に摂取する人のことを指し、その言葉は 1842 年にイギリスで生まれ、その後イギリスのベジタリアン協会が使い始め、一般化したと言われている。

一方、動物愛護の思想は紀元前の古代ギリシャの哲学者にまでさかのぼる。動物愛護を唱える哲学者の多くは、菜食の思想を持っており、ベジタリアンであった。動物保護に関する法律が整えられ始めたのは、1800 年代初頭のイギリスであり、その後ヨーロッパを中心に動物の扱いに関する法整備が進んでいった。

ベジタリアンという言葉の誕生は今から 200 年程前であるが、動物愛護を唱える哲学者には、現在という「ベジタリアニズム」の思想を持つ者も多く、「ベジタリアニズム」という発想は動物愛護同様、長い歴史を持つと考えられる。また動物愛護に関して長い歴史を持つヨーロッパでは、動物愛護の視点からベジタリアニズムの思想を持つ、あるいはその考えに理解を持つ者が多いということも考えられる。

(2)週一ベジタリアン運動の推進理由

週一ベジタリアン運動では、運動を推進する主なメリットとして環境や動物愛護問題、健康問題への貢献が挙げられている。また、それ以外にも南北格差問題への貢献やベジタリアン料理の美味しさ等も推進理由として挙げられている。このように推進理由が多様であるということは、それぞれ異なるフィールドから協力者や賛同者を得やすいといえる。またベジタリアン運動にはない「週に一度だけ」という手軽さも、週一ベジタリアン運動における大きな強みであると考えられる。

(3)国内外における週一ベジタリアン運動の現状

日本でも「東京ヴィーガンズ・クラブ」等、ベジタリアン関連の団体がいくつか存在しており、週一ベジタリアン運動を推進する活動を行っているが、その活動は情報発信をする程度にとどまっている。

国外における活動では、アメリカの「Meatless Monday」やイギリスの「Meat Free Monday」がよく

知られている。他にも、ドイツやブラジルにおいても週一ベジタリアン運動が推進されており、台湾では行政の教育部が中心となり、週一ベジタリアン運動を学校給食で実施している。

5. EVA の活動及びその変遷

(1)EVA の設立から現在に至るまでの変遷

[Leenaert 氏の経験]

現在、EVA のディレクターを務めている Leenaert 氏は EVA を設立するまでに、ヴィーガンへと移行する際の苦労やアメリカにおける動物愛護のボランティア等様々な経験をし、EVA の設立に至っている。[2000-2003 年]

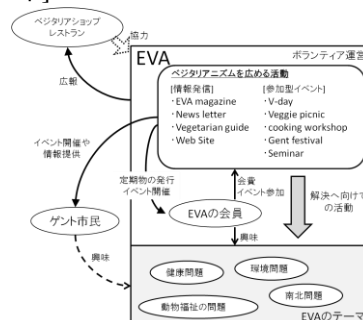


図 3 2000-2003 年における EVA のシステム図

EVA は 2000 年に設立され、ベジタリアンに関する正しい情報を社会に提供し、動物福祉や環境問題といった諸問題を解決に導くことを目標としている。ベジタリアン料理教室や V-day といった参加型イベントの開催や、EVA magazine や Veggie Guide といった資料の発行等を主な活動としている。

表 2 EVA が発行している資料の一覧(一部抜粋)³⁾

名称と説明
EVA magazine 3か月に一度発行されており、一冊5€で販売。
Verleidelijk Veggie GIDS EVA の初めての発行物でベジタリアンのガイドブック。
Veggie voor Chefs レストランのシェフ向けのベジタリアン料理ブック。
LUNCH BOX お弁当向けのベジタリアン料理のレシピブック。
Veggieplan Gent ゲント市内のベジタリアン関連ショップのマップ。

[2004-2006 年]

2005 年よりフランドース州政府から年間 100,000€ の助成金を受け始め、有給のフルタイムスタッフを雇用できる環境が生まれた。

[2007 年]

2007 年には「Donderdag Veggiedag」が開始され、新たな EVA のユニークな活動の一つとなった。Donderdag Veggiedag は Meatless Monday 等の事例と異なり、レストランの定休日が月曜日に多いことやカトリックの習慣との結び付けを強くするために、菜食の日が木曜日に設定されている。またキャンペーン名も、他の事例のような「Free」や「Less」といった「肉を減らす」印象を与えるネガティブな言葉を使わずに、「野菜の日」というポジティブな印象を与えるように意図して付けられている。

フランダース州政府

助成金

フルタイムスタッフ・ボランティア

EVA

ベジタリアニズムを広める活動

【情報発信】

- ・EVA magazine
- ・News letter
- ・Vegetarian guide
- ・Web Site
- ・Veggie Guide

【参加イベント】

- ・V-day
- ・Veggie picnic
- ・cooking workshop
- ・Gent festival
- ・Seminar

【受賞した員】

- ・de Award Voeding & Gezondheid voor Beste Project

【メンバー】

- ・Veggielympics
- ・Veggie Bars
- ・BV-Christmas Lunch
- ・Meat the Truth
- ・Less Meat, Less Heat
- ・Donderdag Veggedag

Alpro Soya's サポート

Rajendra Pachauri氏

繋がり

Tom Balthazar氏

解決へ向けての活動

金銭的イベント参加

EVAの会員

定期物の発行 イベント開催

イベント開催や情報提供

ベジタリアンショップ レストラン

協力

健康問題

環境問題

動物福祉の問題

都市問題

興味

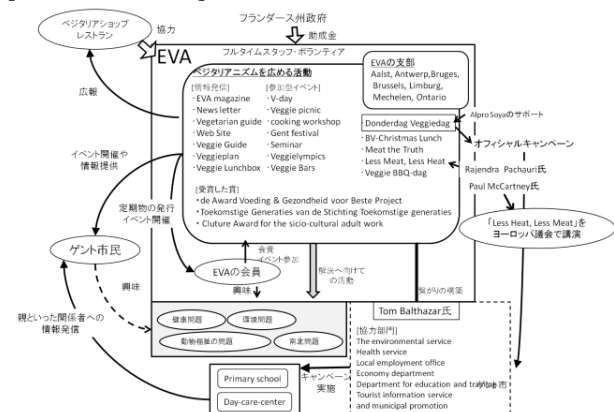
Gent市民

Gent市

2008 年の大きな変化として、gent 市の市議会議員である Tom Balthazar 氏との繋がりが構築されたことが挙げられる。Balthazar 氏は Deputy-Mayor for the Environment and Social Affairs(環境と社会福祉部門の助役)を務めており、Donderdag Veggiedag を行政側と繋ぐ橋渡しの役割を担うのには最適の人物といえ、Balthazar 氏との関係構築は EVA の活動を後押しするきっかけとなったことが考えられる。

2009 年には Donderdag Veggiedag がゲント市のオフィシャルキャンペーンとして認められ、小学校等でこのキャンペーンが開始された。ゲント市がこのキャンペーンにおける環境や健康への効果を評価していることが行政側の資料より読み取れる。

[2010 年-2011 年]



現在では、EVA の支部が Brussels や Aalst 等 7 都市にでき、フランダース内における広がりを見せている。また 2009 年度まで 100,000€であったフランダース州政府からの助成金が、2011 年度からは 165,000€に増えた。このことから、EVA の活動がフランダース州政府の評価を得ているといえる。

EVA はフランダース州政府の助成金を申請する際に **Beleidsplan** という計画書を作成し、提出している。本研究ではその計画書の中に載せられている **SWOT 分析** を **Beleidsplan2005-2009** 及び **Beleidsplan2011-2015** の二つの期間の比較を行い、分析していく。

	内部環境	外部環境
	Strengths(強み) ・ポテンシャルとスタッフに恵まれている ・「食事を変えることで世界が変えられる」というニュー・モラルに共感している ・Dondedag Vegetagiedagというキャンペーンで、強いブランド ・EVAやその他の活動に対するポジティブなイメージ	Opportunities(機会) ・農業や食糧危機 ・民間関係との協働の機会 ・消費者からの関心
長影響	Weaknesses(弱み) ・一人の人物にリーダーシップを担うという仕事や知識、意思決定が集中 ・ポテンシャルとワーク・ジョブに間に合う専門知識が不足 ・特定の領域における専門的技術が不足 ・EVAの認知度が低かった。EVAとその活動が理解されていない ・伝統的な「with a」で定年を迎えてくる。資金や人員集めの困難	Threats(脅威) ・他国企業との競合関係 ・他国企業との反対の可能性 ・「Climate Fap」の可能性 ・レストランやホテルにおけるレジリエンス・プログラムが不足 ・消費者がより過激になる ・他の国がレジリエンスの中にも肉を入れた
中影響		
短影響		

	内部環境	外部環境
	Strengths(強み) ・熱心で有能なボランティア ・情報風俗や恋愛といった知識や技術 ・情報の質の高さ ・ガイドやウェブサイト等の利用しやすい情報	Opportunities(機会) ・ベジタリアン文化への関心の高まりとイメージの改善 ・食生活改善の重要性が上昇 ・行政等の持続可能な消費への関心の高まり ・メディアの関心(メディアによってベジタリアンが好印象) ・若者や若年層、女性のベジタリアンに対する関心増加 ・健康志向がトレンド ・インフォर्मール・センターの広がり ・ネット利用の増加 ・助成金のチャンス
長影響	Weaknesses(弱み) ・ボランティア活動による時間不足 ・ボランティアの活動の多岐(ベジタリアンへのコミュニケーションの必要性) ・バグワランの中心性(情報格差) ・EVA自身の認知度の不足 ・ホテルやレストラン、教育、政治等との関係が欠如 ・資金の確保が不十分	Threats(脅威) ・ボランティア運営の限界 ・健康の概念によるイメージの喪失 ・ベジタリアンへの偏見 ・バグワランの移り変わり ・経済停滞
長影響	・組織風俗と意思決定過程が透明	

二つの期間で共通していることは、ボランティア
やスタッフに恵まれ、ポジティブなイメージがある
ところである。また2011-15年においては、Donderdag
Veggiedag が新たに強みとして挙げられている。

2005-09 年においては、ボランティア運営であるが故の弱みや外部との関係性の欠如が弱みとして挙げられている。しかし 2011-15 年においては、そのような弱みが挙げられておらず、助成金やгент市との関係構築によってそれらの問題が解決されたことが考えられる。二つの期間で共通していることは、EVA の認知度が低いということである。

2005-09 年においては社会問題への関心の高まりを機会と捉えているのに対し、2011-15 年においては EVA 自体に対する行政や消費者の関心の高まりを機会と捉えている。これはオフィシャルキャンペーンの成立が影響を与えていると考えられる。また二つの期間において、メディアからの関心が EVA に向けられていることもうかがえる。

2005-09 年においては、ボランティア運営である
ことに対する不安が挙げられているが、2011-15 年
においてその項目はなく、助成金によりその不安が

解消されたと考えられる。

(3)EVA の活動や SWOT 分析から読み取れること

EVA の活動に大きな変化をもたらした出来事として下記の3点が挙げられる。

①フランダース州政府からの助成金

②Donderdag Veggiedag の開始

③Balthazar 氏との関係構築

一つ目は『①フランダース州政府からの助成金』開始により、スタッフの雇用環境が改善され、ボランティア運営における不安も解消されたことで EVA の活動に変化が起きたことが考えられる。二つ目に『②Donderdag Veggiedag が開始』され、EVA を代表する活動の一つ、また新たな強みとなったことが活動の転換点となったといえる。そして三つ目に、『③Balthazar 氏との関係構築』が、Donderdag Veggiedag をオフィシャルキャンペーンへと成立させる大きな契機となったと読み取れる。

次に EVA の特徴として下記のことが挙げられる。

①充実した情報発信ツール

②ポジティブな活動

③質の高いマネジメント

④行政との協働関係構築

まず『①充実した情報発信ツール』であるが、EVA は他事例と比べ発行している資料の質が高く、読み手のニーズに合わせた内容構成となっていることが特徴として挙げられる。次に EVA が活動から名前の付け方、また食における個人の選択を尊重している点などから、『②ポジティブな活動』を心掛けていることが EVA の特徴といえる。これは Leenaert 氏のアメリカでの経験が影響していると考えられる。

3つ目の特徴として、EVA の『③質の高いマネジメント』が挙げられる。EVA では組織運営において重要なミッション・ステートメントが明確化されている。また解決課題として環境や動物福祉といった様々な項目を挙げているが、それらへのアプローチ方法は「ベジタリアニズムの普及」に絞られており、内部の統制がとりやすい環境になっているといえる。さらに、スタッフ間で共通する「活動のモチベーションが動物愛護である」点と「ベジタリアン・ヴィーガンである」点が、スタッフの凝集性を高め、組織としてのまとまりを生んでいると考えられる。こういった点で EVA のマネジメントは質が高く、組織を運営しやすい環境が整えられていると判断できる。最後に『④行政との協働関係構築』が特徴として挙げられる。

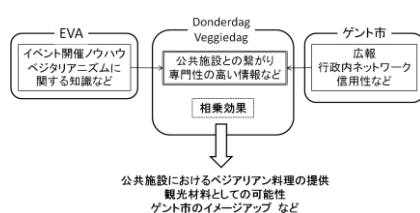


図8 EVAとゲント市の協働

EVA では、フランダース州政府からの助成金によりスタッフの雇用環境を整え、また政治家を上手く

利用し Donderdag Veggiedag をオフィシャルキャンペーンとして成立させ、それを通じて外部のネットワークを広げるなど、行政を上手く使い、お互いにとってメリットのある協働関係を築けている。

これらの点が、EVA の活動における特徴であり、同時に強みになっているといえることができる。

5. 結論

EVA の活動内容や変遷を追ってきて見えてきた EVA の性格は「冷静」かつ「明るい」ということである。EVA は個人の選択を尊重し、自身の活動がより ポジティブな印象となるようにし、外部からの反対感情が生まれにくい環境を作っている。また行政との協働関係を構築する際には、ベジタリアニズムに関心のある Balthazar 氏を橋渡し役として選択し、行政に受け入れられやすい「環境」や「健康」といった面から Donderdag Veggiedag の良さを伝えており、外部の反応に合わせたアプローチ方法を取っている。

このような「冷静な」判断に基づく戦略がある一方で、料理教室や V-day といった参加型のイベントを開催したり、デザイン性に優れた情報発信ツール（図9）も持ち併せている。



図9 カラフルなデザインの情報発信ツール

この「冷静」であり「明るい」という部分が EVA の特徴であり、強みになっていると考える。またヨーロッパの持つ長い動物愛護の歴史や Donderdag Veggiedag の多様な推進理由や「週一」という手軽さも EVA の活動を後押ししていると考えられる。

6. 課題

本研究では、EVA の戦略や強みを考察してきたが、ベルギーにおける NPO の制度や NPO 自体の位置付け等を踏まえた考察が不十分であり、また EVA の特徴をより明確にするためには、他事例との十分な比較考察が必要である。これらが本研究の不十分なところであり、今後の研究課題である。

7. 参考文献

- 1) Yuko Tamaru : Promoting Less Meat Consumption for Environmental Sustainability -The Case of “Donderdag Veggiedag” of Ghent, Belgium-
- 2) Xixi Zhao : Is Social Marketing Effective? ---- A Case Study of Gent Veggie Day, Faculty of Business and Economics
- 3) EVA : Publicaties <
http://www.vegetarisme.be/index.php?option=com_content&view=article&id=1096&Itemid=574>, 2012-1-22
- 4) EVA : Beleidsplan2005-2009
- 5) EVA : Beleidsplan2011-2015

目 次

第一章	序論	1
1-1	研究の背景	1
1-1-1	畜産業における環境負荷	1
1-1-2	畜産製品の消費拡大	1
1-1-3	週一ベジタリアン運動の広がり	3
1-1-4	EVA を対象とした先行研究	3
1-2	研究の目的	4
1-3	研究の意義	5
1-4	本研究の構成	5
第二章	研究手法	7
2-1	文献調査	7
2-2	インターネットを使った情報収集	7
2-2-1	国内における週一ベジタリアン運動の現状把握	7
2-2-2	海外における週一ベジタリアン運動の現状把握	8
2-3	EVA に対する問い合わせと現地調査	9
2-4	調査の過程及び分析方法	12
第三章	週一ベジタリアン運動の現状とその思想的背景	17
3-1	週一ベジタリアン運動の思想的背景について	17
3-1-1	ベジタリアニズム(Vegetarianism)について	17
3-1-2	動物愛護運動について	19
3-1-3	思想的背景からみえる週一ベジタリアン運動	23
3-2	週一ベジタリアン運動とその推進理由	24
3-2-1	週一ベジタリアン運動とは	24
3-2-2	畜産業における環境負荷の軽減	25
3-2-3	畜産業における家畜動物の福祉向上	26
3-2-4	畜産製品の過剰摂取による健康問題	28
3-2-5	週一ベジタリアン運動の推進理由からみえる運動の特徴	29
3-3	国内外における週一ベジタリアン運動の現状について	30
3-3-1	日本における週一ベジタリアン運動の状況	30
3-3-2	海外における週一ベジタリアン運動の状況	31
3-4	第三章のまとめ	34

第四章	EVA(Ethical Vegetarian Alternative)の活動内容及びその変遷	37
4-1	ベルギー及びゲント市の概要	37
4-2	EVA の活動について	39
4-2-1	EVA の基本情報	39
4-2-2	EVA のオフィスとゲント市内の様子	45
4-2-3	Donderdag Veggiedag の概要	49
4-2-4	EVA の設立から現在に至るまでの変遷	50
4-2-5	Beleidsplan における SWOT 分析の比較	68
4-3	他事例との比較	73
4-4	EVA の活動から読み取れること	75
4-4-1	EVA の活動におけるターニングポイント	75
4-4-2	EVA の活動の特徴	76
4-5	第四章のまとめ	84
第五章	各章のまとめと結論	88
5-1	第三章のまとめ	88
5-1-1	思想的背景からみえる週一ベジタリアン運動	88
5-1-2	週一ベジタリアン運動の推進理由からみえる運動の特徴	88
5-2	第四章のまとめ	88
5-2-1	EVA の活動におけるターニングポイント	88
5-2-2	EVA の活動における特徴と強み	89
5-3	結論	90
5-4	本研究の課題	92

図 表 目 次

図 1-1	世界及び各国の肉供給量の変遷	2
図 2-1	本研究の調査と分析の流れ	12
図 2-2	EVA の変遷を表した関係図のイメージ	14
図 2-3	SWOT 分析を図化したイメージ	16
図 3-1	各国における一人あたり肉消費量の推移	24
図 3-2	狭く衛生状態の悪い空間で飼育される家畜(右：ブロイラー，左：乳牛)	26
図 3-3	20 歳以上の肥満人口割合	28
図 3-4	東京ヴィーガンズ・クラブの HP	30
図 3-5	Meatless Monday のロゴ	32
図 3-6	Meatless Monday のポスター	32
図 3-7	John Hopkins 大学で行われたキャンペーン	32
図 3-8	Meat Free Monday のロゴ	33
図 4-1	ヨーロッパの地図	37
図 4-2	ベルギーの地図	38
図 4-3	ゲント市内の地図	38
図 4-4	EVA のロゴマーク	44
図 4-5	受付兼作業スペース(Entrance and Workspace)	45
図 4-6	料理教室等が行われるキッチンスペース(Kitchen)	46
図 4-7	様々な文献が置かれている図書室(Library)	46
図 4-8	オフィスの間取り図	47
図 4-9	ベジタリアンショップの BIO SHOP	48
図 4-10	ベジタリアンカフェの Greenway	48
図 4-11	Donderdag Veggiedag のロゴマーク	49
図 4-12	子供向けのキャンペーンポスター	49
図 4-13	EVA のディレクターである Tobias Leenaert 氏	50
図 4-14	2000 年から 2003 年における EVA のシステム図	52
図 4-15	EVA magazine のリニューアル前(左：8 号)とリニューアル後(右：9 号)	53
図 4-16	2004 年から 2006 年の EVA のシステム図	55
図 4-17	EVA の組織図	56
図 4-18	2007 年における EVA のシステム図	58
図 4-19	2008 年における EVA のシステム図	60
図 4-20	2009 年における EVA のシステム図	61
図 4-21	キャンペーンへの参加を示すステッカー	62
図 4-22	CNN が Donderdag Veggiedag を報じた記事	64
図 4-23	2010 年から 2011 年におけるシステム図	65

図 4-24	現在の EVA の組織図	67
図 4-25	Beleidsplan2005-2009 の SWOT 分析	68
図 4-26	Beleidsplan2011-20015 の SWOT 分析	69
図 4-27	EVA の活動に見られる戦略	78
図 4-28	EVA が掲げるテーマとそれに対するアプローチ方法	81
図 4-29	創造的協働	83
図 4-30	EVA とゲント市の協働	83
図 5-1	カラフルなデザインの情報発信ツール	91
図 5-2	EVA の成功要因	91
表 2-1	ベジタリアンに関連する HP の一覧(国内)	8
表 2-2	ベジタリアンに関連する HP の一覧(国外)	8
表 2-3	現地で入手した EVA の資料一覧	10
表 2-4	EVA の HP 等から入手した資料の一覧	11
表 2-5	分析に使用した資料の一覧	13
表 2-6	Beleidsplan2005-2009 の目次	14
表 2-7	Beleidsplan2011-2015 の目次	15
表 3-1	vegetarian の種類と摂取する動物性食品	17
表 3-2	ベジタリアニズムの変遷	18
表 3-3	現代の動物倫理	20
表 3-4	動物保護に関する法律の変遷	21
表 3-5	動物福祉の基本「5 つの自由」	27
表 4-1	EVA の主な発行物	40
表 4-2	スタッフの担当部門(2011 年時点)	42
表 4-3	設立から現在に至るまでの EVA の活動年表	43
表 4-4	設立時のメンバー	52
表 4-5	EVA magazine でインタビューされた著名人一覧(一部抜粋)	54
表 4-6	2004 年時の Council of Board のメンバー	57
表 4-7	Donderdag Veggiedag のオフィシャルキャンペーンセレモニーでゲント市が出した Statement	63
表 4-8	現在の Council of Board のメンバー	66
表 4-9	ワークグループのメンバーとその担当	66
表 4-10	それぞれの団体における活動の有無	73
表 4-11	Meat Free Monday の作成物	74
表 4-12	Meatless Monday の作成物	74
表 4-13	EVA の作成物	74

表 4-14	キャンペーンへの参加理由	79
表 4-15	EVA のミッション・ステートメント	80

第一章 序論

1-1 研究の背景

1-1-1 畜産業における環境負荷

今日、地球温暖化や異常気象といった環境問題への早急な対策が急がれており、再生可能エネルギーや電気機器の省エネ化など様々な対策が取り組まれている。環境への負荷を削減する対策の一つとして「週一ベジタリアン運動(weekly vegetarian, part time vegetarian)」という名のキャンペーンが欧米を中心に行われている。そのキャンペーンの内容は、週 7 日のうち 1 日だけベジタリアンの食生活を行うというものである。つまり、週に一日だけ、肉や卵といった畜産製品を消費しない日を作るというものである。キャンペーンが行われている規模は様々であるが、週一ベジタリアン運動を推進している活動団体はアメリカ、イギリス、ベルギー、フィリピン、クロアチア、台湾等、世界のあらゆる国に存在しており、その活動は度々メディアにも取り上げられている。

畜産製品の製造段階における環境負荷については、FAO (Food and Agriculture Organization of the United Nations : 国際連合食糧農業機関)が 2006 年に発表したレポート「Livestock's long shadow」¹⁾の中で指摘しており、また IPCC (Intergovernmental Panel on Climate Change)で議長を務める Rajendra Pachauri 氏も「肉の消費量を減らしてほしい。肉は二酸化炭素を大量に排出する商品だ。」と述べ、肉消費の抑制を呼び掛けている²⁾。

畜産製品の製造段階における環境負荷は、水汚染やメタン等の温室効果ガス排出が主な問題となっている。家畜のふん尿を肥料に転換し、その肥料を使って育てた草や作物を飼料として家畜に与えるという循環型の農業を行っていた時代と異なり、現在では安い飼料を購入し家畜に与えるため、ふん尿を処理しきることができず、そのふん尿が河川や土壌を汚染していくという問題が起こっている³⁾。またそのふん尿から排出されるメタンガスも温室効果が高いとして問題視されている。メタンガスの有効利用やふん尿の活用などを通して、環境負荷を抑えた畜産業が求められている。

1-1-2 畜産製品の消費拡大

畜産製品の消費は近年急速に増加しており、また、さらに今後の人口増加に伴って、世界における家畜数は約 2 倍になり畜産製品の消費も増加すると FAO は予測している⁴⁾。図 1-1 は世界全体とアメリカ、イギリス、ドイツ、中国、日本の肉供給量を表したものである。数値の変化を見てみると、1961 年から 2007 年にかけて、世界全体の肉供給量が 4 倍近くにも増加していることが分かる。アメリカ、イギリス、ドイツ、中国、日本のどの国においてもその供給量は増加しており、特に中国、アメリカの供給量増加が著しいものである。

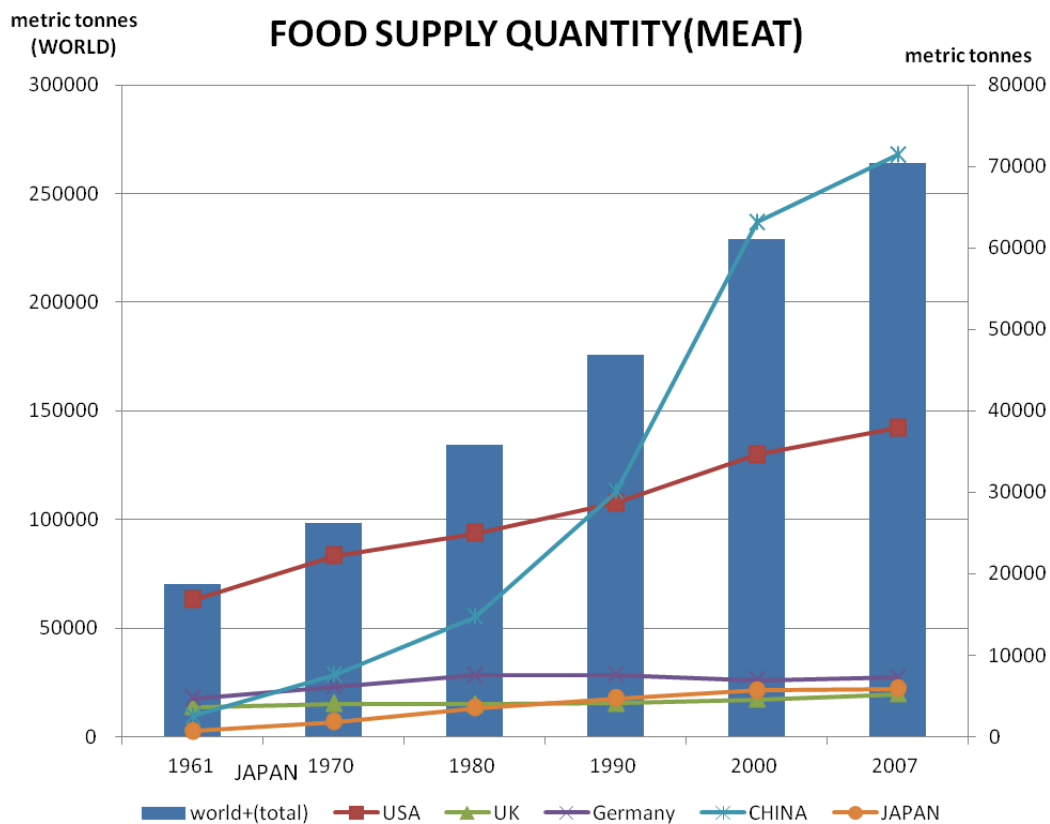


図 1-1 世界及び各国の肉供給量の変遷⁵⁾

データをもとに著者が作成

出典：FAOSTAT：＜<http://faostat.fao.org/site/610/DesktopDefault.aspx?PageID=610#ancor>＞，2010-12-21

畜産製品を生産する段階で、家畜の飼育やその飼料生産のために広大な農地や大量の水を使用している。また家畜のふん尿により水が汚染されたり、そのふん尿から発生する大量のメタンガスについても温室効果が非常に高いことから、地球温暖化を促進させるとして問題視されている。

このように環境に対して様々な影響を与える畜産業が、今後の人口増加に伴う需要の増加とともに畜産業自体の規模が拡大すると、さらに多くの農地や水が使用され、メタンガスの排出も増加し、その環境負荷は現在以上に増大していくと考えられる。

「週一ベジタリアン運動」では畜産製品の消費を減らし、畜産業の規模を小さくしていくことで、このような畜産製品の製造段階で発生する環境負荷を抑えていくことを目的として行われているのである。

1-1-3 週一ベジタリアン運動の広がり

週一ベジタリアン運動で推進されているベジタリアンであるが、国際的なベジタリアン団体である International Vegetarian Union(IVU)では「ベジタリアン(Vegetarian)とは畜産製品や卵を使用するか否かに関わらず、肉や魚、またそれらの副産物を摂取しない人々のこと」⁶⁾と定義している。週一ベジタリアン運動として代表的なものは、アメリカの「Meatless Monday」⁷⁾やイギリスの「Meat Free Monday」⁸⁾であり、どちらのキャンペーンも「畜産製品の消費を減らすことにより、環境や動物愛護(保護や福祉を含む、以下動物愛護で表現)の問題解決に貢献していく」という目的で推進されている。運動の例の中で、成功している事例としてベルギーの NPO 団体 EVA(Ethical Vegetarian Alternative)が行っている「Donderdag Veggiedag (Thursday Veggie Day)」が挙げられる。このキャンペーンは 2009 年に、ゲント市のオフィシャルキャンペーンとなっており、週一ベジタリアン運動が行政にオフィシャルなものとして認められた世界で初めての例である。ベルギーでは、ゲント市が Donderdag Veggiedag をオフィシャルキャンペーンと認めた後に、ブリュッセル市やハッセルト市などがキャンペーンの実施を開始している。

しかし週一ベジタリアン運動を行っているアメリカやイギリス、ベルギーはいずれも長い肉食の文化を持つ国である。なぜ肉食文化を持つ国で、畜産製品の消費を抑制するようなキャンペーンが推進され、またベルギーにおいてはオフィシャルキャンペーンにまで結びついているのか。日本でも週一ベジタリアン運動を推進しようとする団体は存在するが、その活動は海外の情報を発信することやブログで週一ベジタリアン運動について取り上げるといった内容に留まっており、Donderdag Veggiedag や Meatless Monday といったアクションを起こして週一ベジタリアン運動を推進する内容の活動にまで至っていない。その背景には日本の畜産業界の存在がとても大きいものであり、畜産業界を否定するような活動が日本国内では行いにくいという現状があると言われている。畜産業界の存在が大きいという事実は肉食文化を持つ欧米にも共通したことでありと考えられるが、特にベルギーにおいて EVA が行っている Donderdag Veggiedag の活動は行政にも認められ、その活動が順調に行われている。

本研究では週一ベジタリアン運動を世界で初めて行政のオフィシャルキャンペーンに結び付けた EVA を研究対象としていく。

1-1-4 EVA を対象とした先行研究

EVA を対象とした研究は Yuko Tamaru(2010)⁹⁾及び, Xixi Zhao(2011)¹⁰⁾の研究が挙げられる。Tamaru(2010)は「Promoting Less Meat Consumption for Environmental Sustainability - The Case of “Donderdag Veggiedag” of Ghent, Belgium - 」というタイトルで研究を行っており、ゲント大学やシティホール、ボルボ社で行ったアンケートより、Donderdag Veggiedag で行われているアプローチ方法が有効か否かを調査している。Donderdag Veggiedag で行われているアプローチ方法を次の 3 つ cognitive approach: 認知的アプローチ, socio-psychological approach:

社会心理学的アプローチ, ‘system of provision’ approach : 供給システムアプローチに分け, 市民の意識や行動への影響を調べている。

一方, Zhao(2011)は, “Is Social Marketing Effective? ---- A Case Study of Gent Veggie Day”というタイトルで研究を行っており, Donderdag Veggiedag のソーシャル・マーケティング効果に着目している。この研究では, ランダムに抽出した 300 人のゲント市民に対して, 過去 3 年間における食生活の変化についてのアンケート調査を実施している。そのアンケートより, Donderdag Veggiedag の認知度やベジタリアン食品の消費量といったデータを収集・分析し, Donderdag Veggiedag がどの程度ゲント市民の中に浸透しているのかを明らかにしている。またその結果を受け, Donderdag Veggiedag の今後の展開についていくつか提案をしている。アンケート調査の結果, Donderdag Veggiedag ではキャンペーンの様々なプロモーションが行われているが, 世界のあらゆるところで宣伝されているピザやハンバーガーといった商品を通じた肉食の宣伝には及ばないということ。また味で宣伝されている肉料理と比べ, 健康や環境などに焦点が当てられているベジタリアン料理は, 広く急速に受け入れられていくことは難しく, そしてそのメリットは知識を元に理解されることが多く, 高等な教育を受けた人向けの宣伝となってしまうということが指摘されていた。効果的なプロモーションを行うには, 年代や性格に合わせたプロモーション方法が必要であり, また他機関と連携して宣伝していくことも有効な方法であることなどを挙げている。

両者の研究では, Donderdag Veggiedag における戦略が市民の意識や行動に対してどのような, またどれ程の影響を与えているか, という部分に焦点が当てられおり, EVA の活動における特徴や強み, 戦略といった部分まで言及されていない。

そこで本研究では, EVA の活動がなぜ成功しているのかを明らかにするために, Donderdag Veggiedag のみに限らず, EVA の設立から現在に至るまでの変遷を追い, EVA の活動に変化が起こったターニングポイントや, EVA の活動における特徴や強み, また戦略的に行われていることを明らかにしていく。

1-2 研究の目的

本研究の目的は, 長い肉食の歴史を持つベルギーにおいて, EVA がなぜ Donderdag Veggiedag をオフィシャルキャンペーンとして行政に認めさせることができ, またその活動を順調に行うことが出来ているのか。EVA の活動における特徴や強み, また行政との合意形成に至ったポイントについて明らかにすることを本研究の目的とする。行政との合意形成に至ったポイントに注目する理由としては次のことが挙げられる。ベルギーにおいて肉食は長い歴史を持っており, それが経済の一部を構成していることは間違いない。日本でも畜産業界はとても巨大な存在であり, 経済を回す大きな産業である。経済に影響力のある産業を縮小させる可能性を持つ「週一ベジタリアン運動」をなぜゲント市の行政は公式にサポートしているのか。畜産業を縮小させるという経済におけるデメリットを上回るメリットを, EVA はどのように行政に対して示したのか。本研究では, このような点から EVA

の戦略や行政との合意形成に至ったポイントに注目していく。

1-3 研究の意義

EVA がどのような方法で、肉食文化の社会に対して「ベジタリアン」を提案し、行政との関係を構築していったのか。日本においても「東京ヴィーガンズクラブ」や「日本ベジタリアン協会」が週一ベジタリアン運動を広める活動を試みているが、週一ベジタリアン運動の存在がほとんど認知されていない状況となっている。EVA の戦略や行政といった外部の団体と合意形成に至ったポイントは、週一ベジタリアン運動を日本で推進している団体、また週一ベジタリアン運動に限らず行政との協働関係を築こうと試みている NPO 団体にとって有用な情報となることが考えられる。これが本研究の研究意義である。また日本ではほとんどこのキャンペーンが認知されておらず、「週一ベジタリアン運動」を対象とした既存研究も国内では皆無に近いことから、今後この運動を対象に研究する際の参考資料ともなることが本研究の意義として挙げられる。

1-4 本研究の構成

本研究の構成は次の通りである。

第一章：本研究の背景・論点を述べる。また研究の目的とその意義についても述べる。

第二章：本研究で行った研究手法について述べる。

第三章：週一ベジタリアン運動の現状と思想的背景について述べるため、ベジタリアニズムと動物愛護運動の歴史を紹介する。また週一ベジタリアン運動で主張されている「畜産業における環境負荷の軽減」と「畜産業における家畜動物の福祉向上」、「畜産製品の過剰摂取による健康問題」についても説明し、Meatless Monday や Meat Free Monday といった事例について紹介する。

第四章：本研究で研究対象としている EVA の活動について紹介し、EVA の設立から現在に至るまでの変遷を EVA のシステム図を示しながら追う。

第五章：第三章及び第四章のまとめを述べ、それらから導き出した EVA における特徴や強み、また戦略といえる部分を述べていく。

<参考文献>

- 1) FAO : Livestock's long shadow, Environmental Issues and Options (2006)
- 2) AFP BBNews : 「温暖化防止にライフスタイルの変革を」, IPCC 議長
< <http://www.afpbb.com/article/environment-science-it/environment/2338365/2536120> > ,
2011-12-1
- 3) りんたらくと : 環境にやさしい畜産をするにはどうしたらいいの ?
< <http://fami.lin.gr.jp/lint/faq/detail/?s=51> > , 2011-12-13
- 4) ロバート・グッドランド, ジェフ・アンファンク : 地球温暖化で見逃されている一大
要因畜産, ワールド・ウォッチ日本語版 125 号, pp.15-25 (2009)
- 5) FAOSTAT : Livestock and Fish Primary Equivalent
< <http://faostat.fao.org/site/610/DesktopDefault.aspx?PageID=610#ancor> > , 2010-12-21
- 6) IVU : Frequently Asked Questions – Definitions
< <http://www.ivu.org/faq/definitions.html> > , 2011-12-13
- 7) Meatless Monday : < <http://www.meatlessmonday.com/> > , 2012-1-25
- 8) Meat Free Monday : < <http://www.meatfreemondays.com/> > , 2012-1-25
- 9) Yuko Tamaru : Promoting Less Meat Consumption for Environmental Sustainability -The Case
of “Donderdag Veggiedag” of Ghent, Belgium-
- 10) Xixi Zhao : Is Social Marketing Effective? ---- A Case Study of Gent Veggie Day, Faculty of
Business and Economics

第二章 研究方法

本研究では次のような方法で研究を進めていく。

2-1 文献調査

週一ベジタリアン運動に深く関わっているベジタリアニズムと動物愛護の思想がどの時代から存在し、またどのような変遷をたどってきたのかを明らかにするため、それらに関連した既存文献を収集し、ベジタリアニズムや動物愛護・福祉の歴史変遷をまとめる。また週一ベジタリアン運動で主張されている畜産業が与える環境負荷や健康への影響、動物福祉の問題に関して書かれた既存文献を収集し、その情報をまとめる作業を行う。週一ベジタリアン運動に関する既存文献についても Meatless Monday, Vegetarian campaign, Donderdag Veggiedag, 週一ベジタリアン運動, ベジタリアンキャンペーン等といったキーワードを Cinii や SCOPUS, Google Scholar といった文献検索ツールを使用し、関連文献を収集していく。

2-2 インターネットを使った情報収集

2-2-1 国内における週一ベジタリアン運動の現状把握

国内における週一ベジタリアン運動の現状を把握するために、インターネットで週一ベジタリアンに関する活動を行っている団体を探し、その団体に対してヒアリング調査を行う。本研究では 2 つの団体「東京ヴィーガンズ・クラブ」ともう一つのベジタリアン団体に対してヒアリング調査を行い、国内における週一ベジタリアン運動の現状把握を行う。

「東京ヴィーガンズ・クラブ」は、国内外のベジタリアンに関するニュースを HP 上で発信している。主な活動はベジタリアンに関する情報を発信することにとどまっているが、日本で情報を入手することが難しい、海外の週一ベジタリアン運動に関する情報を発信するという貴重な活動を行っている。

本研究でヒアリング調査を実施したベジタリアン団体に対しては、対象団体の HP に記載されている連絡先に対して連絡を取り、調査を実施した。同時に週一ベジタリアン運動と関連のある内容が載せられているブログ等からも情報収集を行い、日本における週一ベジタリアン運動の状況を把握する。表 2-1 は本研究で情報収集に用いた HP の一覧である。

表 2-1 ベジタリアンに関連する HP の一覧(国内)

参考 HP 一覧	
1)	東京ヴィーガンズ・クラブ : http://vegan.japanteam.net/
2)	NPO 法人 京都ベジタリアンフェスティバル実行委員会 : http://www.vegetarianfestival.jp/
3)	東京ベジフードフェスタ 2011 : http://tokyo-vegafest.com/about.html#
4)	NPO 法人 ベジカルチャーネットワーク : http://veg-culture.net/
5)	NPO 法人 日本ベジタリアン協会 : http://www.jpvs.org/index.htm
6)	yuki のスローな日々 : http://slowlife-sk9.blog.so-net.ne.jp/archive/c2301201887-1

2-2-2 海外における週一ベジタリアン運動の現状把握

海外における週一ベジタリアン運動の現状に関しては、インターネットを用いて情報を収集していく。まず「Weekly Vegetarian」や「Meatless Campaign」といったキーワードで検索し、その後、ニュース記事やブログ、活動している団体の HP から情報を収集し、海外における週一ベジタリアン運動の現状を明らかにしていく。本研究で研究の対象とする EVA に関しても、まず EVA の HP から活動内容や Donderdag Veggiedag の現状についての情報を収集していく。またアントワープ市の HP にも Donderdag Veggiedag に関する情報や関連する資料が載せられているので、そこからも情報を収集し、現状を把握する。収集した情報から週一ベジタリアン運動全体に見られる特徴や Donderdag Veggiedag のみに見られる運動の特徴について明らかにしていく。本研究で情報収集に用いた HP の一覧を表 2-2 に示す。

表 2-2-① ベジタリアンに関連する HP の一覧(国外)

参考 HP 一覧	
1)	Meat Free Monday : http://www.meatfreemondays.com/ →イギリスの Meat Free Monday の HP.
2)	Meatless Monday : http://www.meatlessmonday.com/ →アメリカの Meatless Monday の HP.
3)	Donderdag Veggiedag : http://www.donderdagveggiedag.be/ →EVA の Donderdag Veggiedag の HP.
4)	Stad Gent : http://www.gent.be/eCache/THE/4/125.html →ベルギーアントワープ市の HP.
5)	EVA : http://www.vegetarisme.be/ →EVA の HP.

表 2-2 ベジタリアンに関連する HP の一覧(国外)

参考 HP 一覧	
6)	Kara pound: The Raise of Meatless Monday, The Online Home of E-The Environmental Magazine (2010) < http://www.emagazine.com/archive/5295 > →Meatless Monday を報じた雑誌記事.
7)	The telegraph : Ghent declares every Thursday 'Veggie day' < http://www.telegraph.co.uk/news/worldnews/europe/belgium/5322315/Ghent-declares-every-Thursday-Veggie-day.html > →Donderdag Veggiedag がオフィシャルキャンペーンとなったことを報じた記事.
8)	Brandon Bosworth : A Taiwanese Take on A Meatless Monday?, change.org < http://news.change.org/stories/a-taiwanese-take-on-meatless-monday > →台湾の週一ベジタリアン運動を報じた記事.
9)	change org. : A Taiwanese Take on Meatless Monday? < http://news.change.org/stories/a-taiwanese-take-on-meatless-monday > →台湾の週一ベジタリアン運動を報じた記事.
10)	FOCUS TAIWAN : Taiwan earns five Hero Awards at U.N. climate conference < http://focustaiwan.tw/ShowNews/WebNews_Detail.aspx?Type=aALL&ID=201112120025 > →台湾の週一ベジタリアン運動を報じた記事.
11)	Center for Livable Future : < http://www.livablefutureblog.com/2010/11/meatless-monday-launches-at-johns-hopkins-university > →Meatless Monday が Johns Hopkins 大学で取組まれ始めたことを書いたブログ.

2-3 EVA に対する問い合わせと現地調査

本研究で対象とする EVA に関しては、直接連絡を取り合い、インターネット上の情報からでは不明な部分に関して問い合わせを行い、明らかにしていく。EVA の連絡先は HP に記載されている連絡先を利用する。またゲント市における Donderdag Veggiedag の様子を把握し、インターネット上では入手できない資料を入手するために現地調査を実施する。現地調査は 2011 年 8 月 24 日から 9 月 1 日の期間で実施した。下記に現地調査の行程及び現地で購入した資料と EVA の HP 等から入手した資料を表 2-3 と表 2-4 に示す。

[現地調査の行程]

2011 年 8 月

24 日 : Leenaert 氏へのヒアリング調査

25 日 : EVA のオフィス内を見学と Leenaert 氏へのヒアリング調査

26 日 : Leenaert 氏へのヒアリング調査とアントワープ市内のベジタリアンショップの調査

31 日 : Leenaert 氏へのヒアリング調査と資料収集

2011 年 9 月

1 日 : Donderdag Veggiedag に参加しているレストランの調査

表 2-3 現地で入手した EVA の資料一覧

	現地で入手した資料
1)	EVA magazine vol.7 から vol.43 →EVA が 3 カ月に一度出している雑誌のデータ.
2)	Veggie voor Chefs →EVA がレストランのシェフ向けに出しているベジタリアン料理のレシピ本.
3)	Donderdag Veggiedag GIDS →Donderdag Veggiedag が紹介されているパンフレット.
4)	Veggieplan Gent →アントワープ市内のベジタリアンレストランやショップが載せられているマップ.
5)	Veggieplan Brussel →ブリュッセル市内のベジタリアンレストランやショップが載せられているマップ.
6)	Xixi Zhao : Is Social Marketing Effective? ---- A Case Study of Gent Veggie Day, Faculty of Business and Economics (2011) →EVA の Donderdag Veggiedag のソーシャル・マーケティング効果を研究した論文.
7)	Yuko Tamaru : Promoting Less Meat Consumption for Environmental Sustainability -The Case of “Donderdag Veggiedag” of Ghent, Belgium- (2010) →EVA の Donderdag Veggiedag で行われている手法の効果を研究した論文.
8)	Tobias Leenaert : Meat moderation: a challenge for government and civil society -Case study: the Thursday Veggie Day campaign in Ghent, Belgium- →Leenaert 氏が EVA の活動について書いた資料.
9)	EVA : Thursday Veggieday (2011) →Donderdag Veggiedag の認知度を調べたアンケート調査の結果.
10)	Veerle Vrindts : “Searching for the missing piece of empathy” -Tobias Leenaert about vegan cats, tasteless politicians and the psychology of meat-, Crucially Different Lives (2009) →Leenaert 氏のインタビュー記事.

表 2-4 EVA の HP 等から入手した資料の一覧

EVA の HP 等から入手した資料	
1)	Beleidsplan2005-2009 →EVA がフランダース州政府に助成金を申請する際に作成した計画書.
2)	Beleidsplan2011-2015 →EVA がフランダース州政府に助成金を申請する際に作成した計画書.
3)	Tobias Leenaert : Making Meat Moderation Marketable -the case for a weekly vegetarian day-, EVA →Leenaert 氏が Donderdag Veggiedag について書いた資料.
4)	Stad Gent : 1 year Thursday Veggie Day: for the Ghent citizens (2010) →市民における Donderdag Veggiedag の実施状況について書かれたアントワープ市側の資料.
5)	Stad Gent : 1 year Thursday Veggie Day: in the Ghent schools (2010) →学校における Donderdag Veggiedag の実施状況について書かれたアントワープ市側の資料.
6)	Stad Gent : 1 year Thursday Veggie Day: in the Ghent horeca (2010) →ホスピタリティ業界における Donderdag Veggiedag の実施状況について書かれたアントワープ市側の資料.
7)	Stad Gent : 1 year Thursday Veggie Day: in the City of Ghent (2010) →アントワープ市における Donderdag Veggiedag の実施状況について書かれたアントワープ市側の資料.
8)	Stad Gent : Thursday Veggie Day in Ghent – detailed information (2010) →Donderdag Veggiedag に対する行政の協力体制やキャンペーンに対する評価ポイント等が書かれたアントワープ市側の資料(2010 年度版).
9)	Stad Gent : Thursday Veggie Day in Ghent – detailed information (2011) →Donderdag Veggiedag に対する行政の協力体制やキャンペーンに対する評価ポイント等が書かれたアントワープ市側の資料(2011 年度版).

2-4 調査の過程及び分析方法

調査からその分析に至るまでの過程を下記に示す。

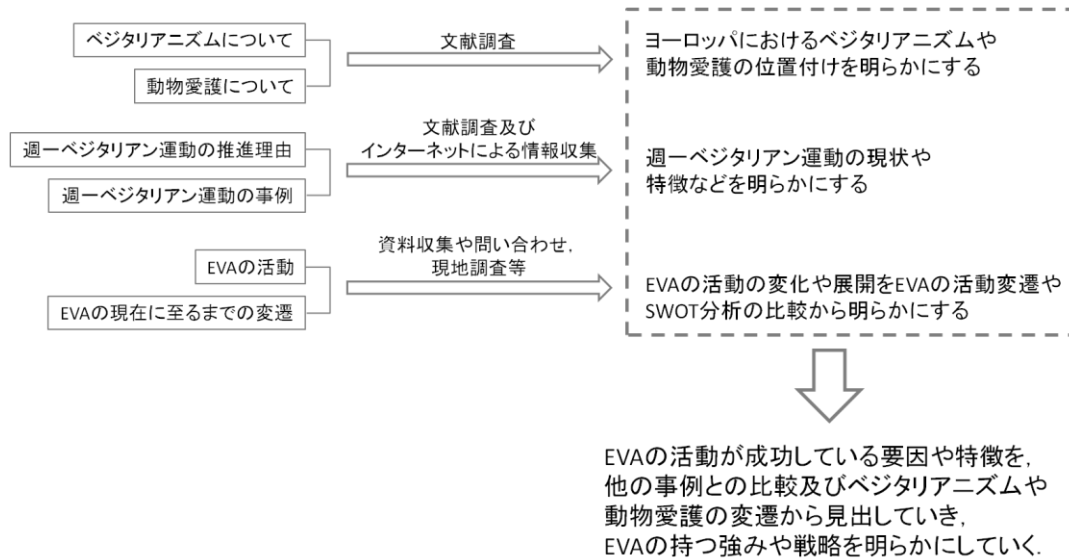


図 2-1 本研究の調査と分析の流れ

まず週一ベジタリアン運動に深く関わっているベジタリアニズムと動物愛護の思想がどの時代から存在し、またどのような変遷をたどってきたのかを明らかにするために、ベジタリアニズムと動物愛護について書かれた文献を収集する。

次に週一ベジタリアン運動で主張されている「畜産業における環境負荷の削減」や「畜産業における家畜動物の福祉向上」、「畜産製品の過剰摂取による健康問題」に関する文献を収集し、畜産業が発生させる問題は現在どういったものがあるのか、また畜産業が与える影響はどの程度のものかを明らかにしていく。

そして国内外における週一ベジタリアン運動の状況をインターネットで調べ、どの国で週一ベジタリアン運動が行われているのか、またそれはどの程度の運動がされているのかについて明らかにしていく。国内の事例については、より詳しい情報を得るためにヒアリング調査を実施する。本研究では、先に述べたように 2 つの団体に対してヒアリング調査を実施した。国内外の事例を把握することで、他の事例に見られない EVA の特徴等を明らかにする材料としていく。

EVA に関しては、EVA の HP や資料、問い合わせや現地調査から情報を収集する。収集した資料は表 2-3、表 2-4 で示している。そして本研究で分析に使用した資料を表 2-5 に示す。

表 2-5 分析に使用した資料の一覧

分析に使用した資料	
1)	Xixi Zhao : Is Social Marketing Effective? ---- A Case Study of Gent Veggie Day, Faculty of Business and Economics →EVA の Donderdag Veggiedag のソーシャル・マーケティング効果を研究した論文.
2)	Yuko Tamaru : Promoting Less Meat Consumption for Environmental Sustainability -The Case of “Donderdag Veggiedag” of Ghent, Belgium- →EVA の Donderdag Veggiedag で行われている手法の効果を研究した論文.
3)	Tobias Leenaert : Meat moderation: a challenge for government and civil society -Case study: the Thursday Veggie Day campaign in Ghent, Belgium- →Leenaert 氏が EVA の活動について書いた資料.
4)	EVA : Thursday Veggieday (2011) →Donderdag Veggiedag の認知度を調べたアンケート調査の結果.
5)	Veerle Vrindts : “Searching for the missing piece of empathy” -Tobias Leenaert about vegan cats, tasteless politicians and the psychology of meat-, Crucially Different Lives (2009) →Leenaert 氏のインタビュー記事.
6)	EVA : Beleidsplan2005-2009 →EVA がフランドール州政府に助成金を申請する際に作成した計画書.
7)	EVA : Beleidsplan2011-2015 →EVA がフランドール州政府に助成金を申請する際に作成した計画書.
8)	Tobias Leenaert : Making Meat Moderation Marketable -the case for a weekly vegetarian day-, EVA →Leenaert 氏が Donderdag Veggiedag に関する資料.
9)	Stad Gent : 1 year Thursday Veggie Day: for the Ghent citizens (2010) →市民における Donderdag Veggiedag の実施状況に関するアント市側の資料.
10)	Stad Gent : 1 year Thursday Veggie Day: in the Ghent schools (2010) →学校における Donderdag Veggiedag の実施状況に関するアント市側の資料.
11)	Stad Gent : 1 year Thursday Veggie Day: in the Ghent horeca (2010) →ホスピタリティ業界における Donderdag Veggiedag の実施状況に関するアント市側の資料.
12)	Stad Gent : 1 year Thursday Veggie Day: in the City of Ghent (2010) →アント市における Donderdag Veggiedag の実施状況に関するアント市側の資料.
13)	Stad Gent : Thursday Veggie Day in Ghent - detailed information (2010) →Donderdag Veggiedag への行政の協力体制やキャンペーンの評価ポイント等が書かれたアント市側の資料(2010 年度版).
14)	Stad Gent : Thursday Veggie Day in Ghent - detailed information (2011) →Donderdag Veggiedag への行政の協力体制やキャンペーンの評価ポイント等が書かれたアント市側の資料(2011 年度版).

現地調査で入手した EVA magazine については vol.7 から vol.43 までのデータがそろっており、十分な分析対象となり得たが、全てがオランダ語で書かれており、解釈の違いが起こる可能性が高いことと翻訳する量が膨大になるため、今回の調査では分析の対象から除外した。EVA の活動については、主に EVA の HP から情報を収集し、年表にまとめる作業を行う。また EVA の HP はオランダ語で書かれているため、その翻訳作業も同時に行っていく。本研究では、まずインターネット上の翻訳機能を用い、オランダ語から英語に訳し、誤訳の有無を確かめてから、日本語に翻訳する方法をとった。EVA の活動目的や EVA の会員数等の詳細については、直接 EVA に対して問い合わせを行い、明らかにしていく。EVA が設立されるまでの話や活動の方向性については、ディレクターである Leenaert 氏のインタビューが載せられている「“Searching for the missing piece of empathy” -Tobias Leenaert about vegan cats, tasteless politicians and the psychology of meat-」の内容や、本研究で行った Leenaert 氏へのヒアリング調査から読み取っていく。また Donderdag Veggiedag に対する行政の取り組みや考えについては、行政側の資料である表 2-3 の 9)から 14)の内容から読み取っていく。

EVA の HP や資料等から収集した情報により、EVA の活動変遷をたどり、図 2-2 のような関係図を作成し、その変化がより明確になるようにしていく。

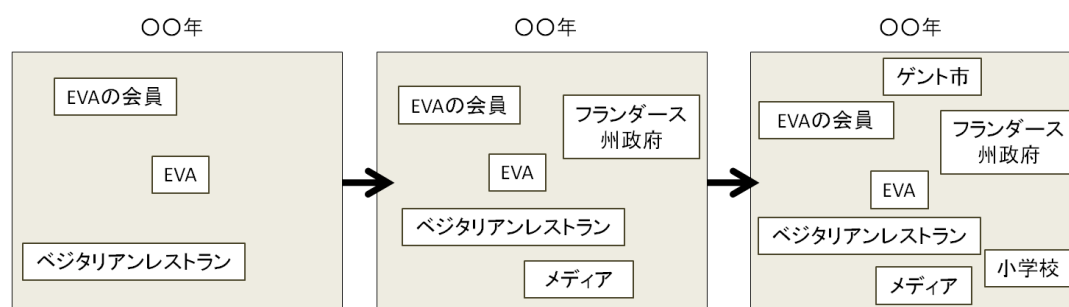


図 2-2 EVA の変遷を表した関係図のイメージ

次に EVA の方向性や活動の変化を見るために、EVA がフランダース州政府の助成金を申請する際に提出した「Beleidsplan 2005-2009」及び「Beleidsplan2011-2015」を分析に用いる。表 2-6 及び表 2-7 は Beleidsplan の目次である。

表 2-6-① Beleidsplan2005-2009 の目次

Beleidsplan2005-2009		
p	contents	inhoud
8	Introduction	Inleiding
9	Vision	Visie
13	Situation sketch	Situatieschets
24	SWOT analysis	Sterkte-xwakte analyse

表 2-6-② Beleidsplan2005-2009 の目次

Beleidsplan2005-2009		
33	Strategic and operational objectives, actions and indicators	Strategische en operationele doelstellingen, acties en indicatoren
56	Personal and financial plan	Personeelsplan en financieel plan
61	Drafting history	Ontstaansgeschiedenis
64	Assesment criteria to the decree	Toetsing aan de decretale criteria
72	Appendixes	Bijlagen

表 2-7 Beleidsplan2011-2015 の目次

Beleidsplan2011-2015		
p	contents	inhoud
5	Thank	Een Dankuwel
7	Introduction	inleiding
9	Mission and Vision	Missie en visie
11	Situation sketch	Situatieschets
17	Environmental analysis	Omgevingsanalyse
23	Strategic and operational objectives	Strategische en operationele doelstellingen
41	Personal and financial plan	Personeelsplan en Financieel plan
43	Assesment criteria to the decree	Toetsing aan de decretale criteria
53	On the realization of this policy	Over het tot stand komen van dit beleidsplan

本研究では、Beleidsplan の中に記載されている SWOT 分析に着目し、この二つの期間における共通点や相違点を探り、EVA の内部や外部に対する認識の変化や環境の変化等を読み取っていく。SWOT 分析を選択した理由は、Beleidsplan2005-2009 及び Beleidsplan2011-2015 の両方で SWOT 分析が行われているため、その変化から EVA の認識や環境の変化を確認しやすいからである。分析の過程においては、まず図 2-3 のように SWOT 分析の図化を行い、次にそれを比較し変化を読み取る作業を行っていく。また Beleidsplan についても、オランダ語で記述されているので、その翻訳作業も同時に行う。

	内部環境	外部環境
良影響	Strengths(強み)	Opportunities(機会)
悪影響	Weaknesses(弱み)	Threats(脅威)

図 2-3 SWOT 分析を図化したイメージ

これらの方法により，EVA の活動変遷をたどり，その中で見られる EVA の活動における特徴や強みを明らかにしていく．

第三章 週一ベジタリアン運動の現状とその思想的背景

3-1 週一ベジタリアン運動の思想的背景について

週一ベジタリアン運動は名前から分かる通り、ベジタリアニズムと大きく関わっている。ベジタリアンとは、動物性食品を避け、穀物、豆腐、種実、野菜果物などの植物性食品を中心に摂る人々を指し、ベジタリアニズムは健康や道徳、宗教などの理由から植物性食品を中心に摂取する思想や主義を指している¹⁾。ベジタリアニズムを選択する人々の多くは、動物愛護という観点からベジタリアンとなっていることが多い。本項ではその「ベジタリアニズム」と「動物愛護」の二つの思想について、歴史変遷を交えながら説明していく。

3-1-1 ベジタリアニズム(Vegetarianism)について

日本ではあまり馴染みのないベジタリアニズムであるが、欧米のように様々な人種や宗教が混在するところにおいては、宗教や思想的理由によりベジタリアンとなる人が多く存在するため、レストランにおいてベジタリアンメニューが用意されていることは珍しくない。ただベジタリアンといっても、その中には様々な種類が存在し、それは摂取できる食品によって分けられている。表 3-1 はベジタリアンの種類別に摂取できる食品を表したものである。

表 3-1 vegetarian の種類と摂取する動物性食品³⁾

	摂取する動物性食品				
	肉類	鶏類	魚介類	乳製品	卵
vegan	×	×	×	×	×
lacto-vegetarian	×	×	×	○	×
ovo-vegetarian	×	×	×	×	○
lacto-ovo-vegetarian	×	×	×	○	○
pesco-vegetarian	×	×	○	×	×
pollo-vegetarian	×	○	×	×	×
macrobiotic	×	×	△	×	△

○: 摂取する △: 摂取することが認められている ×: 摂取しない

出典：近藤みゆき：マクロビオティックについて，名古屋文理短期大学紀要，26，p.45（2001）

この表を見ても分かるように、ベジタリアンにもいくつかの種類が存在し、卵製品を摂取することができる lacto-ovo-vegetarian(ラクト・オボ・ベジタリアン)や肉類や乳製品といった動物に由来する畜産製品全てを摂取することのできない vegan(ヴィーガン)まで、細かく分けられている。

ベジタリアニズムの考えを持ち、その思想に沿った生活を送る理由は人それぞれ異なっており、健康面を気遣いベジタリアンとなる人もいれば、環境問題や動物愛護問題といった社会問題に関心を持ち、その考えからベジタリアンになる者もいる。また宗教的な理由

からベジタリアンになる者もいて、その例としてヒンドゥー教(Hinduism)が挙げられる。ヒンドゥー教では、乳製品の摂取は行われるが、肉食は避けられており、社会的地位の高い人ほどその傾向にあるという⁴⁾。

表 3-2 ベジタリアニズムの変遷²⁾

年代	ベジタリアニズムに関する動き
紀元前 6 世紀頃	ベジタリアニズムの思想が現れる
1800 年代中頃	ベジタリアニズムと社会運動の結び付いて現れる
1847 年	最初のベジタリアン協会がイギリスに設立
1850 年	アメリカンベジタリアンの設立
1920 年代初頭	野菜や果実、ベジタリアン食に対する評価の高まり
1950 年代	ベジタリアン食が健康面で評価され始める
1970 年代	人々が食物の品質を意識し始める
	アメリカとイギリスにおける動物愛護運動
	環境とベジタリアニズムの繋がり
1971 年	Diet for the Small Planet の中で著者が肉食の無能さを主張
1980 年代	健康に関する研究が、ベジタリアニズムへの関心を高めた
1990 年代	ヴィーガニズムの支持者も増加
1944 年	最初のヴィーガン協会が設立

ベジタリアニズムは東のジャイニズムと西のピタゴリアニズムの二つの古代世界の哲学に起因するとされている。ジャイニズムでは不殺生を教義で重要視しているため、肉全般、魚介類全般、卵、野菜類、ハチミツを口にすることを禁止している。一方、ピタゴリアニズムは哲学者のピタゴラスの考えに基づいており、肉食を断つように説いている。

ベジタリアニズムが社会運動と結び付いて現れたのは、19 世紀の中頃のイギリスやドイツ、オランダ、アメリカからである。「vegetarian (ベジタリアン)」という言葉が生まれたのは 1842 年のイギリスで、その後、世界で初めてのベジタリアン協会である英国ベジタリアン協会が 1847 年にイギリスで設立され、vegetarian という言葉が一般化した⁵⁾。この協会は「人間の生きるためや幸福のために感情のある生き物を殺すことは生物学的に必要でもないし、道徳的にも受け入れられない」という理由から設立された。その後、1850 年にはアメリカでベジタリアン協会が設立された。この頃は動物愛護や動物保護という道徳的な観点からベジタリアニズムが推進されていた。1900 年代以降は、週一ベジタリアン運動でも主張されている環境や動物愛護、健康面でのメリットからベジタリアニズムが注目を集めるようになっている。

まず健康面において、1920 年代初頭に、ビタミンの発見に関して野菜や果実への評価が高まり、さらに 1950 年代には、ベジタリアン食の健康への利益が研究によって確認された。

1970 年代には、多くの人々が食物について除草剤や化学物質、細菌の汚染物質など、特に肉に含まれるものに関して意識し始めた。またヨーロッパでの BSE や口蹄疫の発生により、さらに人々は肉の安全を懸念し始めた。1980、1990 年代には健康に関する研究が数多く行われ、ベジタリアニズムへの関心を高める手助けをした。

次に、ベジタリアニズムを推進した要因として、1970 年代のアメリカとイギリスにおける動物愛護運動が挙げられる。現代的な動物愛護運動は、動物達の暮らす環境に異議を唱え、その扱いを防ぐ意味でベジタリアニズムを推進していた。このような現代の動物愛護運動におけるベジタリアニズムの発展に影響を与えたのが、動物実験や工場畜産に異議を唱える Peter Singer や Tom Regan, Carol Adams といえる。

一方、1980、1990 年代にヴィーガニズムの支持も増えていた。酪農製品に対する反対が始まったのは 19 世紀の初頭であるが、初めてのヴィーガン協会が設立されたのは 1944 年のイギリスであった。

1970 年代初頭、環境への議論は多くの人々をベジタリアン食に結び付ける重要な動機となった。1971 年に出版された *Diet for the Small Planet* の中で、著者の Frances Moore Lappe は人間に戻ってくる栄養の割合は、動物に投入した栄養よりもかなり少ないとして、肉食の無能さを主張した。その他にも環境の面から肉食を批評したユニークな本として、Jermy Rifkin の *Beyond Beef*, Howard Lyman の *Mad Cowboy*, John Robins の *Diet for a New America* と *The Food Revolution* が挙げられる。

これらのことから、ベジタリアニズムは動物愛護や動物保護といった道徳的観点から注目をされ始め、その後、環境や健康といった面からも注目を集めていることが分かる。

次項ではベジタリアニズムと深い関わりのある動物愛護運動の歴史について説明していく。

3-1-2 動物愛護運動について

現在、動物の権利主張や動物に対する倫理的な扱いを求めるような動物愛護運動は世界各地、特にヨーロッパで活発に行われるようになっている。代表的なものでいえば、WWF(World Wide Fund for Nature : 世界自然保護基金)⁶⁾や WSPA(World Society for the Protection of Animals : 世界動物保護協会)⁷⁾であり、これらの団体は世界のあらゆるところに支部を持っており、その活動は巨大なものとなっている。藤井(2007)⁸⁾によれば現代における動物倫理は表 3-3 のように分類できるとしている。

表 3-3 現代の動物倫理⁸⁾

動物の保護	}	⇒ 動物愛護
動物の福祉		
動物の権利(純粋な権理論)	}	⇒ 動物の権利(広義)
動物の解放		
生命共同体を重視した立場		
生命中心主義的な立場		

動物の存在自体を保護するものや家畜動物などの福祉向上を主張するものなど、活動内容やその名前が異なっていたとしても「動物を護る」という考えはそれらの活動に共通している部分である。現在では表 3-3 のように様々な種類がみられる動物倫理であるが、動物愛護の思想は紀元前の古代ギリシャの哲学者にまでさかのぼることが出来る。古代ギリシャの哲学者ピタゴラスは「人間も動物も同種の魂を持っている。この魂は火と水からできていて不滅で、人間から動物、あるいは人間にと次々に肉体を得て移り棲む。」と言っており、輪廻転生の思想を持っており、自身でも菜食主義を守り、また肉食は魂と体の両方に害があると言って、他人にも菜食を進めた⁹⁾。しかし、一方ではアリストテレスが「自然は動物を人間のためにつくった」と述べており、人間優位の動物観の基礎を築いていたのも事実である¹⁰⁾。後に出てくる哲学者により様々な思想が提唱された。イギリスの哲学者、経済学者、法学者であり、また功利主義を唱えたことで有名なジュレミー・ベンサム(Jeremy Bentham)は *An Introduction to the Principle of Morals and Legislation*(1789)の中で、動物に対して、苦痛を与えない道徳的な配慮を払うよう、法律で保護するべきであると主張したイギリスの社会改革者である¹¹⁾¹³⁾。また動物の権利を提唱していたヘンリー・ソールト(Henry Salt)は *Animals' Rights*(1892 年)の中で、人間と動物を全く別のものとする従来までの動物観に対して意義を唱え、動物たちの生きる権利と、人間から優しく扱われる権利があるということを主張している¹¹⁾¹³⁾。その後、これらの思想は後の哲学者達にも影響を与えた。哲学者、倫理学者であり、またベジタリアンでもあったピーター・シンガー(Peter Singer)は *Animal Liberation*(1975)の中で、動物に対しても人間と同様な倫理的配慮がされるべきであると主張している¹⁴⁾。しかし、一方で動物利用が多くの人々の利となる場合、動物の苦痛を最小限にとどめる配慮をした上でなら、動物を利用するのもやむを得ないともしている。アメリカの哲学者トム・レーガン(Tom Regan)はシンガーとは少し違った見解を示しており、*The Case for Animal Rights*(1983)の中で、全ての動物は「生命の主体」(Subject of Life)であり、その生命を全うする固有の権利を持つのであるから、人間はいかなる目的であろうとも動物を利用してはならない、としている¹⁴⁾。

哲学者によりその思想は異なるが、現在の動物の権利に理論的根拠を与えたのはベンサムが「道徳および立法の諸原理序説」の中で確立させた功利主義思想である¹¹⁾。功利主義

とは、行為の善悪の基準を理性や客観的な真理ではなく、それが喜びや苦痛といった基準で判断するというものである。ベンサムは苦しみを感じることができる動物も人間と同様に、平等な道徳的配慮を受ける権利があるとし、その権利は法律で護らなければならないと主張している。ベンサムの動物観は現代の動物の権利運動の理論的根拠となっているのである¹¹⁾。

様々な哲学者によって唱えられた動物保護であるが、近代的な動物保護の思想が芽生え、普及したのはイギリスが始まりである¹²⁾。そして、動物保護が法律によって整備され始めたのは1800年代初頭である。その始まりはイギリスの「マーチン法(家畜の虐待及び不当な取り扱いを防止する法律：An act to Prevent the Cruel and Improper Treatment of Cattle)」で、この法律では家畜への過剰労働や虐待といった人間の家畜に対する扱いに対して異議を唱えている。その後、イギリスを中心にアメリカや国際機関等で動物保護に関する法律の整備が進み、現在では動物保護という考えが一般化し、動物愛護や動物保護、動物の権利などに関する分野で活動するNPOやNGOが多く存在するようになっている。表3-4では動物保護に関する法律の整備の変遷を年表で表している。

表 3-4-① 動物保護に関する法律の変遷¹⁵⁾

地名及び 機関名	年	名称
	1700 初期	ペットを飼うということが広まり始める
イギリス	1822	家畜の虐待及び不当な取り扱いを防止する法律(マーチン法) (1835 年改正)
イギリス	1824	「動物虐待防止協会(SPCA)」設立 (1840 年, RSPCA となる)
イギリス	1849	「動物虐待のより効果的な防止のための法律」に改正
アメリカ	1866	アメリカ初の動物保護団体 American Society for the Prevention of Cruelty to Animals が設立
イギリス	1876	「動物虐待防止法」(動物実験の規制を追加)
イギリス	1877	「黒馬物語」(スーエル)刊行、ただちに各国で翻訳
イギリス	1911	「動物保護法」 (1954 年に大改正, 1988 年改正)
世界宣言	1948	「世界人権宣言」
イギリス	1951	「ペット動物法」 (販売規制)
イギリス	1959	刑法で動物虐待罪
イギリス	1964	「アニマル・マシーン」(ハリソン)―集約畜産の問題を指摘した最初の本
国際機関・ 学会等	1964	「ヘルシンキ宣言」(世界医師会総会)
国際機関・ 学会等	1964	人体実験、動物実験における倫理と福祉を規定

表 3-4-② 動物保護に関する法律の変遷¹⁵⁾

地名及び 機関名	年	名称
イギリス	1965	ブランベルレポートで畜産動物の福祉原則「5つの自由」を提唱
	1967	Peter Roberts が Compassion in World Farming を設立
欧州協議会 協定	1968	「国境を越えた輸送における動物保護のための欧州協定」 No.65
国際機関・ 学会等	1968	「家畜福祉の5つの原則」(イギリス・ブランベル委員会)
	1970年代 以降	animal welfare と animal rights の二つのカテゴリーに分けられ始める
欧州協議会 協定	1976	「畜産目的で飼育される動物の保護のための欧州協定」 No.87
世界宣言	1978	「動物の権利の世界宣言」(ユネスコ本部, パリ)
欧州協議会 協定	1979	「屠殺される動物の保護のための欧州協定」 No.102
国際機関・ 学会等	1980	WHO(世界保健機構)が動物実験の代替法推進を提唱
イギリス	1981	「動物園免許法」「動物園業務基準」
世界宣言	1981	「食物倫理に関する世界宣言」
イギリス	1986	「動物(科学的処置)法」(動物実験規制法)
EU	1986	指令：動物実験
欧州協議会 協定	1986	「実験その他科学的目的に使用される脊椎動物の保護のための欧州協定」 No.123
イギリス	1987	動物実験規則
欧州協議会 協定	1987	「ペット動物の保護に関する欧州協定」 No.125
EU	1988	指令：畜産動物
世界宣言	1989	「動物の権利の世界宣言」改訂版(ユネスコ本部, パリ)
欧州協議会 協定	1992	畜産目的で飼育される動物の保護のための欧州協定の修正」 No.145
イタリア	1993	「動物実験の良心的拒否に関する法律」
イギリス	1994	「動物園業務基準」に「鯨類の飼育基準」を追加
EU	1995	指令：動物の輸送
イギリス	1996	「野生ほ乳類保護法」

表 3-4-③ 動物保護に関する法律の変遷¹⁵⁾

地名及び 機関名	年	名称
欧州協議会 協定	1997	新欧州連合条約(アムステルダム条約)動物福祉議定書
EU	1999	指令：動物園(2002 年施行)
EU	1999	動物園を許認可制とし、基準を定め、査察、改善命令、閉鎖命令を出す
国際機関・ 学会等	1999	「ボロニア宣言」(世界動物実験代替法学会)
世界宣言	2001	「大型類人猿の権利宣言」
イギリス	2002	「動物園免許法」改正
イギリス	2002	「動物実験反対連盟」発足(初代会長はビクトル・ユゴー)
イタリア	2003	「動物保護法」

出典をもとに著者が作成

出典：ALIVE：各国における動物保護の主な法制度の歴史

<<http://www.alive-net.net/law/kaigai/wlaw-history.html>>，2011-6-19

動物保護に関する法律が整備され始めた 1800 年代では、マーチン法や動物虐待防止法といった動物の虐待を防止するための法律が多くみられることより、この頃は人々の動物に対する扱いがひどかったものと予想できる。一方、近年では、動物の福祉向上に関する法律が取り上げられ始めていることより、人々の動物に対する考えや扱い方が変化してきていることが分かる。

3-1-3 思想的背景からみえる週一ベジタリアン運動

宗教や環境配慮といった様々な理由から選択されるベジタリアニズムであるが、「ベジタリアン(Vegetarian)」という言葉が作られたのは、今から約 170 年前のことであり、またベジタリアン運動が現れたのも同時期であることから、「ベジタリアン」という言葉及び「ベジタリアン運動」の歴史はまだ浅い。一方で、動物愛護の思想は紀元前の哲学者にも見ることができ、その歴史は長いといえる。動物に対する人間の接し方に意義を唱えていた哲学者の多くは、「肉食をしない」生活を送っており、現在の「ベジタリアニズム」と近い考えを持っていた。現在でも動物愛護の視点からベジタリアンになる人は多い。またベジタリアン運動は動物愛護から始まっており、これらのことから動物愛護の思想とベジタリアニズムは深く関わり合っているといえる。このことより、「ベジタリアン」は言葉としての歴史は浅いものの、その思想は動物愛護と同様に長い歴史を持つと考えられる。

近代的な動物愛護の思想はイギリスから始まっており、その後近隣のヨーロッパ諸国にその思想が広まっていったと考えられる。現在においても、ヨーロッパは動物福祉(愛護)

に関する法的整備を他の地域よりも積極的に進めている。これらのことから、ヨーロッパは長い動物愛護の歴史を持っており、またその考えに賛同する人も多く存在すると考えられる。

このように長い動物愛護の歴史を持ち、また動物愛護に対する理解があるヨーロッパにおいて、動物愛護の視点からベジタリアニズムを選択する人は多いと考えられ、週一ベジタリアン運動に対して賛同する人も多いと予想できる。このようなヨーロッパにおける動物愛護の長い歴史が、Donderdag Veggiedag を成功させている一要因として考えられる。

3-2 週一ベジタリアン運動とその推進理由

3-2-1 週一ベジタリアン運動とは

本研究で対象としている週一ベジタリアン運動とは、週 7 日のうち 1 日だけベジタリアンになることで、畜産製品の消費を減らすということを目的としたキャンペーンである。近年、畜産製品の消費増加が世界的な問題となっており、今後も途上国の人口増加に伴って更なる畜産製品の消費増加が予想されている。図 3-1 は一人当たりの肉消費量の推移を国別に表したものである。図 3-1 のグラフ中で示しているイギリス、ドイツ、アメリカ、中国、日本、そして世界平均の中で、肉の消費量が減少しているのはドイツのみで、中国に関しては 1961 年から 2001 年にかけて約 13 倍も肉の消費量が増加している。

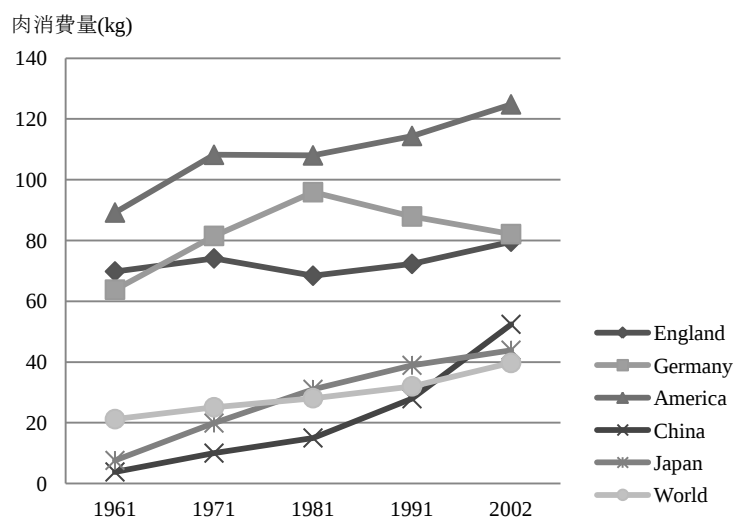


図 3-1 各国における一人あたり肉消費量の推移¹⁶⁾

出典もとより著者が作成

出典：World Resources Institute：Meat Consumption: Per capita

<http://earthtrends.wri.org/searchable_db/index.php?theme=8&variable_ID=193&action=select_countries>，2011-11-8

畜産製品の消費増加は様々な問題を生むとして、環境学分野や栄養学分野といった学術的な場から行政まで様々なところで議論が行われている。環境的な面では、畜産業の生産過程において発生する大量の二酸化炭素やメタン等の温室効果ガス(以降、GHG)やエネルギーの過剰投入が問題とされている。一方、動物福祉の面からは、生産の効率性を向上させるために、ほとんど身動きの取れない場所で飼育されていたり、飼育されている空間の衛生状態に問題があったりと、生産の効率性だけを重視する飼育方法が問題視されている。そして近年、畜産製品を中心とする脂質の多い食事や糖分の過剰摂取が原因として起こる糖尿病や肥満などの健康問題も、アメリカをはじめとする多くの国で懸念されており、その対策が急がれている。

次項からは、週一ベジタリアン運動がキャンペーンを行うメリットとして挙げている「畜産業における環境負荷の軽減」、「畜産業における家畜動物の福祉向上」、「畜産製品の過剰摂取による健康問題の改善」について説明していく。

3-2-2 畜産業における環境負荷の軽減¹⁷⁾

週一ベジタリアン運動では畜産業における環境負荷の削減をキャンペーンのメリットとして挙げている。本項では畜産業がもたらす環境負荷について説明していく。まず地球温暖化と畜産業の関係については、FAO が 2006 年に発表した「Livestock's Long Shadow」の中でその問題が指摘されている。FAO はこのレポートの中で、GHG の世界年間総排出量の 18%、CO₂ 換算値 75 億 1600 万トンが牛、水牛、羊、山羊、ラクダ、馬、家禽類に起因すると発表した。この数値は、家畜の放牧や飼料生産のための土地開拓、家畜の飼養、最終畜産製品の加工・輸送に伴う GHG 排出量をそれぞれ換算したものである。また FAO は人為的メタン排出のうち 37%が家畜に起因するとみており、GWP(Global Warming Potential：地球温暖化係数)値 23 で算出された CO₂ 換算値は 23 億 6900 万トンにも上る。これは GHG の世界総排出量の 3.7%に相当する。GHG 排出の他に畜産業がもたらす環境負荷は、エネルギーの過剰投入や水の汚染等である。牛や豚といった家畜を飼育するためには広大な土地と大量の水、そして穀物が必要となってくる。現在、家畜放牧に世界の陸地の 26%、家畜を飼育するための飼料生産に可耕地の 33%を使用しているのである。家畜に投入される穀物量は、精肉 1kg を生産する場合、牛肉で約 11kg、豚肉で約 7kg、鶏肉で約 4kg の穀物(とうもろこし換算)が必要と言われている。その量は畜産製品の消費とともに増加しており、1961 年時点でその投入量は穀物生産量の 32%を占め、2001 年には 46%へ増加したと推定されている¹⁸⁾。一方、水の場合は精肉を 100g 生産するために、牛肉で約 2 トン、豚肉で約 0.6 トン、鶏肉で約 0.5 トン必要と言われている¹⁹⁾。

また家畜を飼育する段階で発生する水汚染も問題となっている。水汚染は主に家畜のふん尿が原因となって起こる。ふん尿から排出される酸性ガスによる降水や湖沼の酸性化が引き起こされるのである²⁰⁾。また家畜を育てる段階で、成長促進や肉質変換といったことを目的にホルモン剤や抗生物質等の様々な化学物質が投入されており、その化学物質が完

全に分解されずにふん尿とともに排出されたものが河川に流れ、水を汚染するという問題も発生している。

以上のことより、畜産業が地球温暖化や水汚染、エネルギー使用といった様々な環境問題と密接に関係していることがうかがえる。

3-2-3 畜産業における家畜動物の福祉向上

肉をはじめ畜産製品の消費増加に伴い、その生産性を高めるために、家畜の飼育や加工方法がとても機械的なものにされており、動物福祉の面からその機械的な生産方法が問題視されている。例えば、成長のスピードや脂肪の蓄積を早めるためにホルモン剤が投与されたり、図 3-2 のようにほとんど身動きが取れない空間しか与えられていなかったりと、家畜にとってストレスになるような飼育環境となっている。このような環境は家畜にストレスを与えるだけでなく、近年問題となった口蹄疫や鳥インフルエンザ等の感染病が容易に蔓延する状況を作り出しているといえる。



図 3-2 狭く衛生状態の悪い空間で飼育される家畜(右：ブロイラー，左：乳牛)²¹⁾

世界的に動物福祉(Animal Welfare)の問題を主導している団体は OIE(World Organization for Animal Health)であり、OIE はパリに本部を持ち世界中で約 170 カ国の国が加盟している国際的な獣医防疫機関である²²⁾。現在動物福祉の基本として世界中で認められているのが「5つの自由(表 3-5)」であり、これは 1960 年代にイギリス定められたもので、OIE が作成している陸生動物衛生規約におけるアニマルウェルフェアガイドライン原則の中にも明記されている。

表 3-5 動物福祉の基本「5つの自由」²³⁾

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 飢えと渇きからの自由2. 不快からの自由3. 痛み、傷、病気からの自由4. 恐怖や悲しみからの自由5. 通常行動への自由 |
|---|

動物の福祉を達成させるためには、この「5つの自由」を満たすことが必要不可欠とされている。

EUでは早くから動物福祉の向上に対して取り組みを開始しており、1970年代から動物福祉に関する法令が次々と制定され、飼育方法から家畜の輸送に関することまで規定がされている。近年では、ガチョウや鴨に強制餌食をさせその脂肪肝を食べるフォアグラが動物の権利や福祉といった面から問題視されており、その生産自体を禁止している国もヨーロッパ内で見られるようになった。

このように欧米を中心に、消費者や行政の動物福祉に対する問題意識が高まってきているものの、現在、そして今後増加していくと予想される畜産製品の消費に合わせた供給量を保つためには、狭いスペースでより多くの家畜を飼育したり、ホルモン剤を投与したりといった高効率の機械的な生産方法が必要となってくる。週一ベジタリアン運動では、畜産製品自体の消費量を減らすことで、現在の畜産業における機械的な生産方法を緩和していくことを目的としているのである。

3-2-4 畜産製品の過剰摂取による健康問題

現在、世界の多くの国で脂質や糖質の過剰摂取による肥満や糖尿病患者が増加しており社会的な問題となっている。世界的に 20 歳以上の 12%が肥満という結果も 2008 年の WHO の調査で出ている²⁴⁾。図 3-3 は肥満人口の多少を地図上に表したものである。緑が濃くなる程、人口における肥満患者の割合が高いことを示しており、アメリカやエジプト、オーストラリアなどでその肥満患者の割合が高くなっていることが分かる。

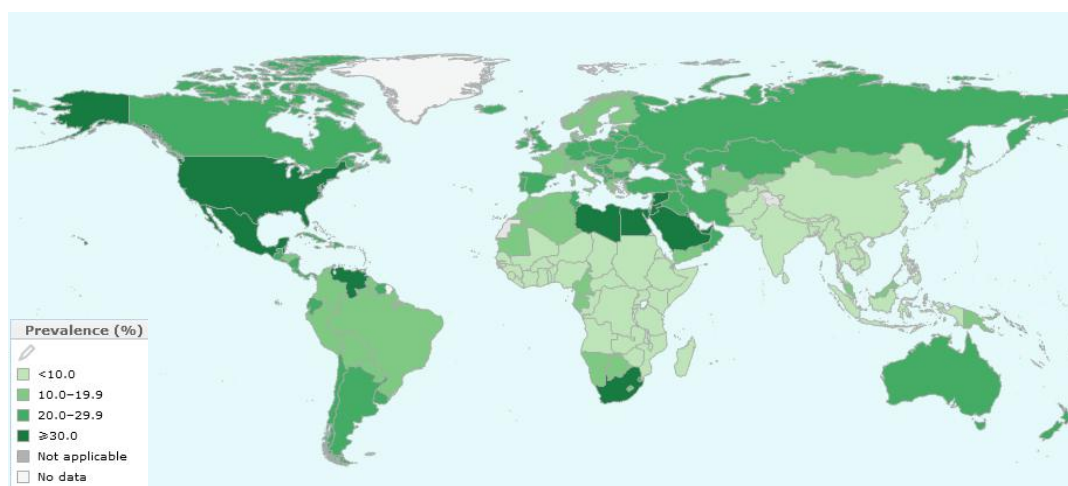


図 3-3 20 歳以上の肥満人口割合²⁴⁾

日本でも近年の食生活の欧米化によって、肥満や糖尿病といったことが社会問題となっている。その変化は子供にも現われており、肥満傾向児の割合が 9 歳から 17 歳の男子では 10%を超えており、女子でも 9.8%と高い値になっており、親世代に比べ 1.5 倍から 2 倍に増えたことが示されている²⁵⁾。この要因には生活時間帯の変化や運動不足等も含まれるが、脂質や糖質を多く含んだ食事をファストフードショップやファミリーレストラン等で手軽に食べられるようになったという食生活の変化も大きく影響していることは確かである。週一ベジタリアン運動では脂質や糖質の多く含んだ畜産製品の摂取を控え、体を健康な状態へ近づけるという目的を持っている。ベジタリアンの食生活は、栄養素的に低エネルギー、低脂肪、低コレステロール、高食物繊維等の特徴を持っており、これらの栄養成分が血中の糖代謝系成分値、糖質系成分値、そして体脂肪等に影響を与えて、種々の疾病を予防することが報告されているという²⁶⁾。しかし、ベジタリアンの食生活では造血や神経機能に関しての機能があるビタミン B12 が不足しがちになり、過度に不足すると神経損傷等を起こす可能性があるため、完全なベジタリアンとしての食生活を行う場合、栄養に関する知識が必要となってくる。

3-2-5 週一ベジタリアン運動の推進理由からみえる運動の特徴

これまで述べたように、週一ベジタリアン運動は動物愛護への貢献や環境問題といった様々な問題の解決策として行われている。ベジタリアンが環境問題や健康問題を解決する策として考えられ始めたのは、地球温暖化や生物多様性の崩壊といった環境問題や糖尿病や肥満といった糖分や脂質の過剰摂取が原因で起こる健康問題が多く取り立たされるようになったこの数十年の間であると予想される。宗教的な理由や個人の思想により選択されてきた「ベジタリアニズム」であるが、最近では、健康や美容のためにベジタリアニズムを選択する人、環境へ配慮してベジタリアンになる人など、理由が様々である。もちろん宗教的な理由により動物製品を避けている人もいるが、ベジタリアニズムを選択する理由が多様化していることも確かである。

週一ベジタリアン運動においては、ベジタリアニズムを選択する理由として大きく「動物愛護への貢献」、「環境問題への配慮」、「健康への配慮」が挙げられているが、その他にも南北格差問題への貢献やベジタリアン料理の美味しさ等も理由として挙げられている。このようにベジタリアニズムを推進する理由が多様であるということは、それぞれ異なるフィールドから協力者や賛同者を得やすいということである。つまり環境問題に関心のある人、動物愛護に関する活動をしている人、自身や家族の健康に問題のある人など、週一ベジタリアン運動を推進する理由として挙げているメリットに対して関心を持つ人の興味を引きやすいということである。これは EVA の Donderdag Veggiedag に限らず、Meatless Monday や Meat Free Monday といった他の事例にも共通して言えることである。これが週一ベジタリアン運動の特徴であり、強みであると考えられる。

3-3 国内外における週一ベジタリアン運動の現状について

週一ベジタリアン運動は、運動の規模は異なるが世界の様々なところで推進されている。本項では、国内外における週一ベジタリアン運動の状況を紹介していく。

3-3-1 日本における週一ベジタリアン運動の状況

日本では「週一ベジタリアン運動」がほとんど知られていないが、運動のコンセプトに賛同し、それを推進しようとしている団体は存在する。「NPO 法人日本ベジタリアン協会」や「東京ヴィーガンズ・クラブ」が週一ベジタリアンを推進する活動を行っており、特に後者の東京ヴィーガンズ・クラブが、週一ベジタリアン運動に関する海外の動きなどを HP 上で発信したり、ベジタリアンを選択するメリットを紹介するなど積極的な情報発信を行っている。



図 3-4 東京ヴィーガンズ・クラブの HP²⁷⁾

出典：東京ヴィーガンズ・クラブ：<<http://vegan.japanteam.net/index.htm>>，2011-1-17

本研究では、日本における週一ベジタリアン運動の状況を把握するために東京ヴィーガンズ・クラブ代表の Y 氏にヒアリング調査を実施した。

[東京ヴィーガンズ・クラブへのヒアリング調査]

対象：東京ヴィーガンズ・クラブ代表の Y 氏

日程：2011 年 11 月 28 日

実施時間：2 時間程度

Y 氏は動物福祉や飢餓問題に対して一番身近に取り組めることが「ベジタリアンになるこ

と」という考えより、10 年程前からベジタリアンの生活を開始し、現在ではヴィーガンとなっている。Y 氏によると海外のレストランではベジタリアン向けのメニューが充実しており、それは格式の高いレストランにおいてより強い傾向があるという。また女優やモデルといった職業に就いている人々が美容のためにベジタリアンになることも多いという。

東京ヴィーガンズ・クラブの活動を始めた理由は、ベジタリアンの情報をまとめた日本語のサイトがなかったため、また海外のベジタリアンに関する情報を発信するためにもサイトの運営を開始したそうである。Y 氏によると、日本において週一ベジタリアン運動はほとんど認知されておらず、また畜産業界の存在も大きいため、なかなかその状況を報道しにくい状況があるという。東京ヴィーガンズ・クラブでは、週一ベジタリアン運動の動きも含め、海外のメディアが報じたベジタリアンに関する記事を収集し、HP 上で発信するという活動を行っている。

東京ヴィーガンズ・クラブへのヒアリング調査より、日本国内における週一ベジタリアン運動の認知度は低いものであり、またそれに関する報道を行うことが困難な状況であることが分かった。そして週一ベジタリアン運動に関する活動を行っている団体も少なく、東京ヴィーガンズ・クラブが週一ベジタリアン運動に関連した情報発信を行っている数少ない団体の一つのようなのである。

一方、ベジタリアニズム自体を推進する団体は国内にもいくつか存在しており、その中でもベジタリアンフェスティバルを開催している「NPO 法人京都ベジタリアンフェスティバル実行委員会」²⁸⁾や「NPO 法人ベジカルチャーネットワーク」²⁹⁾が積極的な活動を行っている団体として挙げられる。これらの団体は、毎年ベジタリアンフェスティバルを開催し、人々がベジタリアン食品に触れる場や知識を深める機会を提供している。

日本においてベジタリアニズムを推進する動きは NPO 等の活動に見られるが、週一ベジタリアン運動に関しては、まだ情報発信を行う程度であり、EVA のように週一ベジタリアン運動を推進するためのアクションを起こすというところまでは至っていない。

3-3-2 海外における週一ベジタリアン運動の状況

次に海外における週一ベジタリアン運動の事例としてアメリカの「Meatless Monday」とイギリスの「Meat Free Monday」、その他の地域で見られる事例について紹介していく。

(1) アメリカ(the United States of America)の事例³⁰⁾³¹⁾

アメリカにおいても週一ベジタリアン運動が行われており、そのキャンペーンは「Meatless Mondays campaign」と呼ばれているものと「Meatout Mondays campaign」である。前者は NPO 法人 The Monday Campaigns の中の一つの活動であり、後者は FARM(Farm Animal Reform Movement)が行っている。The Monday Campaigns は Columbia Mailman School of Public

Health と Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health, Maxwell School at Syracuse が共同で運営しており, Meatless Monday 以外にも, 運動を推進する「Man Up Monday」や禁煙を推進する「Quit&Stay Quit Monday」といった健康を推進するキャンペーンを行っている³²⁾. アメリカでは脂質や糖質を多量に含むハンバーガーやポテトフライ等の高カロリー食品が多く消費されており, 肥満問題が国全体の社会問題であり, その対策の一つとして Meatless Monday が推進されている. 現在ではこのキャンペーンが健康や環境問題対策として取り組まれているが, アメリカにおける「Meatless Monday」の歴史は古く, 第一次世界大戦時まで遡る.

第一次世界大戦中, アメリカの FDA(Food and Drug Administration)は“Food Will Win the War,”という言葉掲げ, 市民達に肉や小麦, 砂糖といった生産時にエネルギーを多く必要とする食品の消費を減らすよう求めた. これらの消費を削減することで, アメリカは軍隊をよりサポートでき, また飢えているヨーロッパ人を助けることができた. この動きをより推進するために FDA は「Meatless Monday」と「Wheatless Wednesday」という言葉を造り, vegetarian の料理本や教育パンフレットを含む様々な資料を配布した. このキャンペーンは第二次世界大戦中も数年間復活していた. そして 2003 年には NPO 団体 Meatless Monday が肉消費量を 15%削減する目標を設定し, キャンペーンの推進活動をしている. 現在は戦争のためではなく, 前述したように国民の健康を改善することや環境, 動物福祉といった問題への関心を高めることを目的にこのキャンペーンが行われている.



図 3-5 Meatless Monday のロゴ³¹⁾



図 3-6 Meatless Monday のポスター³¹⁾



図 3-7 John Hopkins 大学で行われたキャンペーン³³⁾

(2)イギリス(the United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland)の事例³⁴⁾

イギリスにおいても 2009 年から Meat Free Monday という週一ベジタリアン運動が行われており、このキャンペーンは元ビートルズの Paul McCartney 氏とその娘達を中心となり推進されている。その他にもオノ・ヨーコをはじめ、様々な有名タレントがこの運動のサポーターとなっている。Meat Free Monday の目的は前項で紹介した Meatless Monday と同様の理由であるが、「Help The Planet」というテーマを掲げていることから環境問題の解決が一番の目的であることがうかがえる。McCartney 氏は環境保護活動家として活動しており、ベジタリアンである。Paul McCartney がベジタリアンの生活を始めたきっかけは、前妻の Linda McCartney 氏の影響があったとされている。Linda McCartney 氏はベジタリアン料理の料理家であり、『Linda McCartney's Home Cooking』や『Linda McCartney's World of Vegetarian Cooking』といったベジタリアン料理のレシピ本を出版し、ベジタリアン冷凍食品の監修も行っていた。Meat Free Monday の特徴は女優の Gwyneth Paltrow や Joanna Lumley などの多くの著名人が賛同し、この運動をサポートしていることと、Paul McCartney 氏の娘である Stella McCartney 氏が、キャンペーンのグッズ等をデザインし販売していることが特徴として挙げられる。



図 3-8 Meat Free Monday のロゴ³⁴⁾

(3)その他の事例

これまでにアメリカの Meatless Monday とイギリスの Meat Free Monday を紹介してきたが、これらの事例以外にも週一ベジタリアンを推進している活動や団体は存在する。

ブラジルのサンパウロ(Sao Paulo, Brazil)では 2009 年の 3 月から週一ベジタリアンを推進する活動が始められており、ドイツのブルーメン(Bremen, Germany)では 2010 年の 1 月から、南アフリカのケープタウン(Cape town, South Africa)でも 2010 年の 4 月から週一ベジタリアン運動が開始されている³⁵⁾。台湾では小学校と中学校を合わせた 635 校の給食において、週一ベジタリアンが実施されている³⁶⁾。これは台湾の教育部(Taiwan's Ministry of Education)が呼び掛けたもので、健康的な食生活の推進と地球温暖化の防止を目的としている。週一ベジタリアン運動の実施といった地球温暖化防止への取り組みが評価され、2011 年の UNFCCC(United Nations Framework Convention on Climate Change：国連機構変動枠組み条約

締約国会議)の COP17 において、NGO 等が行った World Pilot Hero Award の 5 項目の受賞を台湾が果たしている³⁷⁾。

ベルギーの EVA 以外にも世界には週一ベジタリアン運動を推進している事例がいくつか存在している。EVA の Donderdag Veggiedag がオフィシャルキャンペーンとして認められたことが、国内外のメディアに取り上げられ、これらの例に影響を与えたと考えられる。アメリカとイギリスにおいては市民団体が週一ベジタリアン運動を推進しており、台湾では行政が週一ベジタリアン運動を推進している様子であり、その活動形態は様々である。

EVA の活動に見られる特徴や他の団体との違いについては、EVA の活動を述べた後に論じていく。

3-4 第三章のまとめ

第三章ではベジタリアニズムや動物愛護の歴史、ベジタリアニズムの推進理由、そして週一ベジタリアン運動の事例をみてきた。動物愛護という思想は長い歴史を持っており、ベジタリアニズム(vegetarianism)という言葉の誕生は古くないものの、動物愛護の思想から出てきた「動物を護る＝動物の肉を食べない」という発想は、動物愛護の思想と同様に長い歴史を持つと考えられる。特にヨーロッパにおける動物愛護の歴史は長く、このことから動物保護という視点からベジタリアニズムを選択する人、あるいは「動物保護を推進する方法がベジタリアンになることだ」という考えに賛同する人が多いと考えられ、協力者を得やすい環境であることが予想できる。協力者という点では、ベジタリアニズムの推進理由における多様さも協力者を得やすい環境を作り出しているといえる。

週一ベジタリアン運動が推進されている理由が環境や動物愛護、健康問題など多岐にわたっており、協力者や理解者を得やすい環境を作りだしている点は、週一ベジタリアン運動の特徴であり、強さでもあるといえる。またベジタリアン運動にはない「週に一度だけ」という手軽さも週一ベジタリアン運動の大きな強みと言える。

週一ベジタリアン運動の事例で紹介したアメリカでは、推進する理由こそ異なるが、第一次世界大戦から「週に一度のベジタリアン」という発想は存在した。一方、イギリスに関しては、ヨーロッパの中でもより長い動物愛護の歴史を持っている。そのような「週一ベジタリアン運動」が成り立つような歴史的背景を持っている事例が存在する中で、EVA が世界で初めて Donderdag Veggiedag をオフィシャルキャンペーンにまで結び付けられた理由は何なのか。EVA の活動における特徴や強みとは何と言えるのだろうか。次章において EVA の活動を紹介し、設立から現在に至るまでの変遷を追い、その特徴や強みを明らかにしていく。

<参考文献>

- 1) NPO 法人日本ベジタリアン協会：ベジタリアンとは？
<<http://www.jpvs.org/index.htm>>， 2011-12-14
- 2) Shepard Krech III et al：History of Vegetarianism, Encyclopedia of World Environmental History, vol.3, p.1273-1278 (2004)
- 3) 近藤みゆき：マクロビオティックについて，名古屋文理短期大学紀要，26， p.45 （2001）
- 4) 国土交通省 総合政策局 観光事業課：多様な食文化・食習慣を有する外国人客への対応マニュアル ～外国人のお客様に日本での食事を楽しんでもらうために～，国土交通省， p.23 （2008）
- 5) IVU：The Origins of the 'Vegetarians'
<<http://www.ivu.org/history/societies/vegsoc-origins.html>>， 2012-1-25.
- 6) WWF：<<http://www.wwf.org/>>， 2012-1-25
- 7) WSPA：<<http://www.wspa.org.au/>>， 2012-1-25
- 8) 藤井可：18 世紀イギリスに於ける動物への道徳的配慮：現代の動物倫理との関係を探る，先端倫理研究，2， p.2 （2007）
- 9) 田辺治子：東西動物観比較考，麻不大学教養部研究紀要，25， p.3 （1992）
- 10) 田辺治子：前掲論文， pp.5-6 （1992）
- 11) 田辺治子：前掲論文， p.13 （1992）
- 12) 田辺治子：前掲論文， p.12 （1992）
- 13) 犬飼孝夫：東西の動物観，麗澤大学紀要，62， p.30 （1996）
- 14) 犬飼孝夫：前掲論文， p.30 （1996）
- 15) ALIVE：各国における動物保護の主な法制度の歴史
<<http://www.alive-net.net/law/kaigai/wlaw-history.html>>， 2011-6-19
- 16) World Resources Institute：Meat Consumption: Per capita <
http://earthtrends.wri.org/searchable_db/index.php?theme=8&variable_ID=193&action=select_countries>， 2011-11-8
- 17) ロバート・グッドランド，ジェフ・アンファンク：地球温暖化で見逃されている一大要因畜産，ワールド・ウォッチ日本語版 125 号， pp.15-25 （2009）
- 18) 北川正恭，山本良一 他：サステナビリティの科学的基礎に関する調査報告書，RSBS， p.134 （2006）
- 19) 牛肉・豚肉・鶏肉 1kg 生産に必要な穀物と水：
<<http://www.nexyzbb.ne.jp/~omnika/nikutokokumotu.html>>， 2011-11-10
- 20) 増田清敬：LCA(ライフサイクルアセスメント)を用いた酪農経営の環境影響評価，北大農研邦文紀要 28(2)， p.204 （2007）
- 21) ALIVE：畜産動物 <<http://www.alive-net.net/index.html>>， 2011-12-14

- 22) OIE : <<http://www.oie.int/>>, 2012-1-25
- 23) 永松美希 : アニマルウェルフェア畜産物の生産・流通・消費拡大の可能性と課題, 畜産物重要関係学術研究情報収集推進事業報告書, p.1 (2010)
- 24) WHO : <
http://gamapserver.who.int/gho/interactive_charts/ncd/risk_factors/overweight_obesity/atlas.html?indicator=i1&date=Both%20sexes>, 2011-12-15
- 25) 日本生活習慣病予防協会 : 子供の肥満
<<http://www.seikatsusyukanbyo.com/calendar/2009/000226.php>>, 2011-11-11
- 26) 土田満, Edward Fujimoto : 日本人のベジタリアンにおける栄養摂取状態と血液成分値, 体脂肪について, 瀬木学園紀要, 1(8), p.128 (2007)
- 27) 東京ヴィーガンズ・クラブ : <<http://vegan.japanteam.net/index.htm>>, 2011-1-17
- 28) NPO 法人京都ベジタリアンフェスティバル : <<http://www.vegetarianfestival.jp/>>, 2012-1-25
- 29) NPO 法人ベジカルチャーネットワーク : <<http://veg-culture.net/>>, 2012-1-25
- 30) Kara Pound : The Rise of Meatless Monday, E-The Environmental Magazine, 21(5), pp.12-21 (2010)
- 31) Meatless Monday : <<http://www.meatlessmonday.com/spread-the-movement/>>, 2011-10-11
- 32) The Monday Campaigns : <<http://www.mondaycampaigns.org/>>, 2012-2-24
- 33) Center for Livable Future : <
<http://www.livablefutureblog.com/2010/11/meatless-monday-launches-at-johns-hopkins-university>>, 2011-10-11
- 34) Meat Free Monday : <<http://www.meatfreemondays.com/>>, 2011-11-14
- 35) Donderdag Veggiedag : deelnemende steden
<http://www.donderdagveggiedag.be/deelnemende_steden>, 2011-12-19
- 36) change org. : A Taiwanese Take on Meatless Monday?
<<http://news.change.org/stories/a-taiwanese-take-on-meatless-monday>>, 2011-12-19
- 37) FOCUS TAIWAN : Taiwan earns five Hero Awards at U.N. climate conference
<http://focustaiwan.tw/ShowNews/WebNews_Detail.aspx?Type=aALL&ID=201112120025>, 2011-12-19

第四章 EVA (Ethical Vegetarian Alternative)の活動内容及びその変遷

4-1 ベルギー及びゲント市の概要¹⁾

ベルギー(Kingdom of Belgium)は西ヨーロッパに位置し、面積は 30,528 平方キロメートルと日本の約 12 分の 1 の広さをもっている。首都はブリュッセルで、行政区分はフランダーズ政府とワロン地域政府、ブリュッセル首都圏地域政府の 3 つの地域政府に分けられており、使用されている言語はオランダ語、フランス語、ドイツ語と 3 言語にわたり、フランダーズ地域ではオランダ語、ワロン地域ではフランス語と地域ごとで使用言語が異なるという複雑な言語環境を持っている。国民の多くはキリスト教徒で、その内約 75%がカトリック教徒である。

EVA が拠点を置くゲント市(City of Ghent)は首都ブリュッセルから西へ約 50 キロメートル、東フランダーズ州の州都で、フランダーズ地方の中心都市となっており、面積は 156 平方キロメートル。人口は約 24 万人であり、ベルギーの中ではブリュッセルやアントウェルペンに次ぐ第 3 の都市として位置づけられている。シェルデ川に面したゲント湾は、北海と結ぶ運河の整備より、アントワープに次ぐベルギー第二の港湾として成長し、ヨーロッパの主要な内陸港の一つとなっている²⁾。19 世紀以降は、繊維、鉄鋼業を中心として各種の産業が発展し、麻、亜麻、ジュート製品、光学機械、砂糖製糖、醸造、なめし皮などの工業があり、産業都市としても知られている²⁾。



図 4-1 ヨーロッパの地図³⁾

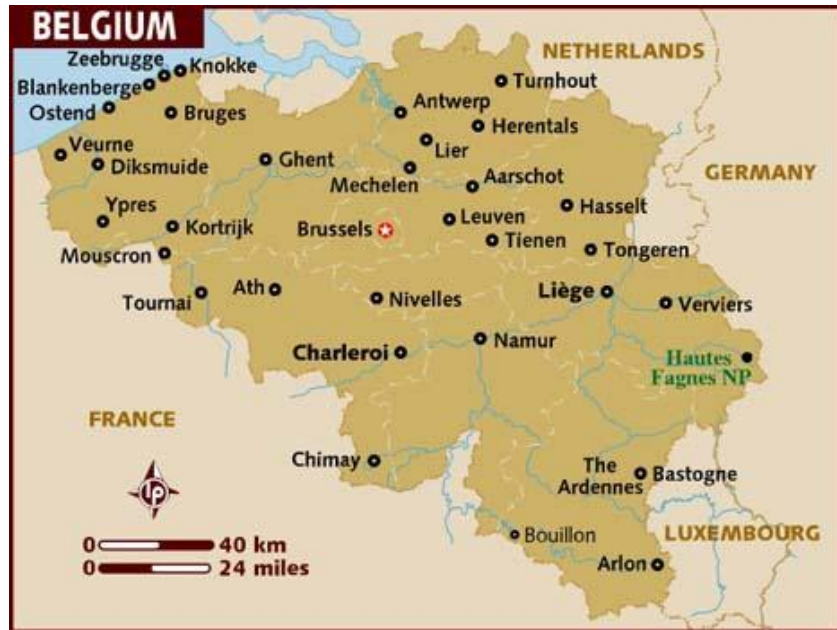


図 4-2 ベルギーの地図⁴⁾

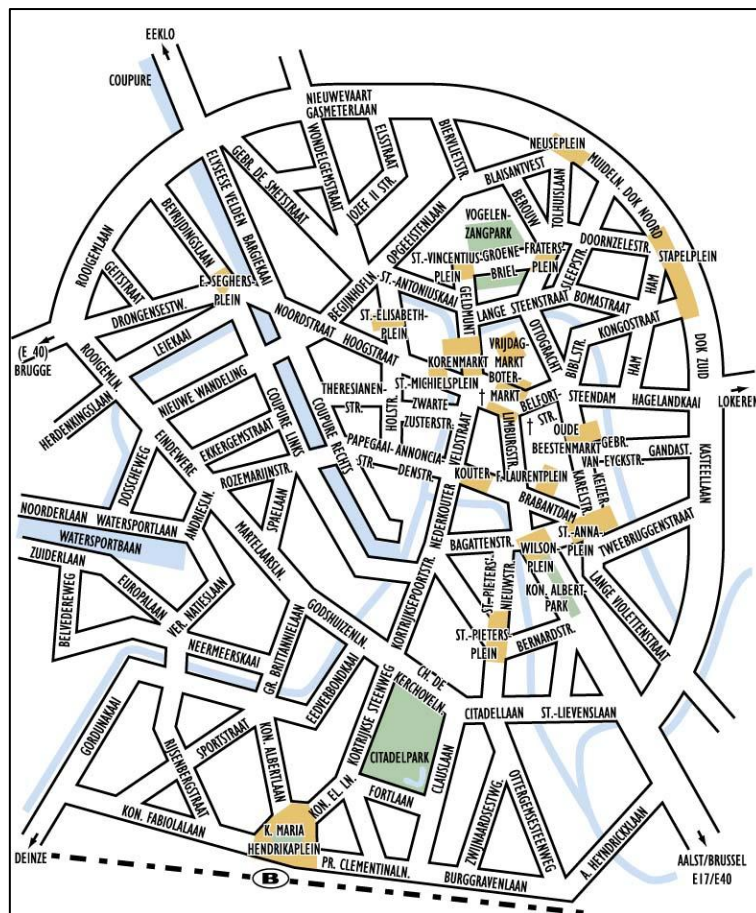


図 4-3 ゲント市内の地図⁵⁾

4-2 EVA の活動について

4-2-1 EVA の基本情報

EVA の正式名称は Ethical Vegetarian Alternative で EVA によるとベルギーの中で最も大きく、急速に成長したベジタリアン団体である。現在は、EVA の事務所があるアントワープ市を主な活動拠点としている。EVA 自体の設立は 2000 年で、EVA の現ディレクターである Leenaert 氏を含む 7 人のメンバーによって立ち上げられた。EVA の活動目的はベジタリアンに関する正しい情報を社会に提供し、動物愛護や環境問題、健康増進や南北問題といった世界に存在する諸問題を解決に導くことを目標としており、下記は EVA が掲げているミッションである⁶⁾。

[原文] : EVA zet zich in voor de maximale productie en consumptie van plantaardige voeding, ter vervanging van dierlijke, om bij te dragen tot een mens-, dier- en milieuvriendelijke samenleving.

EVA informeert en sensibiliseert het grote publiek, professionals in de horeca, de gezondheidssector, de landbouw- en voedingsector, het middenveld, de media, het onderwijs en andere sectoren, via diverse kanalen, producten en diensten. De organisatie doet aan beleidsbeïnvloeding op verschillende niveaus. De focus is Vlaanderen en Brussel.

[訳文] : EVA dedicates to the maximum production and consumption of plant foods, to the human, the animal and the environmentally friendly society.

EVA informs and raises awareness among the general public, professionals in the hospitality, health, and the agricultural and food sectors through various channels, products and services. The organization influences at various levels. The focus is Flanders and Brussels.

オランダ語から英語に著者が翻訳

EVA はその目的を遂行するためにベジタリアニズムに関連した活動を行っており、Donderdag Veggiedag もその活動の中の一つである。EVA では参加者同士がコミュニケーションを取れ、ベジタリアン料理を楽しめるようなイベントの開催やベジタリアン料理の料理教室などを行っている。EVA はこのような参加型イベントを開催することで、ベジタリアン料理に親しんでもらい、また参加者同士がコミュニケーションを取りながら情報交換が出来る場を提供することを目的としている。

EVA の主な収入源はフランダース政府からの助成金や会員からの会費、イベント等による収入である。現在の会員数は 4500 人となっており、会員の 99%がベルギー人である。会員に対しては三カ月に一度発行される EVA magazine や毎週の木曜日と一カ月に一度送られてくる News letter がある。EVA magazine は一冊 5€で販売されており、発行部数は 1 号で 4,000 部発行され、年間では 16,000 部出されている。Newsletter は HP の登録フォームから連絡先

を登録すれば、送られてくる仕組みとなっている。会員以外への情報発信としては EVA の活動に関するリーフレットや **Vegetarian guide** といったものもある。**Vegetarian guide** にはゲント市内にあるベジタリアン料理を提供するレストランやベジタリアン製品を購入できるベジタリアンショップがマップになって載っている。写真や色が多用されており、デザイン性に優れたものが多い印象である。

表 4-1-① EVA の主な発行物⁷⁾

名称	画像
<u>Donderdag Veggiedagnieuwsbrief</u> 毎週木曜日に発行されているニュースレター。Donderdag Veggiedag についてやベジタリアン料理のレシピが載せられている。	
<u>EVA-nieuwsbrief</u> 1 か月に 1 度発行されているニュースレター。EVA の活動についてや料理教室、その他のイベント情報が載せられている。	画像なし
<u>EVA magazine</u> 3 か月に一度発行されており、一冊 5€で販売されている。雑誌の内容は著名人や研究者、活動家などのインタビューやベジタリアン料理のレシピ、レストランのレビュー、ベジタリアニズムや環境に関するコラムといった記事で構成されている。	
<u>Verleidelijk Veggies GIDS</u> EVA の初めての発行物で、ベジタリアンのガイドブック。内容はベジタリアン料理のレシピやベジタリアンの栄養についてなどとなっており、ベジタリアニズムの基本的な情報や知識が得られる内容となっている。	

表 4-1-② EVA の主な発行物⁷⁾

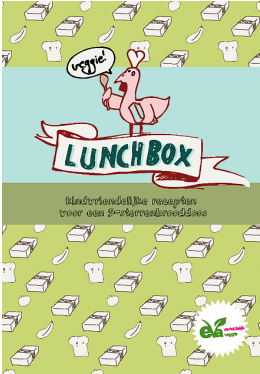
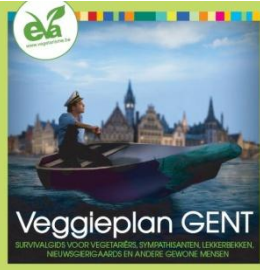
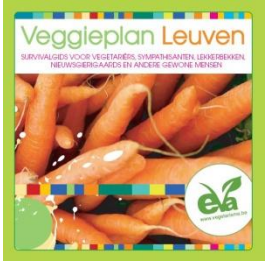
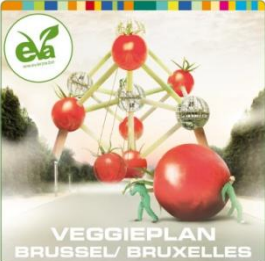
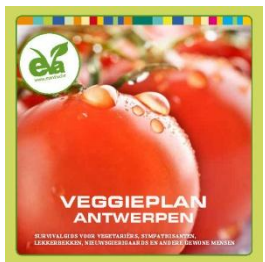
名称	画像
<u>Donderdag Veggiedag GIDS</u> Donderdag Veggiedag のガイドブックとなっており、Donderdag Veggiedag の説明やレシピ、有名なベジタリアンについてなどが載せられている。	
<u>Veggie voor Chefs</u> レストランのシェフやケータリング会社向けにベジタリアン料理のレシピやベジタリアン食品の扱い方、購入場所などの情報が載せられている。	
<u>LUNCH BOX</u> 子どものお弁当向けのベジタリアン料理のレシピが載せられている。サンドイッチやサラダが中心で、それに使用するベジタリアン食品も合わせて載せられている。	
<u>Veggieplan Gent</u> アントワープ市内のベジタリアンレストランやベジタリアン製品を購入できるショップなどが載せられているマップ。	

表 4-1-③ EVA の主な発行物⁷⁾

名称	画像
<u>Veggieplan Leuven</u> ルーベン市内のベジタリアンレストランやベジタリアン製品を購入できるショップなどが載せられているマップ。	
<u>Veggieplan Brussel</u> ブリュッセル市内のベジタリアンレストランやベジタリアン製品を購入できるショップなどが載せられているマップ。	
<u>Veggieplan Antwerpen</u> アントワープ市内のベジタリアンレストランやベジタリアン製品を購入できるショップなどが載せられているマップ。	

2011 年では EVA にはスタッフが 10 名おり、個々で担当する部門が分かれており、ボランティアコーディネーターや Donderdag Veggiedag 部門、栄養部門等といったような担当分けとなっている。表 4-2 にはそのスタッフの部門を示してある。部門名には正式名であるオランダ語とその英語訳を載せている。

表 4-2 スタッフの担当部門(2011 年時点)⁸⁾

スタッフの担当部門
Directeur (Director)
Culinair medewerker (Culinary staff)
Administratie (Accounting)
Communicatie (Communication)
Donderdag Veggiedag (Thursday Veggie Day)
Stafmedewerker (Staff member)
Donderdag Veggiedag Brussel (Thursday Veggie Day Brussel)
Vrijwilligerscoördinator (Volunteer Coordinator)
Educatief medewerker (Education staff)
Webmaster & IT (Webmaster & IT)

表 4-3 は 2000 年の EVA 設立から現在に至るまでの年表である。

表 4-3-① 設立から現在に至るまでの EVA の活動年表⁹⁾

年代	出来事
2000 年	EVA の設立
	ウェブサイトのオープン
	EVA magazine の創刊
2002～04 年	3 回の V-day を開催
2003 年	インフォメーションセンターをオープン
2003 年～	ベジタリアニズムにおける環境や健康，栄養に関するセミナーを開催
	料理教室の開始
	gastronomische diners の開始
2003 年～2004 年	Prijs der Zintuigen の設立
2005 年～	フランダース州政府より助成金を受け始める
2007 年	Donderdag Veggiedag を開始
	Veggielympics を開催
	ベジタリアンフードと環境に関するセミナーを開催
	Veggie Bars を開催
2008 年	パチャウリ氏の「Less Meat, Less Heat」を開催
	Veggie Guide の出版
	Donderdag Veggiedag が de Award Voeding & Gezondheid voor Beste Project を受賞
	2 回目の BV-Christmas lunch を開催
	「Meat the Truth」をアントワープで発表
2009 年	Toekomstige Generaties van de Stichting Toekomstige generaties の大賞を受賞
	Donderdag Veggiedag が Gent 市のオフィシャルキャンペーンに
	Gent フェスティバルでベジーバーガースタンドを出店
	35 のシティスクールで Donderdag Veggiedag を開始
	ヨーロッパ議会(European Parliament)にてパチャウリ氏とマッカートニー氏が「Less Meat=Less Heat」を講演
2010 年	EVA の会員が 4000 人に達した
	学校用の Donderdag Veggiedag 教材を出版
	Donderdag Veggiedag の一周年の記念として Veggie Hap-pening を開催
	EVA の 10 周年を記念した大きなパーティーを開催
	V-night を開催
	クリスマスクッキングワークショップを開催

表 4-3-② 設立から現在に至るまでの EVA の活動年表⁹⁾

年代	出来事
2010 年	ゲント大学で Ocean Week
2011 年	ヨーロッパ議会で映画「LoveMEATender」を紹介
	EVA Mechelen が Langste Veggie Tafel を作成
	ゲント市の Sphinx で「LoveMEATender」を紹介
	Veggieplan Brussel を出版
	Sint-Niklaas が Donderdag Veggiedag を設立
	Veggietalent uit Gent を出版
	Donderdag Veggiedag の二周年記念として Veggie hapjes aan de Leie を開催
	Donderdag Veggiedag(Jeudi Veggie)がブリュッセルで設立され、Veggie Guide がフランス語で出版
	Gent Smaarkt に出展
	Donderdag Veggiedag として 3 年目の Gentse Feesten
	初めて Nationale Veggie BBQ-dag をルーヴェン、ハッセルト、ブリュージュ、アントワープ、ゲントで開催
	新しい Veggie Lunchbox を出版
	Cultuurprijzen Vlaanderen 2010-11 の Cluture Award for the sicio-cultural adult work に選ばれる
	Veggieplan Antwerp を出版

この活動年表から 2007 年以降に EVA の活動が活発になっていることがうかがえ、また 2008 年の「de Award Voeding & Gezondheid voor Beste Project」、2009 年の「Toekomstige Generaties van de Stichting Toekomstige generaties」、そして 2011 年の「Cluture Award for the sicio-cultural adult work」といった賞を受賞するようになっている。2007 年は EVA が Donderdag Veggiedag を開始した年であり、このキャンペーンの開始が EVA にとって一つの転機となったことが考えられる。



図 4-4 EVA のロゴマーク¹⁰⁾

4-2-2 EVA のオフィスとアントワープ市内の様子

Donderdag Veggiedag が行われている様子を把握するために、8 月末から 9 月下旬にかけて実際に現地を訪れた。下記がその行程である。

[現地調査の行程]

2011 年 8 月

24 日：Leenaert 氏へのヒアリング調査

25 日：EVA のオフィス内を見学と Leenaert 氏へのヒアリング調査

26 日：Leenaert 氏へのヒアリング調査とアントワープ市内のベジタリアンショップの調査

31 日：Leenaert 氏へのヒアリング調査と資料収集

2011 年 9 月

1 日：Donderdag Veggiedag に参加しているレストランの調査

まず EVA がアントワープ市内に持つオフィスについて説明していく。

現在 EVA が使用しているオフィスには大きく分けて 4 つの部屋があり、受付兼スタッフが作業を行う部屋、料理教室などを行うキッチンスペース、ベジタリアニズムや環境、動物愛護に関する文献が置かれている図書室、会議室兼ディレクター室の使い分けがされている。受付ではベジタリアンのキャットフードやドッグフードが売られ、EVA のリーフレットや料理本等も置かれていた。



図 4-5 受付兼作業スペース(Entrance and Workspace)



図 4-6 料理教室等が行われるキッチンスペース(Kitchen)



図 4-7 様々な文献が置かれている図書室(Library)

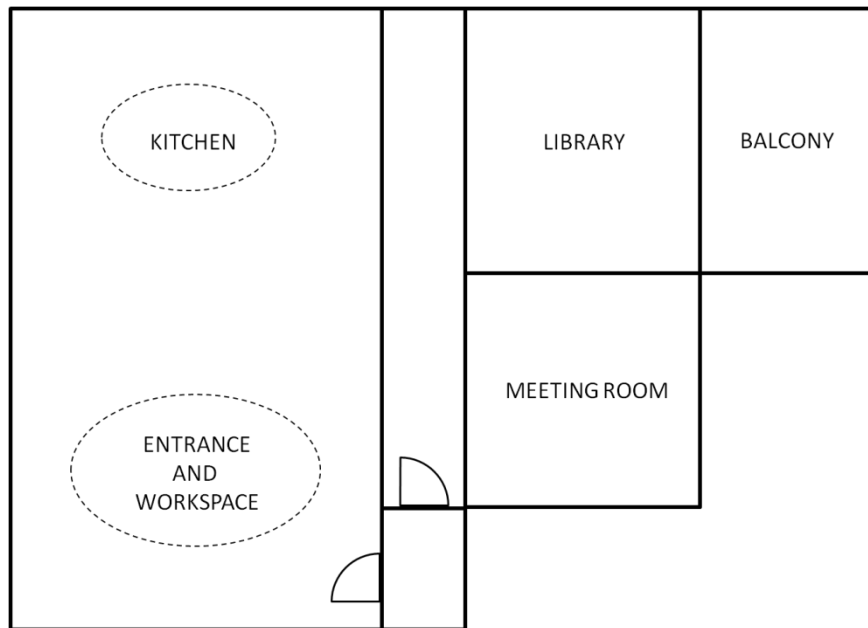


図 4-8 オフィスの間取り図

著者が作成

NPO のオフィスにしてはやや広く、綺麗な印象を受けた。しかし、入口は分かりにくく、初めて訪れる訪問者にとってはやや入りづらい印象を受けた。普段の訪問者数は一日当たり 2, 3 人と少なく、市民の直接的な活用率はまだ低いものとなっている。

次に市内の様子であるが、街を歩いている間にキャンペーンが行われている様子を確認することは出来なかった。しかし、街を歩いているとベジタリアンレストランやベジタリアンショップをよく見かけることができ、その数はベジタリアンレストランが 13 店舗、ベジタリアンショップが 10 店舗となっている。EVA によるとゲント市はヨーロッパ内でもベジタリアン関連のショップが充実した環境となっている。ベジタリアンレストランで提供されているものは、バーガーやパスタ、ケーキ等と通常のレストランと変わらないメニューが提供されており、ベジタリアンショップでも、洗剤や化粧品といった日常用品から、パスタや大豆たんぱく等から作られた畜産製品の代用物等、一般的なスーパーと変わらない品揃えであった。ゲント市内でベジタリアンやヴィーガンといった生活スタイルを選択したとしても、ほぼ不自由なく暮らせる環境は整っているように感じた。



図 4-9 ベジタリアンショップの BIO SHOP



図 4-10 ベジタリアンカフェの Greenway

4-2-3 Donderdag Veggiedag の概要

EVA は Meat Free Monday や Meatless Monday といったキャンペーン同様、週に一度ベジタリアンの食生活を行う「週一ベジタリアン運動」を推進している。EVA では「Donderdag Veggiedag」という名前でこのキャンペーンを行っており、他の事例と異なる点はベジタリアンの日が、他事例の設定している月曜日ではなく「木曜日」であることと、ゲント市がこのキャンペーンをオフィシャルなものとしてサポートしていることが他国の事例と大きく異なる点である。キャンペーン自体は 2007 年の終わり頃からヨーロッパで最も大きい大豆製品の会社である Alpro soya のサポートと共に始められた。ゲント市のオフィシャルキャンペーンとなったのは 2009 年の 5 月で、行政に認められた世界で初めての事例である。

アメリカやイギリスといった他の事例が月曜日をベジタリアンの日と定めているのに対して、EVA がベジタリアンの日を木曜日に定めている理由は、ベルギーでは多くのレストランが月曜日を定休日に行っているということが一つ目の理由である。二つ目は、多くのベルギー人が信仰しているキリスト教のカトリックに、金曜日に魚を食べるという習慣があり、金曜日の前日である木曜日を菜食の日と定めることで、そのカトリックの習慣との関連性を高めるためである¹¹⁾。一方、他の事例が月曜日をベジタリアンの日と定めている理由は、月曜日が 1 週間の始まりの日であり、週の初めに取り入れられた習慣は週末まで持続しやすい傾向があると言われているためである¹²⁾。Meatless Monday や Meat Free Monday といった他の事例と異なり、EVA では木曜日にベジタリアンの日が設定されているが、キャンペーンの目的は、他の事例同様、動物愛護や環境問題の解決に貢献すること、また人々の健康改善に貢献することである。図 11 はキャンペーンで使用されている Donderdag Veggiedag のロゴと、子供向けに使われているポスターである。子供向けポスターは親しみを持ちやすいよう「赤ずきんちゃん」をモチーフにポスターを作成している。



図 4-11 Donderdag Veggiedag の
ロゴマーク¹³⁾



図 4-12 子供向けの
キャンペーンポスター¹³⁾

4-2-4 EVA の設立から現在に至るまでの変遷

本項では EVA の Beleidsplan や Leenaert 氏へのインタビュー内容，またその他の EVA に関する資料を基に，EVA の設立から Donderdag Veggiedag がゲント市のオフィシャルキャンペーンとなり，そして現在に至るまでの EVA の変遷を追い，活動が変わるターニングポイントや EVA の活動における強みや特徴を明らかにしていく．

(1)Leenaert 氏の経験¹⁴⁾

EVA は 2000 年に Leenaert 氏を含む，7 人のメンバーによって立ち上げられており，活動目的はベジタリアニズムを広め，動物愛護や環境問題，健康問題等の解決に貢献することである．EVA の設立に大きく影響を与えたのは，現在のディレクターである Tobias Leenaert 氏である．EVA の設立から現在に至るまでの変遷を追っていく前に，Leenaert 氏の経験について説明していく．



図 4-13 EVA のディレクターである Tobias Leenaert 氏

現在(2011 年時点)で 38 歳である Tobias Leenaert 氏は EVA の設立当初から中心メンバーであり，2010 年には Ashoka Fellow(アショカ・フェロー)にも認定されている．Ashoka Fellow とは世界をリードするソーシャル・アントレプレナーであり，既存の社会システムを変えるオリジナルでイノベーティブな解決方法を考案するのみでなく，そのアイデアを現実 に立ち上げ粘り強く社会問題に取り組む人たちを指しており，いくつかの審査を経て，すべての基準が満たされていることを確認された後，認定される¹⁵⁾．

Leenaert 氏がベジタリアンという選択を考え始めたのは 14, 15 歳の頃で，それまでは母親の作る健康的な料理があまり好きではなく，肉を好んで食べていた．ベジタリアンになる前はベジタリアニズムを反対しているわけではなく，動物を愛しており，自宅の庭にもたくさんの動物がいた．しかし Leenaert 氏はペットとして扱われる犬や猫がいる一方で，

十分に太った後、食肉用として殺される牛や鶏の扱いに対して疑問にも感じていた。そしてある時、新聞の中で '*Rabits for sale, as pets or for the freezer*' というタイトルの広告を見つけ、同じ生き物がなぜ正反対な運命をたどるようになるのかを考え始めるようになり、その頃から「本当に動物を愛しているなら、彼らを食べることをやめなければならない」と自分に問いかけ始めた。現在、Leenaert 氏は畜産製品を全く摂取しないヴィーガンであるが、そのスタートはセミベジタリアンからであり、肉食を完全に断つにはかなりの時間がかかったため、完全にヴィーガンとなったのは大学が終わる頃であった。

大学院の修士課程では「動物と人間の乱れた関係性(the disturbed relationship between animals and humans)」というテーマで研究を行い、アメリカで動物愛護のボランティアを半年間経験した。アメリカでの経験や人との出会いが Leenaert 氏自身の熱意や頑張りを引き出すきっかけとなった。アメリカでは動物のために自分自身の人生をかけて立ち上がっている人達を大勢見つけることができたが、その中で相手を非難する言動を試みたり、皮を剥がされたり死にかけている動物の写真を見せるような暴力的な訴え方をする団体も存在した。Leenaert 氏がボランティア活動をしていた団体はポジティブな活動を推進していて、暴力的な方向に向かっている団体を区別して見ており、暴力の積み重ねはそれ以上のものを運んでこないという考えを持っていた。

ベルギーにおける動物愛護運動はアメリカと比べ、とても小さいものであったため、帰国後にアメリカ滞在中に出会ったような熱意のある活動家を見つけることは困難であった。その後、高校時代にコンピューターゲームプログラマーを夢見ていたこともあり、コンピューター科学の先生として最初の仕事を始めた。この頃から既にゲント大学にある学生の小さなベジタリアン団体と連絡をとり始め、活動に参加していた。そして数カ月後、vegetarian gent というベジタリアンガイドを製作し、1,000 部配布した。教師就職後、ベジタリアニズムによって世界に存在する多くの問題が解決できるとさらに気づき、それに関わる仕事を望むようになり、教師の職を離れた。そして 2000 年に Leenaert 氏を含む 7 人で EVA を設立した。

Leenaert 氏は完全なヴィーガンへと移行する際にとっても苦勞したり、アメリカで動物愛護のボランティアを半年間経験するなど、EVA を設立する前に様々な経験をしている。このような Leenaert 氏の経験は、EVA の設立から現在に至るまでの活動の中で、大きな影響を与えていると考えられる。

これ以降は EVA の設立から現在に至るまでの変遷を、その時々 of EVA のシステム図とともに追っていく。

(2)2000-2003 年

図 4-14 は EVA が設立した 2000 年から 2003 年までの関係を表している。

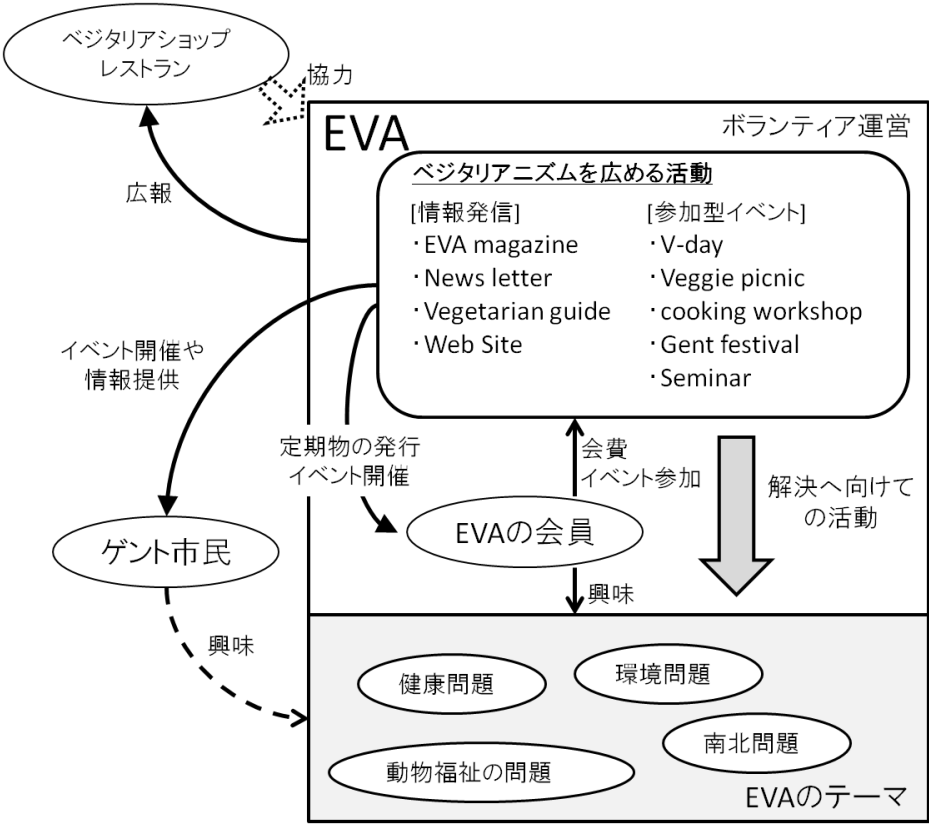


図 4-14 2000 年から 2003 年における EVA のシステム図

EVA の設立は表 4-4 中の 7 人で行われた。

表 4-4 設立時のメンバー¹⁶⁾

設立時のメンバー
1) Tobias Leenaert
2) Guy Frederickx
3) Jef Vervoort
4) Elena Lievens
5) Sophie Vanroose
6) Pierre De Groote
7) Joris Swinnen

(初期の役割分担は資料がないため不明)

この頃、EVA には有給のフルタイムスタッフがおらず、ボランティアに支えられながらの運営であった。活動は Web 整備や EVA magazine の発行といった情報を発信する方法の確立、料理教室や V-day といったベジタリアン関連のイベント開催である。外部への発信ツールとして定期物の EVA magazine と Newsletter を作り、それを通じて EVA の会員にイベントやベジタリアニズムに関する知識といった情報を発信できるようになっている。EVA magazine の中で、ベジタリアン製品の会社やベジタリアンレストラン・ショップが広告を掲載し、スポンサーとなっている。EVA magazine に見られる変化として 8 号(2002 年)から 9 号(2003 年)において大幅なデザインリニューアルが行われていることが挙げられる。リニューアル前は雑誌全体が白黒であり、写真とイラストが併用されていたが、割合の多くをイラストが占めていた。リニューアル後は全てのページがカラー化され、写真が多く用いられるようになった。図 4-15 がリニューアル前後の EVA magazine である。左は表紙にイラストが使用されているが、右は写真が使われている。

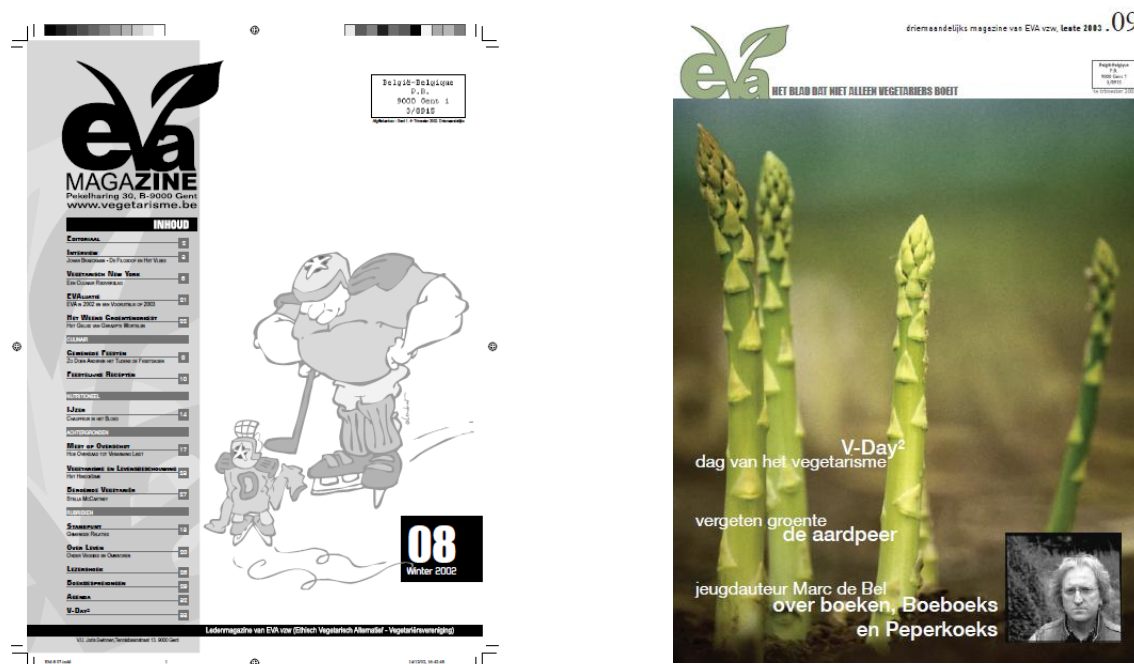


図 4-15 EVA magazine のリニューアル前(左 : 8 号)とリニューアル後(右 : 9 号)⁷⁾

また EVA magazine の中では著名人のインタビューが毎掲載せられている。著名人を利用することでメディアの注目を集めやすくするためである。表 4-5 が EVA magazine でインタビューされた著名人の一覧である。インタビューの相手はマクロビの栄養学を専門とする大学教授やベジタリアンのモデル、アニマルライツに関わる活動をしている活動家と職種は様々である。

表 4-5 EVA magazine でインタビューされた著名人一覧(一部抜粋)¹⁷⁾

	名前	人物説明
1)	Johan Braeckman	ゲント大学の心理学教授。
2)	Etienne Carette	Sint-VincentiusとVrij Handels instituteのディレクター。
3)	Luc V ankrunkelsven	農業関係の仕事をしており、“大豆評論家”。
4)	Rik Vermuyten	マクロビの栄養学に関する講演やワークショップを行っている。
5)	Murielle Scherre	モデル。
6)	Nic Balthazar	ベルギーの映画監督であり、テレビやラジオのパーソナリティーでもある。
7)	.Calibre	ヴィーガンのバンド。
8)	Lieven Debrauwer	フランダースのディレクター。
9)	Marc de Bel	作家。
10)	Cindy Frey	Animal Truthの設立者。ベジタリアニズムや動物福祉の分野で活動している。
11)	Marcel en Diane Hebbelinck	フランダースでベジタリアニズムを広める活動をしている夫婦。
12)	Axl Peleman	ベジタリアンのミュージシャン。
13)	Eric Schlosser	アメリカのジャーナリストで、「ファーストフードが世界を食いつくす」の作者。
14)	Peter Singer	オーストラリア出身の哲学者、倫理学者で、「動物の解放」の著者。
15)	Tathagat Tulsi	インド出身の心理学者であり、ベジタリアン。
16)	Howard Lyman	アメリカの農業経営者で、動物福祉の活動家であり、ベジタリアニズムを推進している。
17)	Paul Ray	アメリカのUtah House of Representativesの関係者。
18)	Vesanto Melina	ベジタリアンの栄養に関する本を書いている著者。
19)	Chico Varatojo	マクロビオティックのコラムニスト。
20)	Wim Delvoye	タトゥーのアーティスト。
21)	Paul Appleby	ベジタリアンの栄養が健康に与える好影響の研究をしている科学者。
22)	Lectrr	ベジタリアンに関する漫画を描いた漫画家。
23)	Hiltl. Virtuoso Vegetarian	ベジタリアン料理のクッキング本「Virtuoso Vegetarian」の著者。
24)	Divine Discoveries	人々に“conscious travel”を提案している。
25)	Frank Fol	ベジタリアン料理のシェフ。
26)	Lut De Clercq	アーティストへの料理を提供している。
27)	Pamela Peeters	環境経済専門家であり、環境コンサルタント。
28)	Paul Florizoone	ベジタリアンレストランGreenwayの創始者。
29)	Dafne Westerhof	コミュニケーショントレーナーで、“hobby farmer”でもある。
30)	Tom Regan	アメリカの哲学者で、特に動物の権利が専門。
31)	Philippe Van Den Bulck	シェフでEVA magazineにもレシピを提供している。
32)	Els Pynoo	ミュージシャン。
33)	Christine Hannes	教師として働いているベジタリアン。
34)	Andrew Linzey	英国教会の聖職者であり、キリスト教における人間と動物の関係についての専門家。
35)	Katrien Alewaeters	理学療法士のベジタリアン。
36)	Jeroen Theunissen	タレントで、環境面からベジタリアンの食生活をしている。
37)	Dos Winkel	海の写真家。
38)	Dr. Rachendra Pachauri	畜産業の引き起こす環境問題について指摘している研究家。
39)	Michel Vandenbosch	動物福祉や権利の活動家。
40)	Heikki Verdurme	料理写真家。
41)	Peter Tom Jones	科学的方法によって地球の健康状態を調べているエンジニア。
42)	Marianne Huiberts	動物の権利を訴える団体Bite Backの活動家。
43)	Chad Sarno	ベジタリアンレストランのシェフ。
44)	Jonathan Safran Foer	アニメ映画を撮影し、賞を獲得した学生の監督。

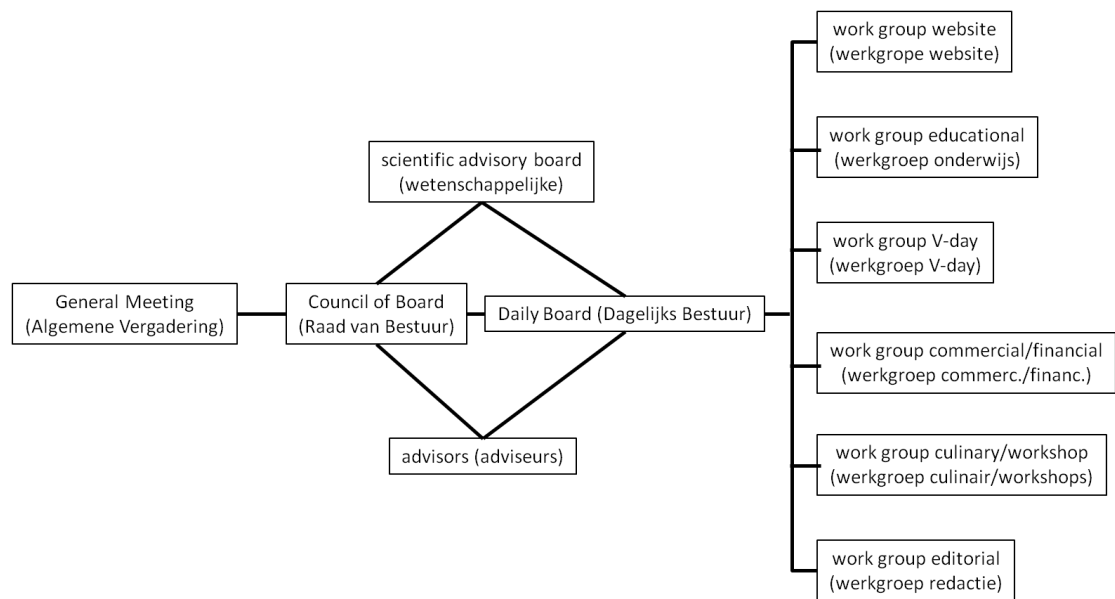


図 4-17 EVA の組織図¹⁹⁾

General Meeting が総会にあたり， Council of Board が理事会にあたる． その下に Daily Board があり，最後にワークグループが宣伝や教育，ウェブサイトなどに分かれている． Council of Board のメンバーは下記の表のようになっており，設立時から引き続き担当しているのは現在ディレクターを務めている Tobias Leenaert 氏と Elena Lievens 氏である．

表 4-6 2004 年時の Council of Board のメンバー²⁰⁾

2004 年時の council of board のメンバー	
Tobias Leenaert	ドイツ研究者であり、カルチュラル・スタディーズについて学んでいた。EVA の全体責任者である。
Jef Vervoort	建築のエンジニアで、コンピューター科学について学んでいた。ウェブデザイナー、プログラマー、建築家である。EVA では出版物などのレイアウトを行っている。
Zulmarie Alves	薬について長年学んでおり、栄養療法や漢方薬、菜食についても精通しており、ベジタリアンの栄養に関する情報に対して科学的なサポートをしている。
Elena Lievens	ドイツ研究者であり、カルチュラル・スタディーズについて学んでいた。EVA では会計や会員記録の仕事をしている。
Topsy Vanheuverzwijn	バイオエンジニアで、論文ではフェイクミートのたんぱく質について研究していた。
Helga D'Have	生物学者で、環境問題や持続可能な発展における人間生態学について勉強していた。現在はアントウェルペン大学でドクターとして研究中。
Pierre De Groote	古典を教えており、現在は EVA の様々なことを管理している。
Joris Swinnen	心理学について学び、現在はデジタルグラフィックデザインについて勉強中。レストランといった外部関係者と連絡を取り合っている。
Prof. dr. em. Marcel Hebbelinck	フランダースベジタリアン協会の先駆者であり、ヨーロッパベジタリアン協会の元会長で、国際ベジタリアン協会とも関わりを持っていた。ベジタリアニズムと健康の関係性に関する内容を含んだ出版物も出している。

(4)2007 年

図 4-18 は 2007 年における EVA の関係図を表している。

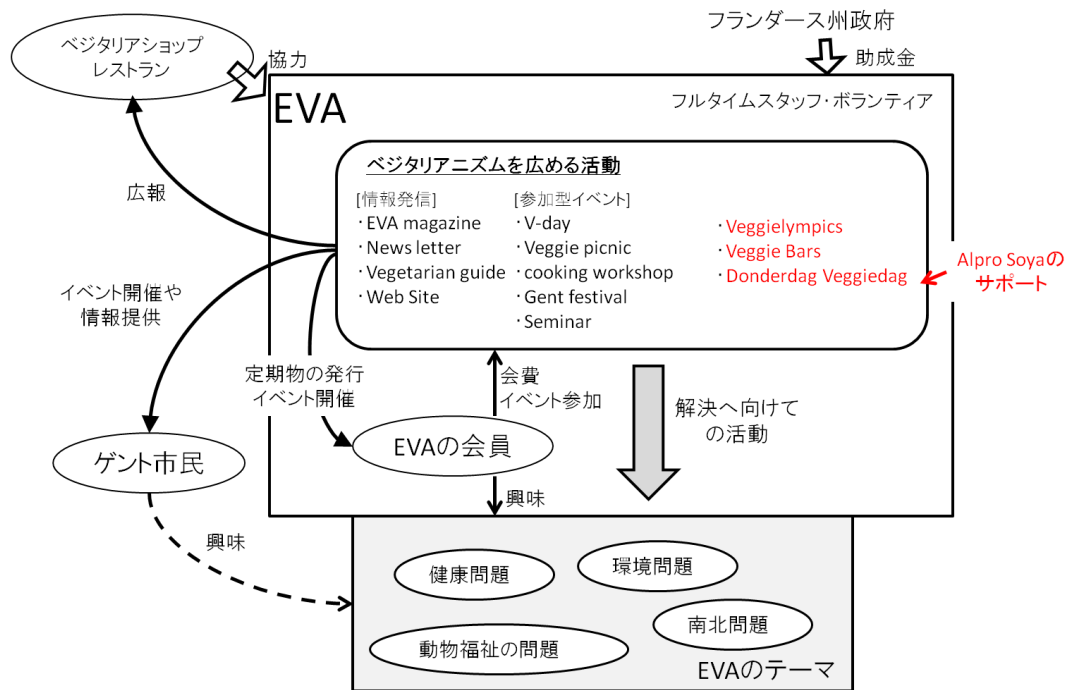


図 4-18 2007 年における EVA のシステム図

2007 年にヨーロッパで最も大きい大豆製品会社である Alpro Soya²¹⁾のサポートとともに Donderdag Veggiedag が開始され, EVA のユニークな活動の一つとなった. 世界には vegetarian week や national meat reduction week といったベジタリアニズムを広めるキャンペーンが存在するが, EVA はそれらのキャンペーンを実践的ではないと考えており, もっと覚えやすく実践的なキャンペーンである必要があると考えている. それは下記の文章から読み取れる²²⁾.

Another possible campaign idea would be a vegetarian week or a national meat reduction week, but while this might be a great tool for raising awareness, it seems that actual behaviour change in the field of food requires a more structural framework, to be reminded again and again of the meat reduction idea. We need an ongoing campaign that obviously should be as ‘sticky’ as possible, i.e. consumers have to be able to first of all easily remember the message.

このような考えから「週に一度ベジタリアンの日を作る」という簡単で分かりやすいコンセプトのキャンペーンを EVA が選択したと考えられる. また EVA が週一ベジタリアン運動をシンプルで実践的な考えであると見なしていることは下記の文章から読み取れる²²⁾.

A campaign like Meatless Monday or Thursday Veggie Day (it does sound better in Dutch) offers a very simple and concrete idea that is very ‘actionable’.

Donderdag Veggiedag の英語名は「Thursday Veggie Day」となり、Meat Free Monday や Meatless Monday といった他の事例と異なり、菜食の日が木曜日に設定されている。これは前述した通り、多くのレストランが月曜日を定休日としていることや、カトリックの習慣との結び付けを強くする狙いがあることが菜食の日を木曜日に設定している理由である。それ以外に、他の事例と異なる点は、キャンペーンの名前の中に「ネガティブ」な印象を与える言葉を入れていないことである。Meat Free Monday には「Free」が、Meatless Monday には「Less」が含まれている。どちらも「肉を減らす日」という印象が強い。一方、Donderdag Veggiedag (Thursday Veggie Day)には「肉を減らす日」というよりも「野菜の日」という印象を受ける。これは人々にポジティブな印象を与えるために意図して付けられている。その意図は EVA が Donderdag Veggiedag を説明している資料からも読み取ることができる²²⁾。

A difference between those two campaign names is that ‘veggie’ is a more positive formulation than ‘meatless’, emphasizing the things you will get (more veggies or vegetarian products) instead of what you have to do without.

キャンペーンの名前からおよその内容が伝わり、また肉食を否定するような印象を与えないようなキャンペーン名にすることは長い肉食文化を持つベルギーにおいて重要と考えられる。

(5)2008 年

図 4-19 は 2008 年における EVA の関係図を表している。

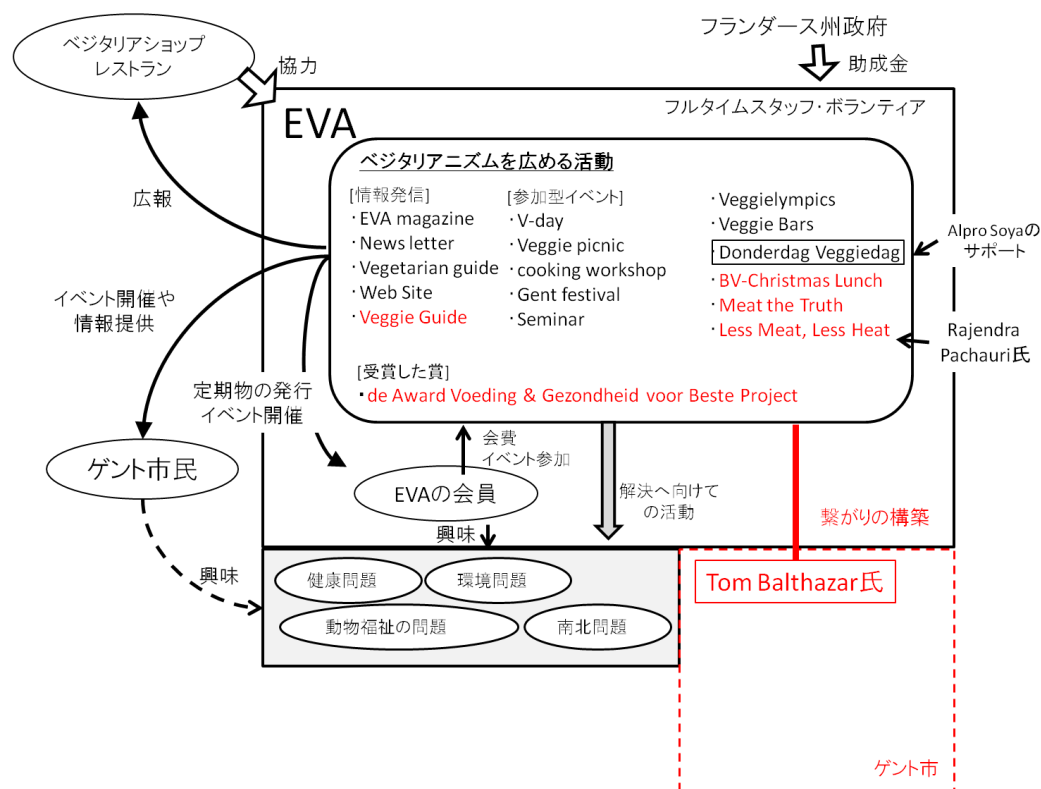


図 4-19 2008 年における EVA のシステム図

この頃の大きな変化としてゲント市の市議会議員 Tom Balthazar 氏との繋がりが構築されたことが挙げられる。この関係が構築される機会となったのが、ゲント大学で行われた講演会である。その講演会は 2008 年に行われ、IPCC 議長の Rajendra Pachauri 氏が「Less Meat, Less Heat」という畜産業と地球温暖化の関係についての講演し、約 600 人がその講演を聴講した。Pachauri 氏は以前から畜産業と地球温暖化の関係について指摘しており、地球温暖化問題の解決に向けて肉の消費を減らしていくことを提唱していた²³⁾。その講演をゲント市の市議会議員である Tom Balthazar 氏が聴講しており、その場で EVA 側から Balthazar 氏にアプローチをかけ、Balthazar 氏との繋がりが構築された。Balthazar 氏は以前より環境や健康といった理由からベジタリアニズムに対する興味があったため、EVA の活動に興味を示したと考えられる。また Balthazar 氏は Deputy-Mayor for the Environment and Social Affairs(環境と社会福祉部門の助役)を務めており、環境面、健康面においてメリットのある Donderdag Veggiedag を行政側と繋ぐ橋渡しの役割を担うのに最適の人物といえる。

(6)2009 年

図 4-20 は 2009 年における EVA の関係図を表している。

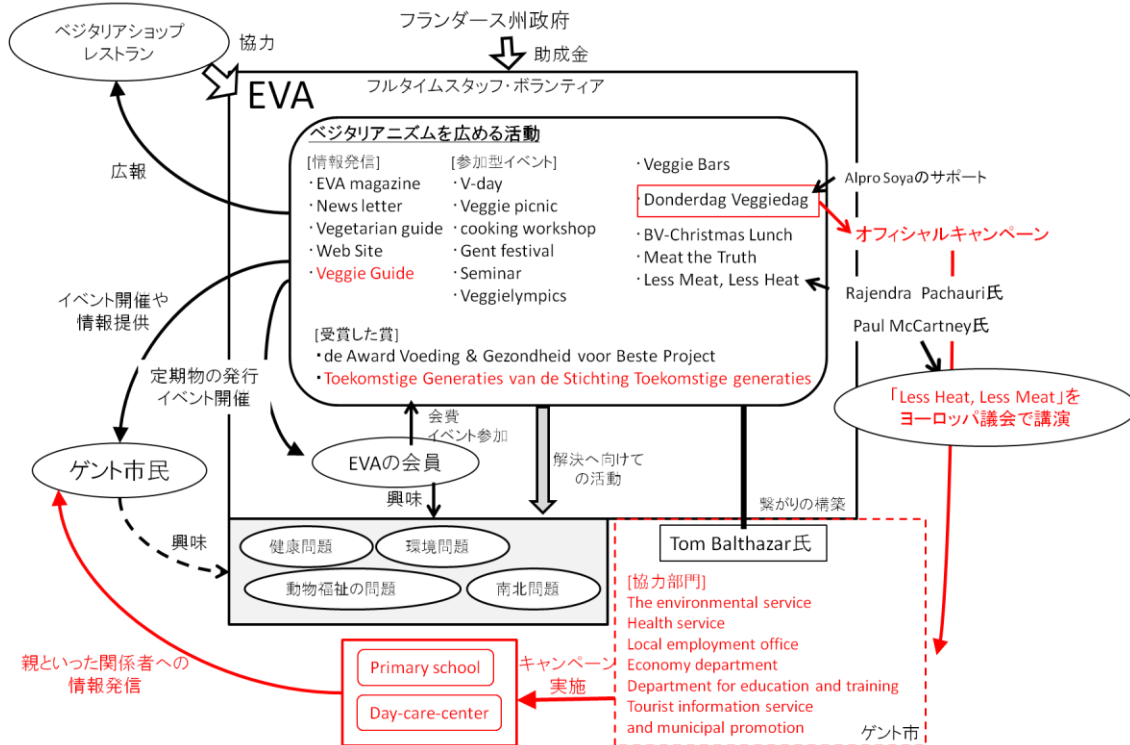


図 4-20 2009 年における EVA のシステム図

この年には EVA の外部との関係が大きく変化している。その大きな変化には、2009 年に EVA の Donderdag Veggiedag がゲント市のオフィシャルキャンペーンとして認められたことが大きく影響している。ゲント市の公式なキャンペーンとなることで、行政内における担当部署と密な関係を作ることができ、また EVA に対する市民の信頼度にもプラスの影響を与えることが予想できる。オフィシャルキャンペーンと承認されるまでの間に、EVA が市議会議員向けにベジタリアンランチを開き、Donderdag Veggiedag を実施することで得られる様々なメリットについて説明し、市議会議員の理解を得た。EVA はこの説明の中で、EVA のスタッフ達が重要と考えている動物愛護に関するメリット強調して説明するのではなく、より一般的な健康面と環境面の効果について強調して説明を行った。環境面については、もしゲント市民全員がこのキャンペーンに参加した場合、ゲント市内から 18,000 台の車を取り除いただけの CO₂ 削減効果が得られると示している。また現在、ベルギー人の毎日の肉消費量が 240g と標準量の 90g をはるかに超えており²⁴⁾、この不健康な食生活を解決する策として Donderdag Veggiedag が評価されたと考えられる。

その後、Donderdag Veggiedag は 2009 年 5 月にゲント市のオフィシャルキャンペーンとなり、その年の 10 月にはゲント市内にある 35 の小学校と 42 のデイケアセンターにおいてキ

キャンペーンの実施が開始された。小学校には約 11,000 人に生徒が在学しており、給食は毎日約 3,000 食が提供されている。木曜日の学校給食では通常通り肉を使用した給食の他にベジタリアン給食が提供される。生徒は木曜日にベジタリアン給食の選択が強制されているのではなく、自由選択となっている。つまり木曜日に通常の魚や肉を使ったランチを選択することも可能となっている。またキャンペーン開始前には、保護者向けに **Donderdag Veggiedag** に関する資料を配り、学校で生徒に提供されるベジタリアン料理を味見する機会を設けた。学校の教育者にはキャンペーンの背景等を含んだ説明会を開き、ゲント市から **Veggie Plan** についての資料が配布された。このような前準備を行った結果、現在ではほとんどの生徒が木曜日にベジタリアンランチを選択している。小学校やデイケアセンター以外にも公共施設の食堂等で木曜日にベジタリアン料理が提供されている。公共施設以外でもゲント市内のレストランやショップがこのキャンペーンに参加している。このキャンペーンに参加しているベジタリアンレストランは 13 店舗、それ以外のレストランは 19 店舗、ホテルでは 3 店舗となっている。また市内にはベジタリアン製品を購入できるショップが 10 店舗ある。キャンペーンに参加しているレストラン等では、店頭で **Donderdag Veggiedag** に参加を示すマークを掲示したり、木曜日に割引を行ったりしている。図 4-21 は店頭に貼られていたキャンペーンへの参加を示すステッカーである。



図 4-21 キャンペーンへの参加を示すステッカー

Donderdag Veggiedag がオフィシャルキャンペーンとなり、公共施設やレストラン等への広がりを見せている。行政側では **The environmental service** と **The Health service** がリーダーとなりこのキャンペーンを推進している。また補佐的に **Local employment office** や **Economy**

department, Department for education and training, Tourist information service and municipal promotion が Donderdag Veggiedag に関わっている。Economy department は会社, Health Service は病院, 大学や高校等には Department for education and training が, ホテル等の宿泊施設に対しては Tourist Information Service が, レストランには Local employment がそれぞれ対応し, キャンペーンへの参加を呼び掛けることやその調整を行っている²⁵⁾。

Donderdag Veggiedag がオフィシャルキャンペーンと承認される際に, 行政側が出した Statement が表 4-7 である。Statement の 1 から 6 までは畜産業のために多くの陸地が使われていることやゲント市民全員がこのキャンペーンを実施した際の環境的効果について述べられている。7 から 9 までは, ゲント市民が肉を食べ過ぎていることやベジタリアン料理を食べることが環境にとっても人々の健康にとっても良い影響を与えるということが述べられている。これらのことより行政側が Donderdag Veggiedag の持つ環境面と健康面のメリットに対して評価していることがうかがえる。

表 4-7 Donderdag Veggiedag のオフィシャルキャンペーンセレモニー
でゲント市が出した Statement²⁶⁾

STATEMENT
THE CITY OF GHENT CHOOSES FOR VEGGIE THURSDAYS
1. the city of Ghent is one of the 370 European climate cities;
2. the United Nations Food and Agriculture Organization in 2006 indicated the livestock industry as one of the major contributors to today's environmental issues;
3. livestock industry is responsible for 18% of the greenhouse gas emission in the world, which is more than the entire transport sector together;
4. 70% of global agricultural land is being used for the grazing of animals or for the cultivation of animal feed, and whereas 3 million hectares of forest are cleared yearly for meat consumption;
5. if every citizen of Ghent would leave out meat for one day a week, this would have the same beneficial effect on CO ₂ -emission as taking 20.000 cars off the road;
6. recent studies and investigations have proven that by eating less meat, we can reduce our negative environmental impact;
7. studies have shown that the Flemish eat too much meat and not enough vegetables and fruits;
8. eating meat on a daily basis will increase the level of cholesterol, and increases the risk of cardiovascular disease, some cancers, diabetes and obesity;
9. eating a vegetarian meal one day a week has a positive impact on the health of humans as well as the planet's;

また行政側が出している資料から Donderdag Veggiedag がゲント市のユニークなセールスポイントになり, 将来的な観光材料としてこのキャンペーンを捉えていることもうかがえる。ゲント市側が Donderdag Veggiedag を観光材料として捉えていることが読み取れる部分

である。ここでは Donderdag Veggiedag が英語表記の Thursday Veggie Day となっている²⁷⁾。

Ghent became a hot news item when Thursday Veggie Day was launched. Thursday Veggie Day is one of the Unique Selling Points of the City of Ghent. Besides, tourists who come to Ghent should be offered the possibility to participate in Thursday Veggie Day.

ゲント市が Donderdag Veggiedag をオフィシャルキャンペーンとしたことは世界の様々なメディアに取り上げられており、イギリスの The telegraph には“*Ghent declares every Thursday 'Veggie day'*”²⁸⁾、CNN には“*Belgian city goes meat-free*”²⁹⁾、presstext には“*Stadt Gent plant wöchentlichen vegetarischen Donnerstag*”³⁰⁾”という記事のタイトルでそれぞれ報道されている。図 4-22 は CNN が報じた記事である。

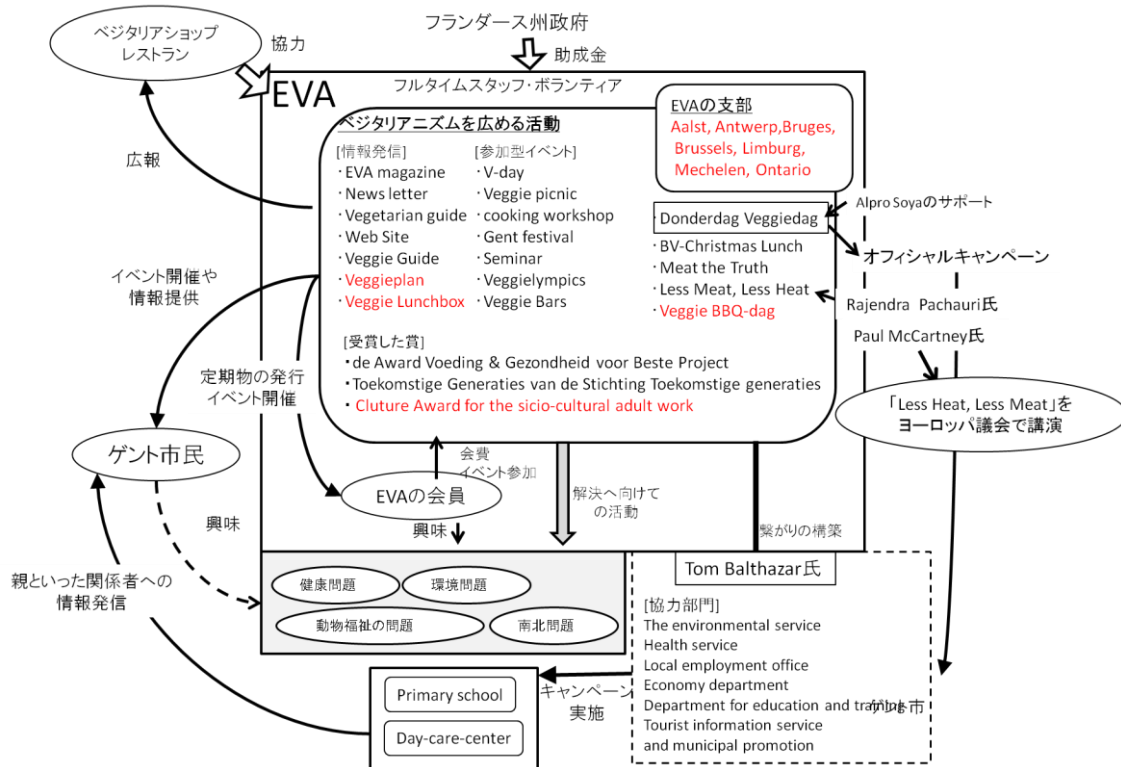
The screenshot shows a CNN news article from May 14, 2009. The headline is "Belgian city goes meat-free". The sub-headline reads: "(CNN) -- A Belgian city has decided to go 'veggie' for a day in an effort to highlight the environmental and health costs of eating meat." The article features a photo of a cow and text explaining that the city of Ghent, 50 km west of Brussels, has declared Thursdays "Veggie Day" to encourage residents to eat vegetarian meals. It mentions that stock breeding is a significant contributor to greenhouse gas emissions and that the city aims to reduce its ecological footprint. The article also notes that the city is the first in Europe to try such a scheme and that it hopes this will have a positive health impact. On the right side, there is a "STORY HIGHLIGHTS" section with three bullet points: "Thursdays will be declared 'Veggie Days' in Ghent", "Residents asked to opt for vegetarian meals at least once a week", and "City says eating less meat is healthy and can minimize ecological footprint". Below this is a "Next Article in World" link. On the far right, there is a "Most Popular on CNN" section with a list of 10 stories, including "Horrible tragedy mars Connecticut Christmas", "Police: 7 found dead in Texas", "U.S. offers \$10 million for al Qaeda messenger", "13 more deaths reported in Syrian unrest", "Many young immigrants still in legal limbo", "Formula maker says tests show no bacteria", "Missing 2-year-old found in Virginia", "Review: 'War Horse'", "10,000 doctors strike for better pay in India", and "Is Asma al-Assad standing by her man?". At the bottom right, there is a "We Recommend" section with the text "Stories you may be interested in based on past browsing".

図 4-22 CNN が Donderdag Veggiedag を報じた記事²⁹⁾

また Donderdag Veggiedag を推進する行政側の協力部門に Tourist Information Service が含まれていることから、ゲント市側がこのキャンペーンを観光材料として捉えていることが伺える。これらのことからゲント市側は Donderdag Veggiedag の環境や健康面でのメリット

その他の出来事として 2008 年にゲント市で行われた Pachuri 氏の「Less Heat, Less Meat」が、Pachuri 氏と McCartney 氏によりヨーロッパ議会(European Parliament)で講演されている。この講演のサポートは EVA によって行われており、EU の代表者が集まる場で畜産業と環境問題の関係性について発表できたことは、EVA にとっても大きな成果であり、また畜産業と環境問題の因果関係についての情報が EU 内の各国代表者と共有できる機会となったと予想できる。

図 4-23 は 2010 年から 2011 年における EVA のシステム図を表している。



2009 年に Donderdag Veggiedag がオフィシャルキャンペーンとなって以降、ベルギー内の都市に EVA の支部ができ、フランダース内における EVA の活動が広がりを見せていることがうかがえる。また 2009 年度まで 100,000€だったフランダース州政府の助成金が、165,000 €にまで増え、EVA の活動が州政府に評価されていることが分かる。

65

分けがされている。

表 4-8 現在の Council of Board のメンバー⁸⁾

現在のCouncil of Boardのメンバー	
Bart Franck	EVAのトップ。
Guy Frederickx	最近までカナダに滞在。
Elena Lievens	設立当初のメンバーで、現在はオランダ語を教えている。
An Rosiers	アントワープ市の弁護士として働いている。
Veerle Vandenabeele	ブリュッセルワールドショップのコーディネーター。
Mia Verschraegen	栄養学の講師。

表 4-9 ワークグループのメンバーとその担当⁸⁾

現在のワークグループスタッフ	
Tobias Leenaert (Director)	ドイツ語学者であり、カルチュラル・スタディーズについて学んでいた。EVAの全体責任者である。
Maureen Vandecappelle (Culinary staff)	環境科学を勉強しており、多くの“グリーン”な職を経験。EVAではDonderdag Veggiedagに興味のあるレストランなどをサポートやEVAの発信するベジタリアンメニューについて関わっている。
Laure Verschraegen (Accounting)	ビジネスマネジメントを学んでおり、いくつかのホテルで研修を経験し、アシスタントマネージャーにもなった。EVAでは会計を担当している。
Nena Baeyens (Communication)	国際政治とジャーナリズムを勉強し、テレビの編集者として働いていた。EVAではEVA magazineやnewsletterなどの編集を担当している。
Melanie Jaepues (DV staff)	教育心理学者であり、アメリカでfarm animalsのボランティアを経験。EVAではDonderdag Veggiedagの担当者として活動している。
Isabella Poppe (Staff)	弁護士であり、16年間、行政関係の仕事をし、現在は肉を減らすための政策立案を目指し熱心に活動している。
Annemarie IJkema (DV in Brussels)	経営学について学び、MobistarやMicrosoftで働いていた。EVAではブリュッセルのDonderdag Veggiedagを担当している。
Isabel Rainchon (Volunteer coordinator)	教育学について学び、その後5年間、環境プロジェクトで活動していた。EVAではボランティアコーディネーターを担当している。
Emily The Padt (Education staff)	道徳科学について勉強しており、その後教育に興味を持つようになった。EVAでは教育関係を担当している。
Arne Sansen (Web master & IT)	EVAではパートタイムで働いており、ウェブマスターとしてウェブサイトの管理を行っている。

Council of Board は 6 人で構成されており、ワークグループは 10 人のスタッフによって構成されている。設立当初のメンバーで名前を残しているのは、Council of Board では Guy Frederickx 氏と Elena Lievens 氏で、ワークグループでは Tobias Leenaert 氏となっている。ワークグループでは新たに Donderdag Veggiedag(DV)担当と Donderdag Veggiedag in Brussels 担当が作られている。また EVA の組織図(図 4-24)も 2004 年時(4-17)と比べ変化している。

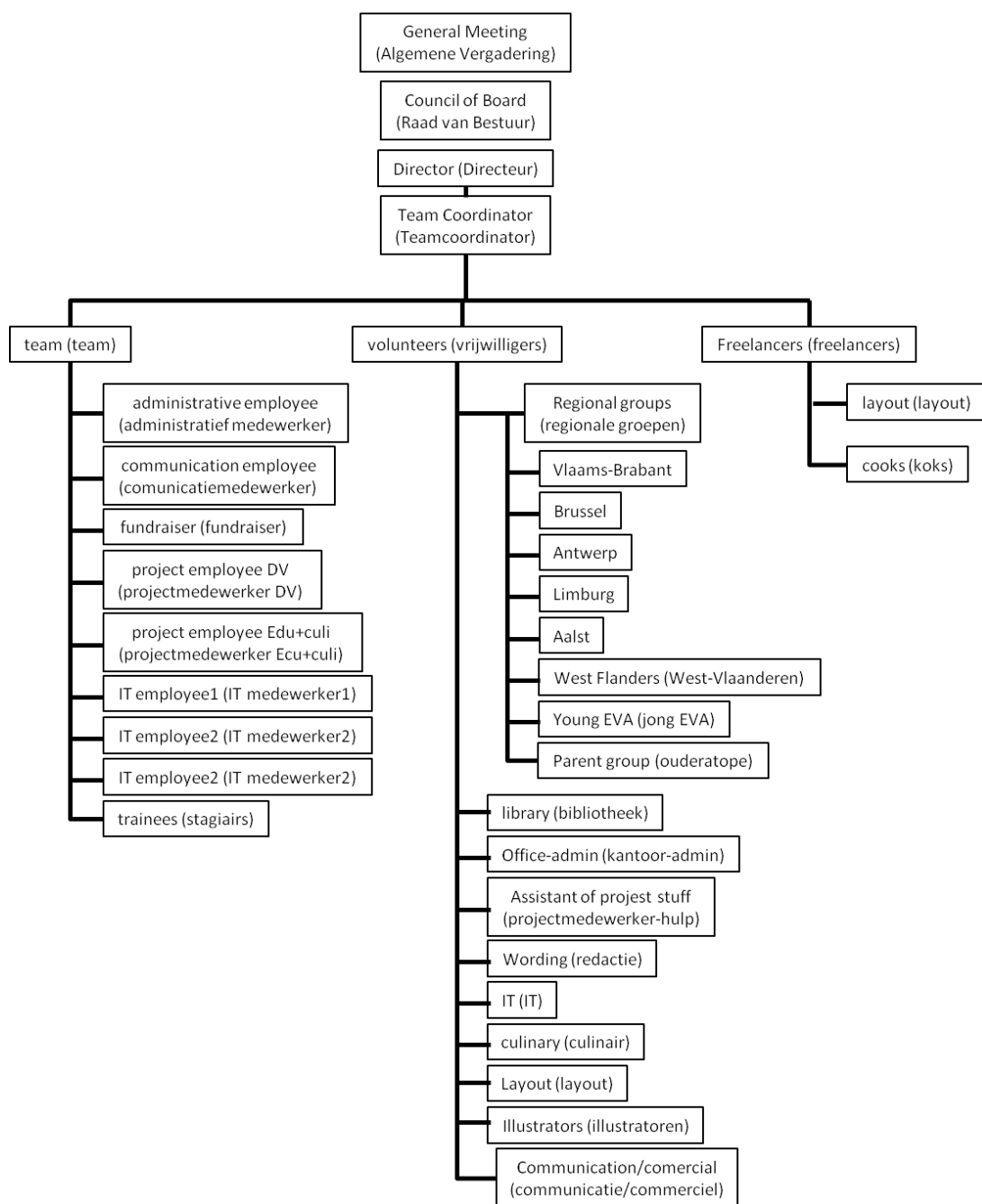


図 4-24 現在の EVA の組織図³²⁾

2004 年時の組織図からの変化として regional groups(地域のグループ)が加わったことが挙げられる。ブリュッセル(Brussels)やアントワープ(Antwerp)でも Donderdag Veggiedag を推進するグループができたことにより、ボランティアを通じた地域との繋がりが構築され、組織としての広がりを見せている。

4-2-5 Beleidsplan における SWOT 分析の比較³³⁾³⁴⁾

EVA はフランダース州政府の助成金を申請する際に Beleidsplan という計画書を作成し提出している。Beleidsplan では EVA のミッションやビジョン、計画書提出までに行った活動の概要、利害関係者との関係を表した図などが載せられている。本項では EVA が作成した Beleidsplan2005-2009 と Beleidsplan2011-2015 の中で載せられている SWOT 分析に注目し、この二つの期間の比較を行っていく。SWOT 分析に注目することで、EVA がどのような自己分析を行い、またどのような環境をチャンスと捉えているのかを明らかにし、また二期間の比較を行うことで、二つの期間における EVA の認識の違いや変化について明らかにすることができる。下記の図 4-25 及び図 4-26 は Beleidsplan2005-2009 及び 2011-2015 の SWOT 分析を図化したものである。二つの期間で内容が重複しているものは赤字で表記している。

	内部環境	外部環境
良影響	Strengths(強み) ・ 熱心で有能なボランティア ・ 情報処理や栄養といった知識や技術 ・ 情報の質の高さ ・ ガイドやウェブサイト等の利用しやすい情報発信ツール ・ 現代的やポジティブといった魅力的なスタイルとイメージ	Opportunities(機会) ・ ベジタリアン料理への関心の高まりとイメージの改善 ・ 非経済利益の重要性が上昇 ・ 行政等の持続可能な消費への関心の高まり ・ メディアの関心(メディアにとってベジタリアンは好材料) ・ 若者やお年寄り、女性のベジタリアンに対する関心 ・ 健康増進がトレンド ・ インフォメーションセンターの広がり ・ ネット使用の増加 ・ 助成金のチャンス
悪影響	Weaknesses(弱み) ・ ボランティア運営による時間不足 ・ ボランティアの構造的な問題(ボランティア間のコミュニケーションや協力体制等) ・ バックグラウンドの知識が不足 ・ EVA 自体の認知度の低さ ・ ホテルやレストラン、教育、政治等との関係性が欠如 ・ 資料の配布が不十分 ・ 組織構造と意思決定過程が不透明	Threats(脅威) ・ ボランティア運営の限界 ・ 情報の商業化による目的の喪失 ・ 健康ブームの移り変わりの早さ ・ 経済停滞

図 4-25 Beleidsplan2005-2009 の SWOT 分析

	内部環境	外部環境
良影響	Strengths(強み) ・ ボランティアやスタッフに恵まれている ・ 「食事を変えると世界が変えられる」というユニークなセールスポイント ・ Donderdag Veggiedag は強いキャンペーンであり、強いブランド ・ EVA やその活動に対するポジティブなイメージ	Opportunities(機会) ・ 農業や食糧危機 ・ 行政関係との協働の機会 ・ 消費者からの関心 ・ メディアからの継続的な関心 ・ ホスピタリティー業界におけるベジタリアン需要の高まり ・ 生産者側からの関心の高まり ・ 肉の消費を減らすことが環境や気候変動問題の部分的な解決へと繋がる ・ 肉の消費量を減らすことで健康や生活習慣病のリスクを下げる事が出来る ・ ベジタリアニズムがファッショナブルな生活と見なされるような傾向 ・ 他団体とコラボレーション企画等
悪影響	Weaknesses(弱み) ・ 一人の人物(ディレクターと共同設立者)へ仕事や知識、意思決定権が集中 ・ ホスピタリティーやケータリングに関する専門知識が不足 ・ 特定の領域における専門的技術が不足 ・ EVA の認知度が低いため、EVA とその活動が結び付けられていない ・ 伝統的な“チャリティー”と見なされておらず、資金や人員を集めるのが困難	Threats(脅威) ・ 助成金への高い依存 ・ 他団体からの反対の可能性 ・ 「Climate Fatigue」の可能性 ・ レストランやホテルにおけるベジタリアン料理の質や量が不十分 ・ 健康をうたい過ぎている (・ 他の団体がアジェンダの中に肉を入れた時の EVA のポジション)

図 4-26 Beleidsplan2011-2015 の SWOT 分析

ここから Beleidsplan2005-2009 と Beleidsplan2011-2015 の内容を Strengths(強み)・Weaknesses(弱み)・Opportunities(機会)・Threats(脅威)の項目ごとに比較していく。

(1)Strengths の比較

Beleidsplan2005-2009	Beleidsplan2011-2015
・熱心で有能なボランティア ・情報処理や栄養といった知識や技術 ・情報の質の高さ ・ガイドやウェブサイト等の利用しやすい情報発信ツール ・現代的やポジティブといった魅力的なスタイルとイメージ	・ボランティアやスタッフに恵まれている ・「食事を変えると世界が変わられる」というユニークなセールスポイント ・Donderdag Veggiedag は強いキャンペーンであり、強いブランド ・EVA やその活動に対するポジティブなイメージ

Strengths の中で二つの期間において共通してみられるのが、ボランティアに恵まれていることと EVA やその活動に対してポジティブなイメージがあるということである。そして相違点として挙げられるのが、Beleidsplan2011-2015 において「ユニークなセールスポイント」と「Donderdag Veggiedag という強いブランド」が新たな強みとして挙げられている点である。このことから EVA が「豊富な人材」と「ポジティブなイメージ」という 2 点を組織の大きな強みと捉えていることがうかがえる。また Beleidsplan2011-2015 から、EVA の強みに Donderdag Veggiedag が新たに加わり、EVA を代表する活動になったこともうかがえる。

(2)Weaknesses の比較

Beleidsplan2005-2009	Beleidsplan2011-2015
・ボランティア運営による時間不足 ・ボランティアの構造的な問題(ボランティア間のコミュニケーションや協力体制等) ・バックグラウンドの知識が不足 ・EVA 自体の認知度の低さ ・ホテルやレストラン、教育、政治等との関係性が欠如 ・資料の配布が不十分 ・組織構造と意思決定過程が不透明	・一人の人物(ディレクターと共同設立者)へ仕事や知識、意思決定権が集中 ・ホスピタリティーやケータリングに関する専門知識が不足 ・特定の領域における専門的技術が不足 ・EVA の認知度が低いため、EVA とその活動が結び付けられていない ・伝統的な“チャリティー”と見なされておらず、資金や人員を集めるのが困難

Weaknesses の比較を行うと、Beleidsplan2005-2009 ではボランティア運営であるが故の弱みが多く挙げられている。またレストランやホテル、教育関係といった外部との関係性の欠如も問題として挙げられている。一方、Beleidsplan2011-2015 においては外部との関係性が欠如していることや時間の不足といった問題が挙げられていない。おそらく Donderdag Veggiedag を始め、またそれがゲント市のオフィシャルキャンペーンとなったことにより、教育関係や行政といった外部との関係が構築されたと考えられる。Beleidsplan2011-2015 で

新たに挙げられている項目は、一人の人物への集中(仕事, 知識, 決定権)や情報の少なさである。二つの期間で共通していえることは、EVA の存在自体があまり知られていないということである。

(3) Opportunities の比較

Beleidsplan2005-2009	Beleidsplan2011-2015
・ベジタリアン料理への関心の高まりとイメージの改善 ・非経済利益の重要性が上昇 ・行政等の持続可能な消費への関心の高まり ・メディアの関心(メディアにとってベジタリアンは好材料) ・若者やお年寄り, 女性のベジタリアンに対する関心 ・健康増進がトレンド ・インフォメーションセンターの広がり ・ネット使用の増加 ・助成金のチャンス	・農業や食糧危機 ・行政関係との協働の機会 ・消費者からの関心 ・メディアからの継続的な関心 ・ホスピタリティー業界におけるベジタリアン需要の高まり ・生産者側からの関心の高まり ・肉の消費を減らすことが環境や気候変動問題の部分的な解決へと繋がる ・肉の消費量を減らすことで健康や生活習慣病のリスクを下げる事が出来る ・ベジタリアニズムがファッショナブルな生活と見なされるような傾向 ・他団体とコラボレーション企画等

Opportunities の比較を行うと、Beleidsplan2005-2009 においては社会問題への関心の高まりをチャンスと捉えている。一方で、Beleidsplan2011-2015 では EVA 自体に対する行政や消費者の関心をチャンスと見なしている。おそらく 2009 年に Donderdag Veggiedag がオフィシャルキャンペーンとなり、行政との関係が構築されたことで EVA に対する行政の関心が高まったこと、また学校やデイケアセンターといった公の施設を通じて、EVA に関する情報が発信されるようになったことが影響していると考えられる。また Beleidsplan2011-2015 においては、ベジタリアニズムが環境や健康問題へ貢献するということを機会として挙げている。このことからベジタリアニズムを推進する 3 つの大きなポイント「環境」、「動物愛護」、「健康」のうちの「環境」と「健康」が活動を展開する上での重要なポイントと考えていることが読み取れる。

(4)Threats の比較

Beleidsplan2005-2009	Beleidsplan2011-2015
・ ボランティア運営の限界 ・ 情報の商業化による目的の喪失 ・ 健康ブームの移り変わりの早さ ・ 経済停滞	・ 助成金への高い依存 ・ 他団体からの反対の可能性 ・ 「Climate Fatigue」の可能性 ・ レストランやホテルにおけるベジタリアン料理の質や量が不十分 ・ 健康をうたい過ぎている (・ 他の団体がアジェンダの中に肉を入れた時のEVA のポジション)

Threats の比較を行うと、Beleidsplan2005-2009 ではボランティア運営であることに対する不安が挙げられているが、Beleidsplan2011-2015 ではそのような記述はなく、助成金を受け始めフルタイムスタッフを雇用できる環境が生まれたことによりその不安が解消したと考えられる。一方で、Beleidsplan2011-2015 では助成金への高い依存が問題視されている。また二つの期間に共通して、経済停滞や「Climate Fatigue」といった社会の状況を脅威と捉えていることもうかがえる。

4-3 他事例との比較

EVA の活動をアメリカの **Meatless Monday**、イギリスの **Meat Free Monday** と活動内容や情報発信の方法等に着目し比較していく。**Meatless Monday** と **Meat Free Monday** の運営面に関する情報が手に入らなかったため、今回は活動内容及び団体の作成物の比較のみとした。

EVA との比較対象をこの二つに選んだ理由としては、**Meatless Monday** については、アメリカで第一次世界大戦時から **Meatless Monday** が取り組まれており、「週一ベジタリアン運動」としては世界で初めての例であることが選択の理由であり、**Meat Free Monday** についてはイギリスが現代的な動物愛護運動の発祥地であり、動物愛護に関して積極的な取り組みを行っていることが選択の理由である。

下記は、それぞれの団体における情報の発信方法や活動内容の有無を表した表である。

表 4-10 それぞれの団体における活動の有無

		EVA	Meatless Monday	Meat Free Monday
HP		○	○	○
Facebook		○	○	○
Twitter		○	○	○
Magazine		○	×	×
ニュースレター		○	×	○
レンビ	動画	○	○	×
	本	○	×	○
オンライン販売 (団体以外のグッズも含む)	種類数	27	25	3
料理教室		○	×	×
イベントの開催		○	×	×
行政との協働した活動		○	×	×

この表から、EVA が他の団体と異なる情報発信の方法を行っていることが読み取れるが、活動の中で大きく異なる点は、参加型のイベントを EVA が行っている点である。EVA がベジタリアニズムを広めることを活動の目的にしていることもあるが、ベジタリアンの料理教室や V-night 等の参加型イベントを積極的に行っている。Donderdag Veggiedag はその活動の中の一つという位置付けで存在しているが、現在では Donderdag Veggiedag が EVA の強いブランドとなっている。また他の事例と異なる点は、EVA が活動の拠点地を持っていることである。現在ではフランダース州内の他の地域にも EVA の活動が広まっているが、その中心は EVA の設立当初からアントワープ市であった。一つの活動地を持つということは、活動の軸ができ、また行政との協働を行いやすい環境を作り出しているといえる。一方、**Meat Free Monday** や **Meatless Monday** は一つの活動地を持っているわけではなく、週一ベジタリアンを取り入れようとしている団体や個人に対して情報提供したり、その重要性を発信する活動といえる。おそらくそれぞれの団体で活動方針が異なっているだろうが、EVA はより能動的な活動、**Meatless Monday** と **Meat Free Monday** は受動的な活動といえる。

下記はそれぞれの団体がキャンペーンを推進するツールとして作成したものを一部抜粋したものである。

表 4-11 Meat Free Monday の作成物³⁵⁾

MFM Poster	MFM Empty Belly Poster	MFM Logo Poster

表 4-12 Meatless Monday の作成物³⁶⁾

Barnyard Friends Campaign	Kids Campaign	Chef Campaign

表 4-13 EVA の作成物³⁷⁾

DV for Kids	E-Cards	E-Cards

Meat Free Monday はキャンペーンのロゴを中心としたデザインであり、Meatless Monday は一般向け、子供向け、シェフ向けと対象者別のイラストデザインとなっている。一方、EVA も Meatless Monday 同様、対象者別のデザインとなっているが、イラストの他に写真を用いているのが特徴である。上記以外で EVA が発行している EVA magazine やパンフレット、料理本等(表 4-1)にも写真が多用されており、どの発行物もデザイン性に優れているといえる。

これらのことから料理教室や V-night 等の参加型イベントを積極的に行っている点と、種類も多く、デザイン性に優れた発行物を持っている点が他の 2 団体に見られない EVA の活動における特徴として挙げられる。

4-4 EVA の活動から読み取れること

本項では、これまでに紹介した EVA の活動の変遷や SWOT 分析の比較から読み取れることを述べていく。

4-4-1 EVA の活動におけるターニングポイント

EVA の活動変遷から読み取れる活動のターニングポイントとなった出来事として下記のことを挙げられる。

- ①フランダース州政府からの助成金
- ②Donderdag Veggiedag の開始
- ③Tom Balthazar 氏との関係構築

まず EVA の活動に変化をもたらしたターニングポイントとして①フランダース州政府からの助成金を受け始めたことが挙げられる。助成金の開始によって、フルタイムスタッフを雇用できる環境が整えられ、ボランティア運営による不安定さが解消されたことが SWOT 分析から読み取れる。助成金の開始による雇用環境の改善と活動資金の確保が、EVA の活動を活発化させる要因となったことが考えられる。

そして次に②Donderdag Veggiedag が 2007 年に開始されたことも、EVA の活動を変化させた要因の一つであるといえる。EVA の活動年表から 2007 年以降の EVA の活動が活発に行われていることが読み取れ、また Beleidsplan2011-2015 における SWOT 分析の Strengths(強み)として「Donderdag Veggiedag という強いブランド」という項目が挙げられていることから、コンセプトの分かりやすい Donderdag Veggiedag は EVA の新たな強みとなり、EVA を代表するユニークな活動の一つとなったと予想できる。また Donderdag Veggiedag のコンセプトがシンプルで人々に覚えられやすい点や、完全なベジタリアンとなることよりも実践しやすい点が、人々の理解を得ることに繋がり、Donderdag Veggiedag に参加や賛同する人が増え、EVA の活動を推進したと考えられる。

最後に、③Tom Balthazar 氏との関係構築も EVA の活動に変化をもたらした出来事として

挙げられる。Balthazar 氏との関係は、パチャウリ氏の講演「Less Meat, Less Heat」に Balthazar 氏も訪れていたことが契機となり構築された。そして関係が構築された年の翌年である 2009 年には、EVA を代表するキャンペーンである Donderdag Veggiedag がゲント市のオフィシャルキャンペーンとなっている。Balthazar 氏との関係を構築できたことは、オフィシャルキャンペーンへと至る大きな要因になったと考えられる。またゲント市のオフィシャルキャンペーンになったことで、市を通じた Donderdag Veggiedag の宣伝がなされ、そして学校やデイケアセンターといった公共施設を通じた市民との繋がりが構築されたことにより、EVA のネットワークが広がっている。また行政に認められている団体として EVA 自体の信頼度が上がったとも推測できる。このように行政との関係構築は、EVA 側に大きなメリットをもたらすことになったが、ゲント市が Donderdag Veggiedag をオフィシャルキャンペーンと認めたことによって、ゲント市自体がメディアの中で話題となり、ゲント市側にも街の宣伝効果というメリットをもたらしている。またゲント市側の資料からも、Donderdag Veggiedag が観光材料としての可能性を持っていると行政側が期待していることが読み取れる。

4-4-2 EVA の活動の特徴

EVA の活動変遷から読み取れる EVA の活動の特徴として下記のことが挙げられる。

- ①充実した情報発信ツール
- ②ポジティブな活動
- ③質の高いマネジメント
- ④行政との協働関係構築

EVA の活動に見られる特徴として、まず①充実した情報発信ツールが挙げられる。Meatless Monday や Meat Free Monday といった事例と比べ、EVA は市民に対して情報を発信するツールが充実しているといえる。年に 4 回出版されている EVA magazine はデザインのリニューアルがされ、載せられている内容についてもベジタリアン料理のレシピやベジタリアンの栄養についてといった読み手が必要としている情報が中心であり、EVA の活動を伝えるツールというよりも、読み手側のニーズに合わせて雑誌の記事が構成されているような印象を受け、ベジタリアニズムに興味のある読み手にとっては魅力的な内容となっている。また Newsletter に関しては 3 種類が発行され、シェフ向けの料理本や子供向けのパンフレット等、読み手の対象を細かく分け、読み手に合った情報ツールを用いているところが、Meatless Monday や Meat Free Monday といった事例との違いである。

次に②ポジティブな活動が EVA に見られる特徴として挙げられる。Beleidsplan の SWOT 分析において、Beleidsplan2005-2009 及び Beleidsplan2011-2015 の両方で「ポジティブなイメージがある」ということが Strengths(強み)として挙げられていた。EVA がポジティブなイメージを持たれるよう心がけている姿勢として、前章で説明した「Donderdag Veggiedag (Thursday Veggie Day)」という名前の付け方を挙げる事ができる²²⁾。

“A difference between those two campaign names is that ‘veggie’ is a more positive formulation than ‘meatless’, ...”

また Leenaert 氏の言葉からも、人々に不快な思いをさせるような活動を避けていることを読み取ることができる³⁸⁾。

... we try to avoid to pointing fingers or work on the sentiments of people. Experience shows that horrible videos and pictures of dying animals often have the opposite effect.

EVA はその活動で物事に対する非難をしたり、また死んだ動物の写真を見せる等して人々に不快な思いを与えることを避けている。このポジティブな活動を心掛ける EVA の活動方針には、Leenaert 氏のアメリカでのボランティア経験が大きく影響を与えていると考えられる。アメリカには主張を暴力的な表現で表す動物愛護団体と暴力的な表現を避ける団体の両方が存在し、Leenaert 氏は後者の団体でボランティア活動を半年間経験した。Leenaert 氏は暴力を積み重ねたとしてもそれ以上のものを運んでこないと話している³⁹⁾。

“...the organizations I worked for promoted positive actions and looked down on animal rights groups who use violence towards humans to fight violence against animals. The sum of violence doesn’t bring you any further.”

おそらくこの Leenaert 氏の経験や学びが現在の EVA の活動方針の基礎を作ったと予想できる。多くの動物愛護団体がファッションのために皮を剥がされている動物の写真や、感染症にかかり瀕死の状態である家畜の写真などを人々に訴えかけるツールとして利用しているのに対し、人々を不快にさせるような活動はせず、よりポジティブな活動を心がけている。またポジティブな印象を与える方法として「個人の選択の尊重」ということも挙げられる。言い換えると、EVA は一方的にベジタリアニズムを押し付けることはしないということである。それは下記の Leenaert 氏の言葉からも読み取ることができる⁴⁰⁾。

“...EVA obviously respects anyone’s food choices doesn’t try to force ideas on others, ...”

EVA はベジタリアニズムを押し付けるのではなく、EVA 自身の活動を通じて、動物愛護や環境、飢餓問題や健康といったことに取り組もうとしている人達に、ベジタリアンになることが現実的な選択肢であることを示し、問題解決へ向けての意識を高めることを望んでいる³⁸⁾。

What we want to do is raise awareness for a solution, showing that being a vegetarian is a real alternative, available for everybody who wants to do something for animals, but also for the climate, the environment, the problem of world hunger and health.

またベジタリアニズムを選択する理由も人それぞれで良いという考えを持っており、スタッフのモチベーションを維持させている「動物愛護」という部分を特に強調することはない。それは下記の Leenaert 氏への質問からも読み取ることができる⁴¹⁾。

質問(著者) : Why you don't have activities like other normal animal welfare organizations? They insist directly that the animal welfare is very important. Do you think the weekly vegetarian is easy to participate for ordinary people, and has positive image?

回答(Leenaert 氏) : we think that animal welfare can most be helped by eating vegetarian, but that people may eat vegetarian for different reasons, which may have nothing to do with animals. so we emphasize that people can eat more vegetarian for any reasons, and don't emphasize the animal factor.

EVA は動物愛護に対して最も貢献する方法はベジタリアンになることと考えているが、人々がベジタリアンを選択する理由は動物とは全く関係のない理由などでもあるため、EVA はどんな理由からでもベジタリアンを選択できることを強調しており、ベジタリアンを選択する理由として「動物愛護」という理由を自身の活動で強調していない。

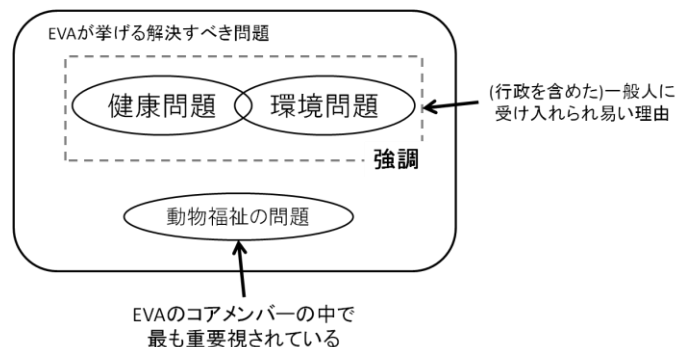


図 4-27 EVA の活動に見られる戦略

また Leenaert 氏は次の世論調査からも、EVA が動物愛護を全面に出さない理由が読み取れるとしている⁴¹⁾。この世論調査はゲント市と EVA が協働で行ったもので、Donderdag Veggiedag に参加しているかどうか、またその理由などを聞いたものであり、回答はゲント市(Ghent)の人口に対する割合とフランドルス州(Flanders)の人口に対する割合で表記されて

いる。下記の表 4-14 は参加理由の回答のみを抜粋したものである。

表 4-14 キャンペーンへの参加理由

	Ghent	Flanders	comments
Motivation			(multiple answers were possible)
health	48%	45%	1ste place
environment/climate	44%	34%	
tasty	40%	36%	
culinary variation/curiosity	35%	26%	

この調査の結果から Donderdag Veggiedag への参加理由として「health(健康)」が一番大きな理由であることが分かる。また「environment/climate(環境)」も人々の関心を集めている一つの大きな理由であることが読み取れる。

この調査結果からも EVA が動物愛護を直接的に訴えない、また強調しない理由が読み取れると Leenaert 氏が挙げているということは、人々の関心は動物愛護よりも健康や環境に向いていると判断し、社会に受け入れられやすい活動内容を EVA が選択し、また目指していると考えられる。このことから EVA が外部の反応を予想し、最も好ましい活動や伝え方を選択していることがうかがえる。

次に EVA の特徴として③質の高いマネジメントが挙げられる。NPO に限らず、企業や行政など全ての組織においてマネジメント(経営管理)は重要であり、マネジメントが組織を動かし、存続させているといえる。EVA のマネジメントの高さは次の (1)ミッション・ステートメントの明確化 (2)解決手法としてのベジタリアニズム (3)コアメンバーのまとまりから読み取ることができる。以降、それぞれについて説明していく。

(1)ミッション・ステートメントの明確化

まず内部のマネジメントが出来ている点として、EVA が自らのミッション・ステートメントを明確に出来ている点が挙げられる。組織のミッション・ステートメントには次の 3 つの内容 ①パーパス・ステートメント (Purpose Statement) ②ビジネス・ステートメント (Business Statement) ③バリュー・ステートメント (Value Statement) が含まれている。①のパーパス・ステートメントは何のために何を行っていく団体なのか、つまり目的を明確化することである。次に②のビジネス・ステートメントは①で明確化した目的を達成するために具体的に行っていくことである。そして③のバリュー・ステートメントはその団体

がどのような価値観や倫理観に則っているのかを考えていくことである。EVA においてはパーパス・ステートメントが動物愛護や環境問題のためにベジタリアニズムを広めていくことであり、ビジネス・ステートメントが料理教室や V-day といったベジタリアニズムに関連するイベントを実施し、人々がベジタリアン料理に触れる機会を設けていくことである。そしてバリュー・ステートメントは個人の選択を尊重していくことである。EVA では個人の選択を尊重し、ベジタリアニズムを強制することではなく、イベントの開催が動物愛護や環境問題といったことに対する人々の意識づくりのきっかけになることを EVA は考えている。

表 4-15 EVA のミッション・ステートメント

	ミッション・ステートメントの内容	EVA のミッション・ステートメント
①パーパス・ステートメント	団体の目的の明確化	動物愛護や環境問題のためにベジタリアニズムを広めていくこと
②ビジネス・ステートメント	具体的に行っていく活動	料理教室や V-day などのベジタリアニズム関連のイベントを行うこと
③バリュー・ステートメント	その団体の価値観や倫理観	個人の選択を尊重していくこと

このように組織のミッションを明確にすることは、組織を構成するスタッフの行動や目標を統制する上で重要である。他団体に対して理解を求める際にも、明確なミッション・ステートメントを示すことができれば、具体的なイメージを与えることができ、その組織の考えや目標としていることが伝わりやすくなる。外部とのネットワーク構築においても、組織内部のマネジメントにおいてもミッション・ステートメントが重要な役割を担っているのである。

(2)解決手法としてのベジタリアニズム

次に、EVA が様々なテーマを持ち、活動しているということも EVA の強みとして挙げられる。EVA が持っているテーマは「動物の愛護(動物福祉や保護も含め)」,「環境問題」,「南北問題」,「健康問題」と多岐にわたっている。このことはそれぞれのフィールドから協力者や共感者を得やすいということを意味している。田尾(2001)は「意欲的なボランティアを多く動員できた NPO や NGO ほど、より多くの、より良質の成果を多く得ることができ、世間の評価も高くなる。」⁴²⁾としており、EVA の場合は、動物の分野で活動している人々、環境の分野で活動している人々などそれぞれのフィールドで活動している人々の理解を得やすく、それがより多くの協力者を得やすい環境を生み出しているといえる。しかし、様々なフィールドから協力者が集まることは内部マネジメントの部分で新たな困難を生じさせる。様々なフィールドから人が集まるということは、それだけ合意形成が難しくなり、また内部の統制が取りづらくなるということでもある。田尾(2001)は「バラバラの考えや行動

を一つにまとめるのは、規則でもなければ規範や基準でもない。価値、あるいは、イデオロギーである。」⁴³⁾としている。つまり内部間で共通した価値観を共有し、それを管理することが重要なのである。EVA の場合、この様々なフィールドから得られる協力者を「ベジタリアニズム・ヴィーガニズム」で統一していると考えられる。EVA では環境問題や動物愛護問題、南北問題といった世界の諸問題をベジタリアニズムの広まりによって解決しようとしている。つまり EVA ではまず「ベジタリアニズム・ヴィーガニズムを広める」ことをまず初めの目標としており、それを達成した先に「動物愛護、環境、南北問題、健康問題への貢献」があると捉えている。図 4-28 はそれを図化したものである。

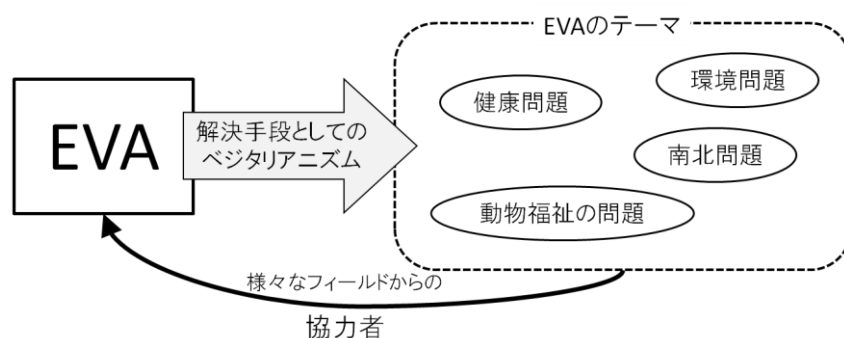


図 4-28 EVA が掲げるテーマとそれに対するアプローチ方法

動物愛護・福祉や環境、健康問題といった様々なフィールドから、動物愛護・福祉はその分野独自の方法で問題の解決を試みたり、環境問題についてもその独自の方法をとるといった、その分野独自の方法で問題解決に対してアプローチをかけたとすると、それぞれが別のベクトルを持つことになり、全体の統制を取ることが難しくなる。しかし、それぞれの問題に対するアプローチ方法を一つに統一することで、目指す最終的な目標は違ったとしてもその目標への道は「ベジタリアニズムの普及」という一つに絞られ、全体のマネジメントを行いやすい環境が作られると予想できる。

(3)コアメンバーのまとめ

EVA のスタッフ間に大きな二つの共通点が存在することも、組織としてのまとめを生んでいる要因であると考えられる。その 2 つの共通点は「活動のモチベーションが動物愛護である」点と「ベジタリアン・ヴィーガンである」点である。まず「活動のモチベーションが動物愛護である」という点について説明していくと、EVA では「環境」や「動物愛護」、「南北問題」等といった様々なテーマを持ち活動しているが、スタッフの間では「動物愛護(保護や福祉も含め)への貢献」という部分が最も重要であると考えられている。すなわち、EVA のスタッフのモチベーションを維持させているのは「動物愛護」なのである。前述した通り、組織内の行動や考えを一つにまとめるために、内部間で共通の価値観を持ち、それを管理することはとても重要であり、EVA においてはスタッフ間で最も共通した

価値観が「動物愛護」である。これはEVAのスタッフ間におけるまとまりを生む要因となっていると考えられる。次に、もう一つの共通点である「ベジタリアン・ヴィーガンである」についてだが、EVAのスタッフは全員がベジタリアン・ヴィーガンの食事スタイルを取っている。ベジタリアニズムを推進する団体のメンバーとしては当たり前のことであるが、一般的にベジタリアンやヴィーガンといった食事スタイルはまだマイナーである。毎日の生活においても重要な「食事」に対して同じ態度を取っているということは、メンバー間の「凝集性」を高めていると考えられる。凝集性とは集団にいる人達が、互いに魅力を感じている程度であり、この程度が高いほど、仲間という気分が高くなり、一致団結して行動するようになるとされている⁴⁴⁾。EVAにおいては、この二つの大きな共通点「活動のモチベーションが動物愛護である」点と「ベジタリアン・ヴィーガンである」点が、メンバーの間で互いに魅力を感じる度合いを強め、メンバー間の凝集性を高めていると予想でき、その活動のクオリティやメンバー間のモチベーションを保たせていると考えられる。

これら3つの点からEVAのマネジメントの質が高いことが読み取れ、マネジメントの高さがEVAの特徴であり、また強みであるということが出来る。

最後にEVAの特徴として、④行政との協働関係構築が挙げられる。EVAはフランダース州政府からの助成金やDonderdag Veggiedagのオフィシャルキャンペーンなど、行政との協働関係を上手く構築できている。EVAが行政との協働関係を築くことができた理由として、Meatless MondayやMeat Free Mondayとは違い、一つの活動拠点を持っていることが一つの要因となったと考えられる。

この行政との協働関係構築がDonderdag Veggiedagを大きく推進する一要因となった。それはDonderdag Veggiedagがゲント市のオフィシャルキャンペーンとなったことによって、小学校やデイケアセンターといった公共施設との繋がりを構築するに至っていることから読み取れる。

EVAと行政との間に見られるようなネットワークの構築は、一つの団体では成せないことを可能にしたり、互いの足りない部分を補い合うことができたりと、協働することによる相乗効果が見込める⁴⁵⁾。図4-29は二つの組織が協働した際に生まれる相乗効果を表したものである。ここでは組織Aと組織Bが協働してプロジェクトチームを動かすことにより、新たなサービス提供や付加価値創造が可能となることを表している。また図4-29で「創造的協働」の考え方を現在のEVAの状況に当てはめると、図4-30のようなEVAと行政との関係を描くことができる。

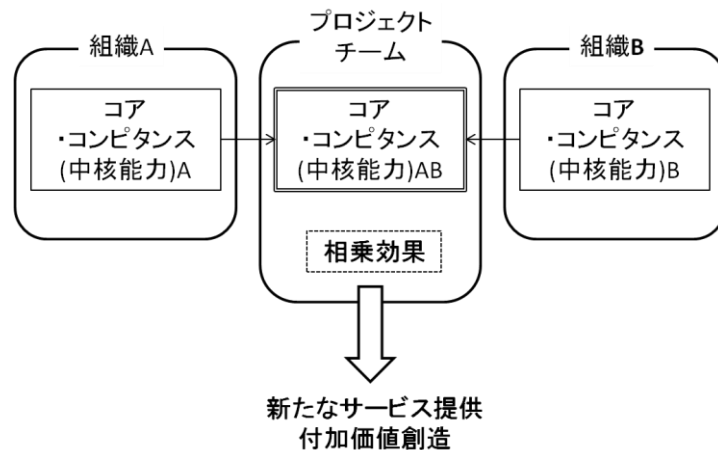


図 4-29 創造的協働 ⁴⁵⁾

出典：田尾雅夫，川野祐二：ボランティア・NPO の組織論 -非営利の経営を考える-，学陽書房，p.185 (2004)

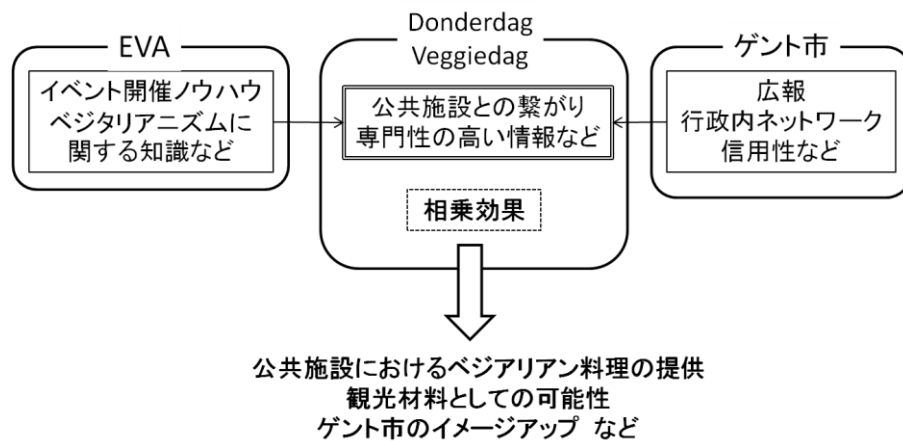


図 4-30 EVA とゲント市の協働

2009年に Donderdag Veggiedag がゲント市のオフィシャルキャンペーンとなったことにより，図 4-29 のような協働関係が EVA とゲント市の間に新たに構築された．それを契機に市の学校やデイケアセンターにおいて，Donderdag Veggiedag の実施を開始するなど，新たなフィールドを開拓することが出来ている．またゲント市のイメージアップや観光材料としての可能性が生まれていることから，行政側にもメリットが発生していることは確かである．このオフィシャルキャンペーンを契機にした行政との協働関係を築ききっかけとなった出来事は，オフィシャルキャンペーンとなる前年の 2008 年に EVA が開催した Pachauri 氏の講演会である．EVA はその講演をきっかけにゲント市の市議会議員である Balthazar 氏との関係を構築し，オフィシャルキャンペーンへの一步を前進させている．NPO といった

市民団体において、政治家との関係構築は「NPO が考える方針を行政に認めさせたり、NPO の考える協働のかたちを有利に運ぶ場合にも、政治家の力は有効である。」⁴⁶⁾とされており、EVA は政治家の力を有効に使い、行政とのネットワーク構築につなげたと考えられる。また EVA の場合は Balthazar 氏の力が EVA と行政のネットワーク構築に大きく貢献したことが言えるが、もともと環境や健康といった面からベジタリアニズムに対して興味を持っていた Balthazar 氏を EVA と行政との橋渡し役として選んだことも EVA の戦略として捉えることができる。

これらのことが EVA の活動変遷に見られるターニングポイントと、EVA の活動に見られる特徴と強みである。

4-5 第四章のまとめ

本章では、EVA の設立から現在に至るまでの活動変遷を見てきた。先に EVA の特徴として ①充実した情報発信ツール ②ポジティブな活動 ③質の高いマネジメント ④行政との協働関係構築 の 4 つを挙げたが、これらからも読み取れるように、EVA は市民側、行政側に対して、とてもバランスのとれた活動をしている。様々な情報ツールを用いて、ベジタリアニズムの情報を発信しつつ、また参加者がベジタリアン料理や人とのコミュニケーションを楽しめる参加型イベントも数多く企画している。このようにベジタリアニズムに興味を持つ人々との繋がりを作り、広げていくような活動をしている一方で、フランダース州政府やゲント市との協働関係も構築し、行政との繋がり、そして公共施設を通じた市民との繋がりも構築していった。

またゲント市内にベジタリアンレストランやベジタリアンショップが充実していることも、ベジタリアンとしての生活を不便なく送れる環境を提供しているといえる。

EVA の活動変遷を追っていく中で、EVA の活動にとっても明るい印象を受けつつも、同時に、明確な活動の方向性やそれに対する良く考えられたアプローチ方法を見ることができた。このこともまた、EVA の活動が成功している要因であると考えられる。

<参考文献>

- 1) ベルギー観光局ワロン・ブリュッセル : <<http://www.belgium-travel.jp/base/>>, 2011-10-10
- 2) 財団法人 自治体国際化協会 : <<http://www.clair.or.jp/j/exchange/jirei/shimai/ishikawa.html>>, 2011-12-19
- 3) Let's go : <<http://www.letsgo.com/maps/europe/western-europe>>, 2011-11-16
- 4) lonely planet : <<http://www.lonelyplanet.com/maps/europe/belgium/>>, 2011-10-10
- 5) CongoForum : <
http://www.congoforum.be/en/belgiquedetail.asp?subitem=23&id=43147&Belgische_fiche=selected>, 2011-11-16
- 6) EVA : Beleidsplan2011-2015, p.9
- 7) EVA : Publicaties <
http://www.vegetarisme.be/index.php?option=com_content&view=article&id=1096&Itemid=574>, 2012-1-26
- 8) EVA : Wie is wie? <
http://www.vegetarisme.be/index.php?option=com_content&view=article&id=6&Itemid=339>, 2012-1-26
- 9) EVA : <
http://www.vegetarisme.be/index.php?option=com_content&view=article&id=5&Itemid=338>, 2012-1-4
- 10) EVA : <<http://www.vegetarisme.be/>>, 2011-11-25
- 11) Tobias Leenaert : Making Meat Moderation Marketable -the case for a weekly vegetarian day-, EVA, p.4
- 12) Veggie Monday : <http://veggie monday.japanteam.net/why_monday.htm>, 2011-11-27
- 13) Donderdag Veggiedag : <<http://www.donderdagveggiedag.be/>>, 2011-11-25
- 14) Veerle Vrindts : “Searching for the missing piece of empathy” -Tobias Leenaert about vegan cats, tasteless politicians and the psychology of meat-, Crucially Different Lives (2009)
- 15) Ashoka Fellow Japan : <<http://japan.ashoka.org/activity/fellow.html>>, 2011-12-22
- 16) EVA : Beleidsplan2005-2009, p.14
- 17) EVA : interviews <
http://www.vegetarisme.be/index.php?option=com_alphacontent&view=alphacontent&Itemid=444>
- 18) 田尾雅夫, 川野祐二 : ボランティア・NPO の組織論 -非営利の経営を考える-, 学陽書房, pp.92-95 (2004)
- 19) EVA : Beleidsplan2005-2009, p.75 (2004)
- 20) EVA : Beleidsplan2005-2009, p.72 (2004)

- 21) Alpro Soya : <<http://corporate.alpro.com/en/organic-food-company.html>> , 2012-1-25
- 22) Tobias Leenaert : 前掲論文, p.3
- 23) BBC News : Shun meat, says UN climate chief <<http://news.bbc.co.uk/2/hi/7600005.stm>> , 2012-1-26
- 24) Xixi Zhao : Is Social Marketing Effective? ---- A Case Study of Gent Veggie Day, Faculty of Business and Economics (2011)
- 25) Stad Gent : Thursday Veggie Day in Ghent – detailed information, p.4-5 (2010)
- 26) Tom Balthazar : Statement --- the city of gent chooses for veggie Thursdays, Environment and Social Affairs (2009)
- 27) Stad Gent : 前掲資料, p.11 (2010)
- 28) The Telegraph : Ghent declares every Thursday ‘Veggie day’ <<http://www.telegraph.co.uk/news/worldnews/europe/belgium/5322315/Ghent-declares-every-Thursday-Veggie-day.html>> , 2011-12-26
- 29) CNN : Belgian city goes meat-free <<http://edition.cnn.com/2009/WORLD/europe/05/14/belgium.ghent.veggie.day/index.html>> , 2011-12-26
- 30) presstext : Stadt Gent plant wöchentlichen vegetarischen Donnerstag <<http://www.presstext.com/news/20090513037>> , 2011-12-26
- 31) European Parliament : Press release -Global warming: less meat = less heat <<http://www.europarl.europa.eu/sides/getDoc.do?pubRef=-//EP//TEXT+IM-PRESS+20091130IPR65643+0+DOC+XML+V0//EN>> , 2012-1-26
- 32) EVA : Beleidsplan2011-2015, p.14 (2010)
- 33) EVA : Beleidsplan2005-2009, p.25-32 (2004)
- 34) EVA : Beleidsplan2011-2015, p.17-20 (2010)
- 35) Meat Free Monday : <<http://www.meatfreemondays.com/>> , 2012-2-24
- 36) Meatless Monday : <<http://www.meatlessmonday.com/>> , 2012-2-24
- 37) Donderdag Veggiedag : <<http://www.donderdagveggiedag.be/>> , 2012-2-24
- 38) Veerle Vrindts : “Searching for the missing piece of empathy” -Tobias Leenaert about vegan cats, tasteless politicians and the psychology of meat-, Crucially Different Lives , p.7 (2009)
- 39) Veerle Vrindts : 前掲資料, p.6 (2009)
- 40) Veerle Vrindts : 前掲資料, p.8 (2009)
- 41) Tobias Leenaert <tobias@evavzw.be> : QUESTION <2011.9.10>, 私信
- 42) 田尾雅夫 : ボランティアと NPO・NGO - 組織論の立場からの論点整理 -, 国際協力研究, 17(1), p.3 (2001)
- 43) 田尾雅夫 : 前掲論文, p.4 (2001)
- 44) 田尾雅夫, 川野祐二 : 前掲文献, p.79 (2004)

- 45) 田尾雅夫, 川野祐二 : 前掲文献, pp.182-185 (2004)
- 46) 田尾雅夫 : 前掲文献, p.187 (2004)

第五章 各章のまとめと結論

5-1 第三章のまとめ

5-1-1 思想的背景からみえる週一ベジタリアン運動

「ベジタリアン」という言葉は、ベジタリアニズムが社会運動と結び付いた現在から約170年前のイギリスで生まれている。このことより「ベジタリアン」という言葉、及び「ベジタリアン運動」の歴史は長くないことがわかる。しかし、動物愛護を唱えていた思想家の多くが、「肉食をしない」、つまり「ベジタリアン」であったことや、ベジタリアン運動が動物愛護の思想から始まっていることから、「ベジタリアニズム」という思想は、動物愛護と同様に長い歴史を持つと考えられ、また動物愛護とベジタリアニズムは深く関係し合っているといえることができる。

また近代的な動物保護の思想の始まりがヨーロッパであり、現在においても動物福祉の法的な整備がヨーロッパで積極的に進められていることから、ヨーロッパの動物愛護の歴史は長く、またその思想に賛同する人も多いと考えられる。このように長い動物愛護の歴史を持ち、また動物愛護に対する理解があるヨーロッパにおいて、動物愛護の視点からベジタリアニズムを選択する人は多いと考えられ、週一ベジタリアン運動の考えに対して賛同する人も多いと予想できる。このようなヨーロッパにおける動物愛護の長い歴史が、Donderdag Veggiedag を成功させている一要因として考えられる。

5-1-2 週一ベジタリアン運動の推進理由からみえる運動の特徴

宗教的な理由や個人的な思想によって選択されてきたベジタリアニズムであるが、週一ベジタリアン運動で主張されているように、ベジタリアニズムの選択理由が多様化している。週一ベジタリアン運動で主張されている運動の主な推進理由は「環境問題への貢献」、「動物福祉への貢献」、「健康への配慮」の3つであるが、これらの他にも南北格差問題への貢献やベジタリアン料理の美味しさ等が挙げられている。このようにベジタリアニズムを推進する理由が多様であるということは、それぞれ異なるフィールドから協力者や賛同者を得やすいということである。またベジタリアン運動にはない「週に一度だけ」というコンセプトは、肉を一切食べないという厳しい内容ではなく、とても手軽に取り組みやすい内容となっている。これはEVAのDonderdag Veggiedagに限らず、Meatless MondayやMeat Free Mondayといった他の事例にも共通していえることであるが、推進理由の多様性や「週に一度」という手軽さは週一ベジタリアン運動の特徴であり、強みであると考えられる。

5-2 第四章のまとめ

5-2-1 EVAの活動におけるターニングポイント

EVAの設立から現在に至るまでの活動を追ひ、下記の3点がEVAの活動におけるターニ

ングポイントとなったことが考えられる。

①フランダース州政府からの助成金開始

②Donderdag Veggiedag の開始

③Tom Balthazar 氏との関係構築

まず『①フランダース州政府からの助成金』が開始されたことによって、ボランティア運営による不安さを抱えていた EVA の運営に、スタッフを雇用できる環境と安定した資金源の確保という運営面での安定性をもたらした。フルタイムスタッフの存在と安定した資金源が EVA の活動をより活発にさせたことが予想できる。次に②Donderdag Veggiedag の開始が二つ目のターニングポイントとして挙げられる。コンセプトが明確であり、レストランやホテルといったホスピタリティ業界を巻き込みやすく、EVA を代表する活動であり、強いブランドになったといえる。そして最後に③Tom Balthazar 氏との関係構築が EVA の活動に変化をもたらしたといえる。Balthazar 氏との関係が構築されたことで、Donderdag Veggiedag がオフィシャルキャンペーンへと近づいたのは事実である。Donderdag Veggiedag がオフィシャルキャンペーンとして認められたことにより、行政との協働関係が成立し、公共施設との根とワークができ、公共施設を通じた市民との繋がりが新たにできたことは EVA の活動をより大きくさせたといえることができる。

これら 3 点が、EVA の活動が変化するターニングポイントとなったことがいえる。

5-2-2 EVA の活動における特徴と強み

EVA の活動における特徴と強みとして下記の 4 点が挙げられる。

①充実した情報発信ツール

②ポジティブな活動

③質の高いマネジメント

④行政との協働関係構築

まず①充実した情報発信ツールであるが、EVA のポスターやパンフレットといった情報発信ツールは、種類も多く、デザイン性に優れ、また内容もベジタリアン料理のレシピや栄養といった実用的なものが多く、読み手のニーズに合わせたデザインや内容で構成されているといえる。次に②ポジティブな活動であるが、EVA は Donderdag Veggiedag の名前の付け方やその他の活動においても、人々の感情に訴えかけるような表現や活動はせず、出来るだけポジティブな印象を与えるような活動を心掛けている。また食における個人の選択を尊重しており、ベジタリアニズムを強制することはない。また多くの人に、ベジタリアニズムは様々な理由から選択できることを知ってもらうために、スタッフの間で重要と思われる「動物愛護」よりも、一般的に受け入れられやすい環境や健康といった理由をアピールしている。そして③質の高いマネジメントであるが、EVA には明確なミッション・ステートメントがあり、スタッフの行動や目標を統制しやすい環境が整っているといえる。また、目標に向かう方法が「ベジタリアニズムの普及」に統一されていることも、

それぞれ異なる分野に興味を持つボランティアをまとめやすい環境であるといえる。そして「ベジタリアン・ヴィーガンである」点と「活動のモチベーションが動物愛護である」点が、EVA のスタッフにおける共通点であり、これらがスタッフ間の凝集性を高め、質の高い活動に繋がっていると考えられる。最後に③行政との協働関係構築であるが、EVA はフランダース州政府から助成金を受けたり、Donderdag Veggiedag がゲント市のオフィシャルキャンペーンとして成立したりと、行政との良い協働関係が築けている。またオフィシャルキャンペーンへと繋げる際には、ベジタリアニズムに関心のある Balthazar 氏を橋渡し役として選択し、政治家の力も上手く利用している。行政との協働関係が構築したことにより、EVA の活動がより推進されたり、ネットワークが広がったりと、活動をより良い方向へ導いている。これらのことが EVA の活動における特徴であり、強みとなっている部分である。

5-3 結論

ここまで EVA の活動内容や活動変遷を追ってきたが、その中で見えてきた EVA の性格として挙げられるのが、とても「冷静」かつ「明るい」ということである。EVA には組織を動かす、継続させていく質の高いマネジメント能力を兼ね備えていることもその強みとして挙げられるが、これは週一ベジタリアン運動を推進している団体に限らず、NPO という団体そのものの強みとして挙げることができる。

例えばスタッフのモチベーションを維持させている最も大きな理由は「動物福祉への貢献」であるが、週一ベジタリアン運動を推進する理由として行政や一般人に受け入れられる理由は「動物福祉への貢献」ではなく、「環境」や「健康」といったキーワードであると EVA は考えており、自分たちの中で最も重要な「動物福祉」という部分はあえて推さず、一般人に受け入れられ易い「環境」や「健康」といった理由を運動の推進理由として全面に出しているのである。これは EVA の性格である「冷静さ」に基づいた戦略であると考えられる。

また行政との協働関係を築く際に、ベジタリアンに対して興味を持っていた Balthazar 氏を橋渡し役として選択しているところにも EVA の「冷静な」戦略を見ることができる。そして、ポジティブなキャンペーンを意識することや個人の選択を尊重するところにも、外部から反対感情を生ませない EVA の「冷静さ」を感じることができる。

冷静な戦略を立てている一方で、EVA の活動には「明るさ」を感じることにもできる。パンフレットやポスターなどの情報発信ツールは、デザイン性が高く、野菜や動物などのイラストが描かれたものが多い。図 5-1 がその一例である。

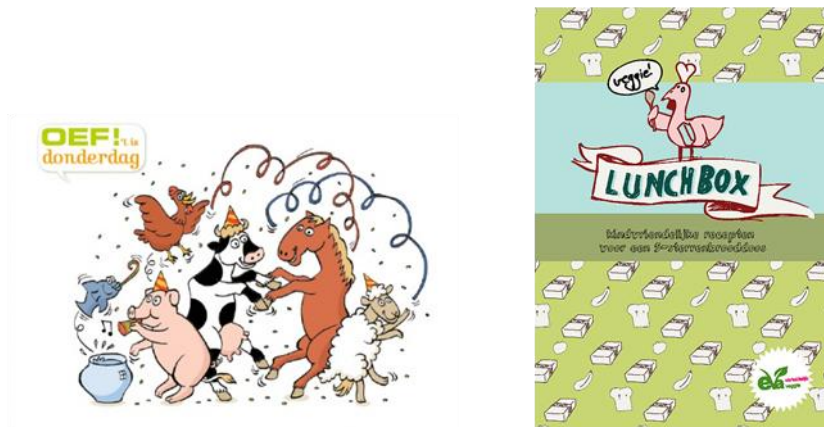


図 5-1 カラフルなデザインの情報発信ツール¹⁾²⁾

また料理教室や V-night といった様々な参加型イベントを行っており、ベジタリアンやベジタリアンに興味のある人同士のコミュニケーションや情報交換の場、ベジタリアン料理を楽しんでもらう場を提供している。これらが EVA の「明るい」部分であるといえる。

周りの状況を把握し、自らの立ち位置を第三者的な立場から客観視して、組織としての方向性や戦略を立て、行政側と市民側の両方にバランスの取れた活動を行えていることが、これまでの EVA の活動を推進させ、長い肉食の歴史を持つベルギーという土地で Donderdag Veggiedag をオフィシャルキャンペーンにまで結び付けられたと考えられる。

このように質の高いマネジメント能力を持っていることや外部のリアクションに合わせたアプローチ方法を考えるという「冷静さ」と「明るさ」は EVA の強みとなっていると言える。

また週一ベジタリアン運動の特徴である「キャンペーン推進理由の多様さ」や「長い動物愛護運動の歴史を持つヨーロッパという地」が、週一ベジタリアン運動への賛同者や協力者を生みやすくし、また熱心なボランティアやスタッフを確保できる環境を提供していることや週一ベジタリアン運動の「週に一度」という手軽さが EVA の活動を後押ししている要因として考えられる。

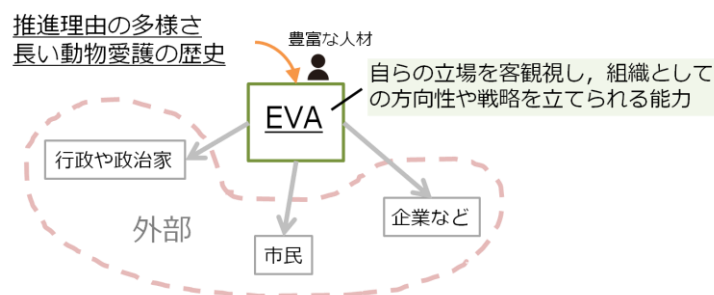


図 5-2 EVA の成功要因

5-4 本研究の課題

本研究では EVA の活動変遷を追い、その中から見える EVA の戦略や強みを考察してきたが、まだ明らかに出来ていない部分が多い。政治家を利用し行政とのネットワークを構築する方法がベルギー、あるいはヨーロッパにおいて一般的なことか否か。またベルギーにおける NPO のような市民団体の位置付けや、それに関する制度を踏まえた考察が不十分である。今後の研究では、先に述べた NPO を取り巻く環境を踏まえた考察が必要であり、また EVA の特徴をより明確にするために、他事例の週一ベジタリアン運動についてより追求し、EVA の活動と比較考察することが不可欠である。

また本研究を行う際に困難であった部分は、ベルギーが非英語圏であり、EVA の資料のほとんどがオランダ語で書かれており、読み進む作業にかなりの時間を要したことである。これらが本研究の不十分、困難であった部分であり、今後の研究課題である。

<参考文献>

- 1) EVA : Gidsen <
http://www.vegetarisme.be/index.php?option=com_content&view=article&id=8&Itemid=355
>, 2012-1-26
- 2) Donderdag Veggiedag : Donderdag Veggiedag e-cards <
<http://www.donderdagveggiedag.be/e-cards>>, 2012-1-26

1) AFP BBNews :「温暖化防止にライフスタイルの変革を」、IPCC 議長

< <http://www.afpbb.com/article/environment-science-it/environment/2338365/2536120> > ,
2012-1-25



2) りんたらくと：環境にやさしい畜産をするにはどうしたらいいの？

< <http://fami.lin.gr.jp/lint/faq/detail/?s=51> > , 2012-1-25



3) FAOSTAT : Livestock and Fish Primary Equivalent

< <http://faostat.fao.org/site/610/DesktopDefault.aspx?PageID=610#ancor> > , 2012-1-25

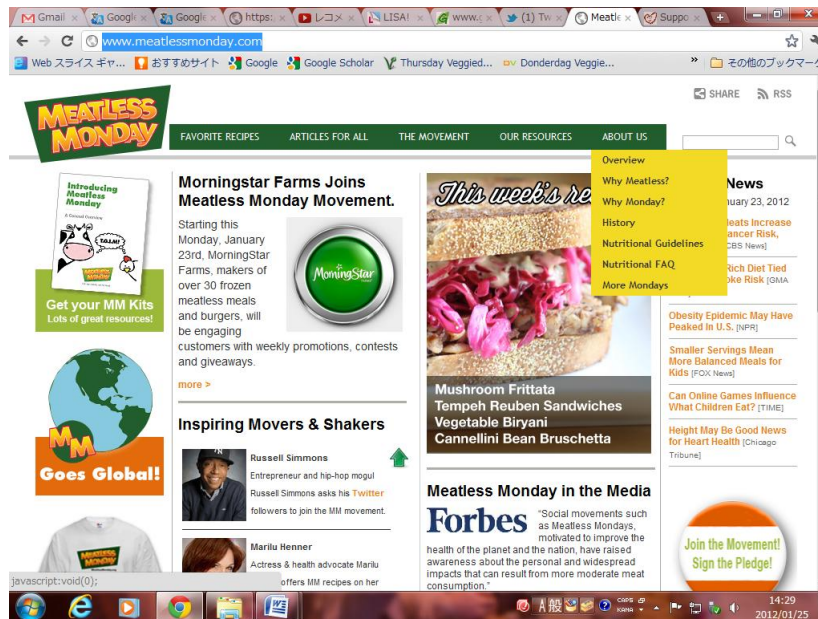
The screenshot shows the FAOSTAT website interface. The top navigation bar includes links for Home, Production, Trade, Food Supply, Food Balance Sheets, Food Security, Prices, Resources, Forestry, Fisheries, Metadata, Support/FAQ, and Release. The main content area is titled "Livestock and Fish Primary Equivalent". It features two dropdown menus for "country" and "year". The "country" dropdown is set to "Albania" and the "year" dropdown is set to "2007". Below these, there are two more dropdown menus for "item" and "element". The "item" dropdown is set to "Aquatic Animals, Others" and the "element" dropdown is set to "Food supply quantity (tonnes)". To the right of these dropdowns, there are four more dropdown menus: "nested by:" (set to "element"), "Y1-axis:" (set to "country"), "Y2-axis:" (set to "item"), and "X-axis:" (set to "year"). At the bottom of the form, there are buttons for "show data", "units", "flags", "codes", "download", "settings", and "print". Below these buttons, there are two rows of buttons for "Download format" (Excel, CSV, XML) and "Thousands separator" (Comma, Period, Space, None). The bottom right corner of the page shows the date "2012/01/25".

4) IVU : Frequently Asked Questions – Definitions

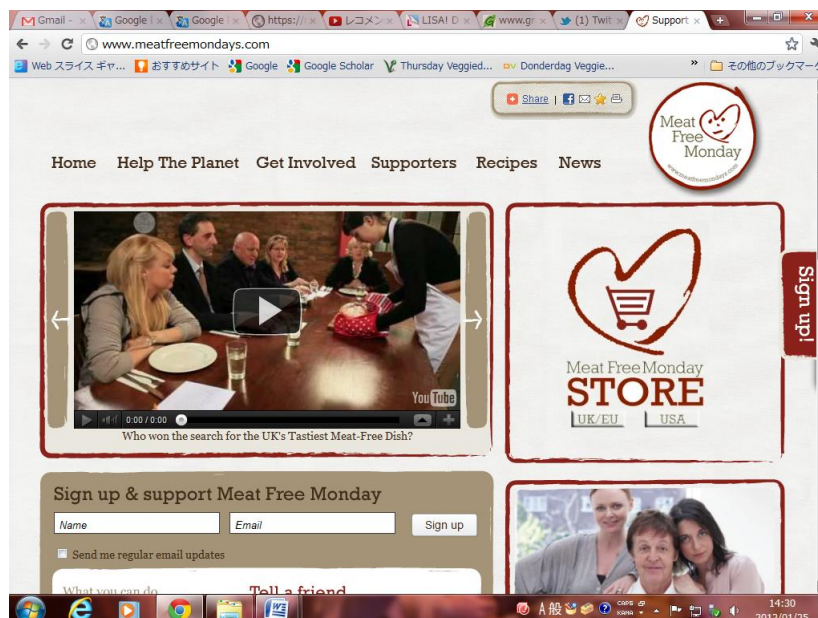
< <http://www.ivu.org/faq/definitions.html> > , 2012-1-25

The screenshot shows the International Vegetarian Union (IVU) website. The top navigation bar includes links for HOME, NEWS, ARCHIVES, CELEBRITIES, FAQ, HISTORY, JOIN, PHRASES, RECIPES, RELIGION, and RESOURCES. The main content area is titled "Frequently Asked Questions - Definitions". It features a large image of a dog and a cat, with the text "Collar a dog and support our Collars Not Cruelty campaign." and the WSPA logo. Below the image, there are two columns of text defining various types of vegetarianism. The left column defines "Vegetarian", "Ovo-Lacto Vegetarian", "Lacto Vegetarian", "Pure Vegetarian", "Veggie", and "Halal Vegetarian". The right column defines "Vegan", "Dietary Vegan", "Plant-Based Diet", and "Why Vegan?". At the bottom of the page, there are links to "IVU on Facebook", "Ads by Google", "Vegan Diet", "Vegetarian", "Vegan Meat", and "amazon.com". The bottom right corner of the page shows the date "2012/01/25".

5) Meatless Monday : < <http://www.meatlessmonday.com/> > , 2012-1-25



6) Meat Free Monday : < <http://www.meatfreemondays.com/> > , 2012-1-25



7) NPO 法人日本ベジタリアン協会:ベジタリアンとは? <<http://www.jpvs.org/index.htm>>, 2012-1-25

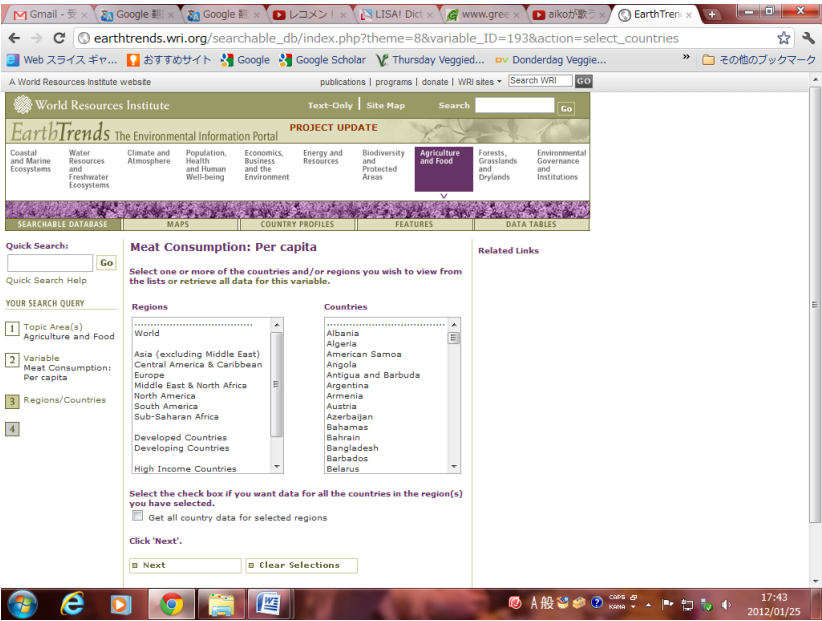


8) ALIVE : 各国における動物保護の主な法制度の歴史 <<http://www.alive-net.net/law/kaigai/wlaw-history.html>>, 2011-6-19



9) World Resources Institute : Meat Consumption: Per capita <

http://earthtrends.wri.org/searchable_db/index.php?theme=8&variable_ID=193&action=select_countries> , 2012-1-25



10) 牛肉・豚肉・鶏肉 1kg 生産に必要な穀物と水 :

<<http://www.nexyzbb.ne.jp/~omnika/nikutokokumotu.html>> , 2012-1-25

牛肉・豚肉・鶏肉 1kg 生産に必要な穀物と水 05.27.2011, revised 08.12.2011
Amount of grain and virtual water to product 1kg of beef, pork and chicken.

精肉 1kg あたり必要な穀物量は、牛肉: 25kg、豚肉 4.8kg、鶏肉 3.9kg

100グラムの牛肉ステーキを食べるのは、2.5kgの穀物を食べ、2トンの水を飲んでいいるのと同じ

穀物を輸入することは、3000倍から7800倍相当の水を輸入していることになる(virtual water)
(1=チャールウォーター: 日本は実際は水輸入大国)

穀物生産量は化石燃料の消費量と比例しているので、石油を消費しているのと同じ

肉食をほとんどすると省エネになる、途上国と環境にもやさしい

インターネットで検索すると、牛肉・豚肉・鶏肉 1kg 生産に必要な穀物は、とうもろこし換算で牛肉: 11kg、豚肉: 7kg、鶏肉: 4kgと出てきます。
おおもとの出典がどこかはちょっと判りません (FAOあたりのようです)。

日本のケースについて、東京大学の三宅基文・沖大幹・虫明功臣さんが計算しています。精肉 1kg あたり必要な穀物量は、牛肉: 25kg、豚肉 4.8kg、鶏肉 3.9kg という結果になっています(下表)。この値は後継研究者によって見直しを受けていますので参考数値です。計算のやり方に興味があったので参考までに紹介しました。

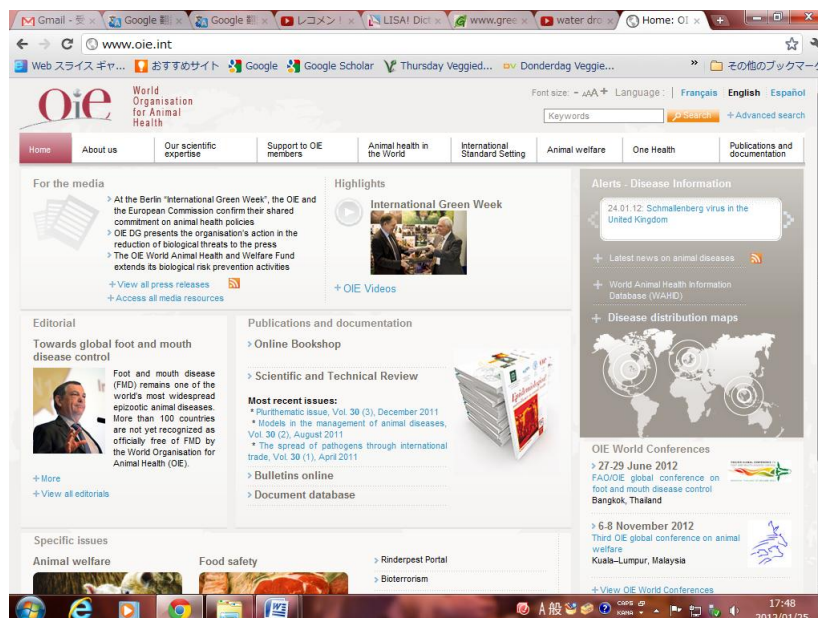
牛肉・豚肉・鶏肉 1kg 生産に必要な穀物と水 (参考値)
Amount of grain and virtual water to product 1kg of beef, pork and chicken (before revise, for reference only)

肉の種類	濃厚飼料消費量 (kg)	濃厚飼料中の穀物量 (kg)	飼育期間 (年)	体重 (kg)	穀物消費量 (kg)	肉歩留まり (%)	穀物消費原単位 (kg-穀物/kg-肉)	換算水消費原単位 (参考数値) (m ³ /ton-meat)
	concentrate	grain	breed year	weight	grain/weight	yield	grain/meat	for reference only
牛肉 (枝肉)	12500	7900	2.5	675	11.6	61.4	18.8	72,300
牛肉 (精肉)						45.8	25.2	100,000
豚肉 (枝肉)	410	260	1.0	150	1.7	72.0	2.4	7,950
豚肉 (精肉)						36.4	4.8	11,000

11) ALIVE : 畜産動物 <http://www.alive-net.net/index.html> , 2012-1-25

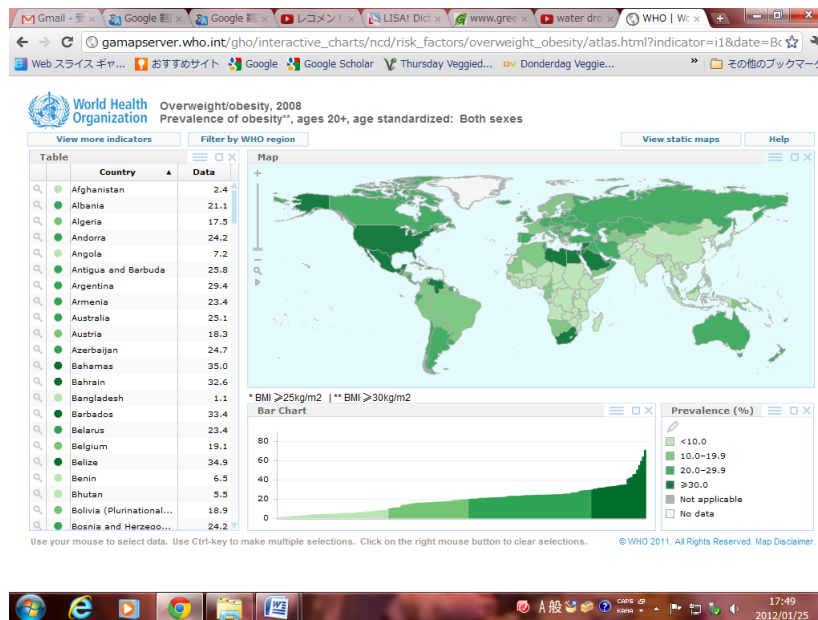


12) OIE : <http://www.oie.int/> , 2012-1-25



13) WHO : <

http://gamapserver.who.int/gho/interactive_charts/ncd/risk_factors/overweight_obesity/atlas.html?indicator=i1&date=Both%20sexes > , 2012-1-25



14) 日本生活習慣病予防協会 : 子供の肥満

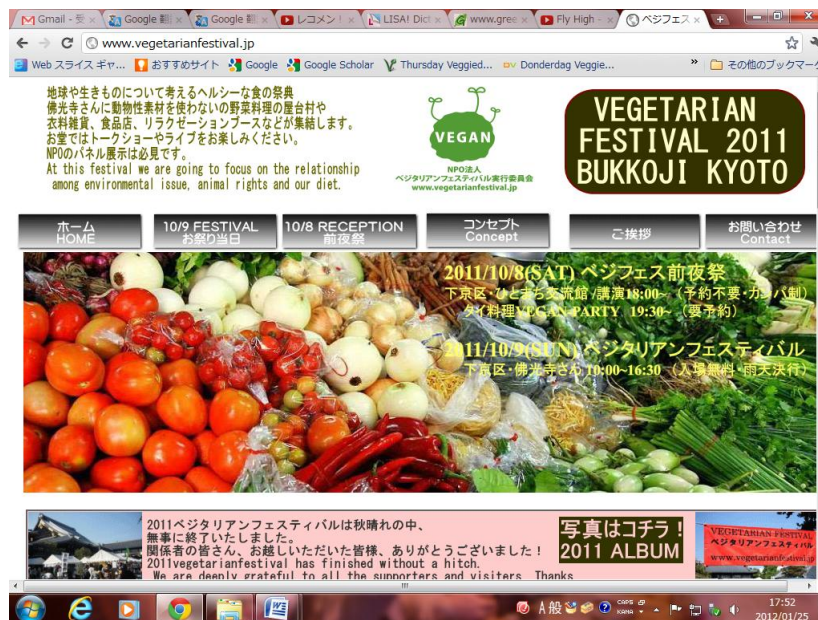
<<http://www.seikatsusyukanbyo.com/calendar/2009/000226.php>> , 2012-1-25



15) 東京ヴィーガンズ・クラブ : <<http://vegan.japanteam.net/index.htm>> , 2012-1-25



16) NPO 法人京都ベジタリアンフェスティバル : <<http://www.vegetarianfestival.jp/>> , 2012-1-25



17) NPO 法人ベジカルチャーネットワーク : <<http://veg-culture.net/>>, 2012-1-25



18) Donderdag Veggiedag : deelnemende steden

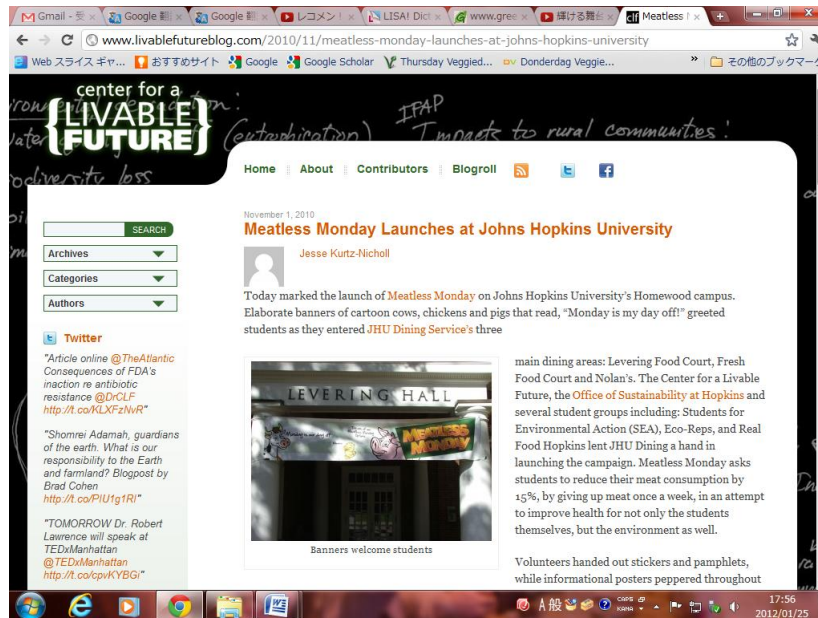
<http://www.donderdagveggiedag.be/deelnemende_steden>, 2011-12-19



19) Center for Livable Future : <

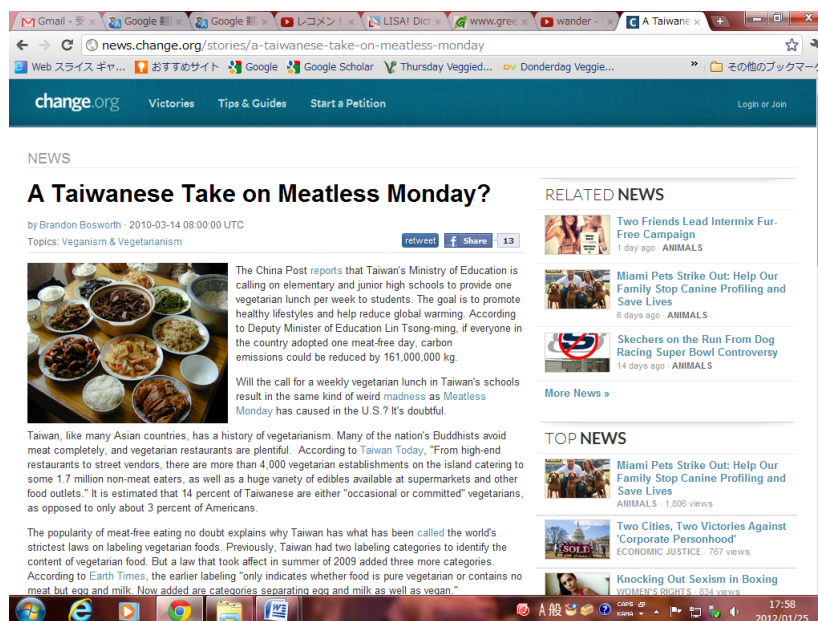
<http://www.livablefutureblog.com/2010/11/meatless-monday-launches-at-johns-hopkins-university>

>, 2011-10-11



20) change.org. : A Taiwanese Take on Meatless Monday?

< <http://news.change.org/stories/a-taiwanese-take-on-meatless-monday> >, 2012-1-25



21) FOCUS TAIWAN : Taiwan earns five Hero Awards at U.N. climate conference

< http://focustaiwan.tw/ShowNews/WebNews_Detail.aspx?Type=aALL&ID=201112120025 > ,
2012-1-25



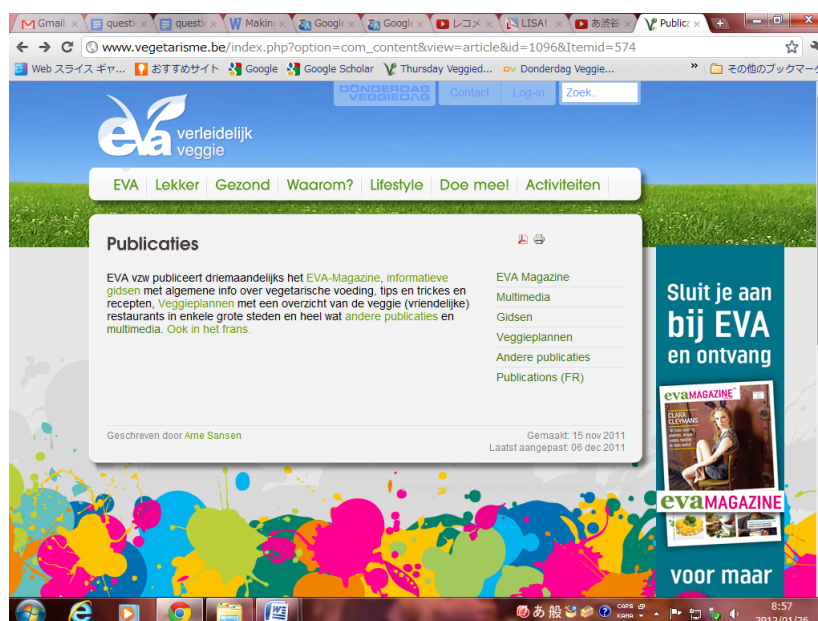
22) ベルギー観光局ワロン・ブリュッセル : <<http://www.belgium-travel.jp/base/>> , 2012-1-26



23) 財団法人 自治体国際化協会：＜<http://www.clair.or.jp/j/exchange/jirei/shimai/ishikawa.html>
＞, 2012-1-25



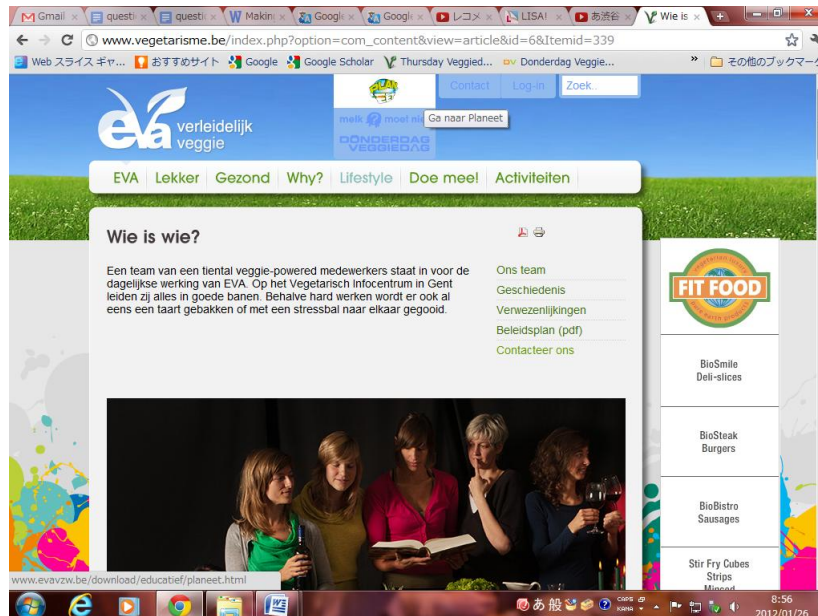
24) EVA : Publicaties <
http://www.vegetarisme.be/index.php?option=com_content&view=article&id=1096&Itemid=574 > ,
2012-1-26



25)EVA : Wie is wie? <

http://www.vegetarisme.be/index.php?option=com_content&view=article&id=6&Itemid=339 > ,

2012-1-26



26)EVA : Activiteiten & projecten<

http://www.vegetarisme.be/index.php?option=com_content&view=article&id=5&Itemid=338 > ,

2012-1-26



27) Veggie Monday : < http://veggie monday.japanteam.net/why_monday.htm > , 2012-1-26



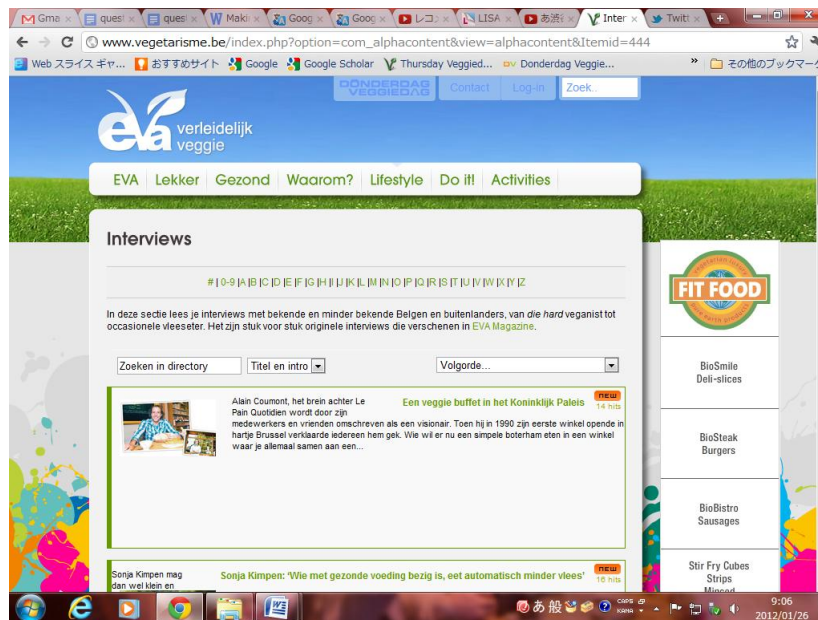
28) Ashoka Fellow Japan : < <http://japan.ashoka.org/activity/fellow.html> > , 2012-1-26



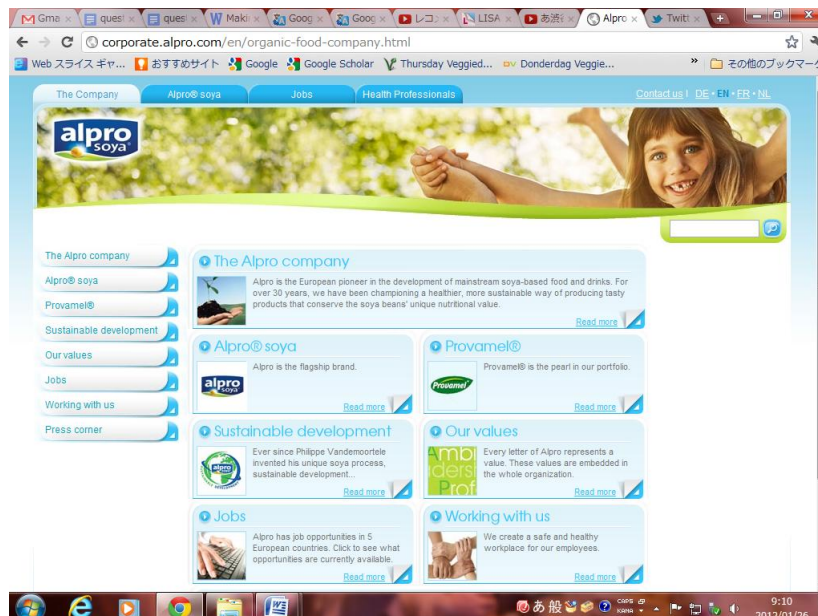
29) EVA : interviews <

http://www.vegetarisme.be/index.php?option=com_alphacontent&view=alphacontent&Itemid=444

>



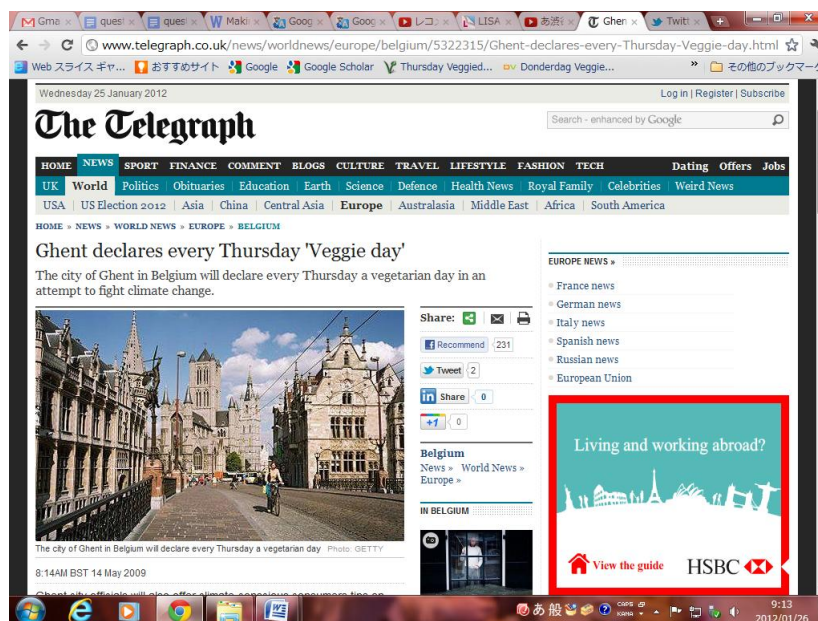
30) Alpro Soya : < <http://corporate.alpro.com/en/organic-food-company.html> > , 2012-1-26



31) BBC News : Shun meat, says UN climate chief < <http://news.bbc.co.uk/2/hi/7600005.stm> > , 2012-1-26



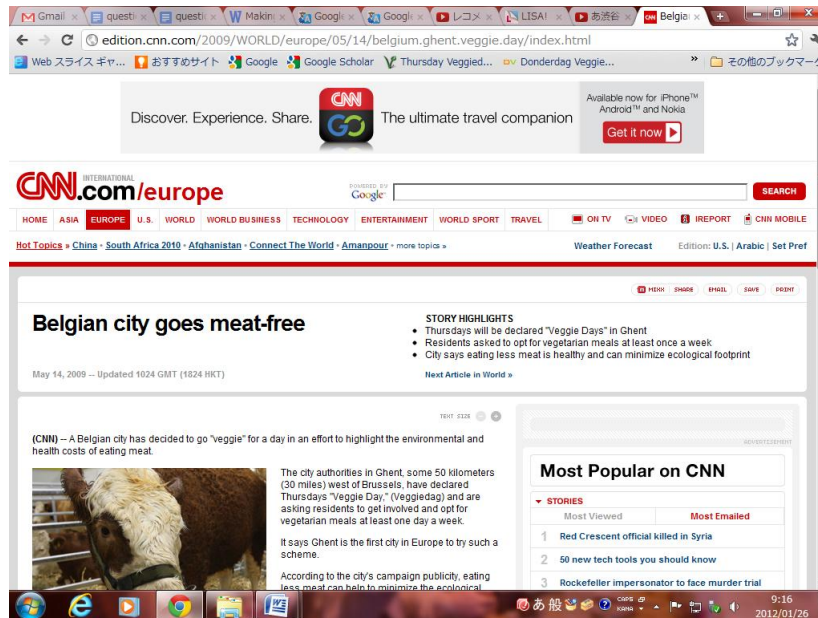
32)The Telegraph : Ghent declares every Thursday ‘Veggie day’ < <http://www.telegraph.co.uk/news/worldnews/europe/belgium/5322315/Ghent-declares-every-Thursday-Veggie-day.html> > , 2012-1-26



33)CNN : Belgian city goes meat-free <

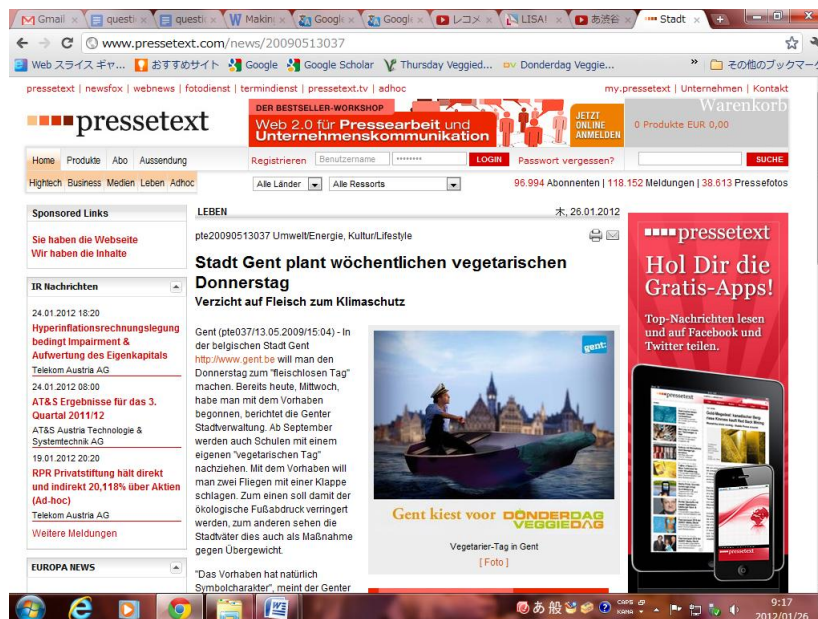
<http://edition.cnn.com/2009/WORLD/europe/05/14/belgium.ghent.veggie.day/index.html> > ,

2012-1-26



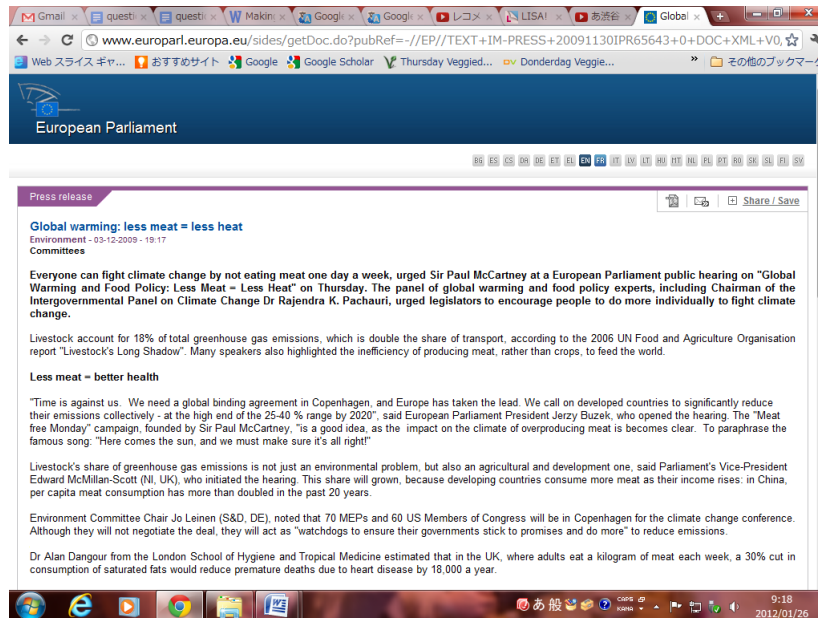
34)presstext : Stadt Gent plant wöchentlichen vegetarischen Donnerstag <

<http://www.presstext.com/news/20090513037> > , 2012-1-26



34)European Parliament : Press release -Global warming: less meat = less heat <

<http://www.europarl.europa.eu/sides/getDoc.do?pubRef=-//EP//TEXT+IM-PRESS+20091130IPR65643+0+DOC+XML+V0//EN>> , 2012-1-26



謝辞

本稿は、滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科における研究成果を学位論文としてまとめたものです。本研究を手探りながら進めるにあたって、温かく見守ってくださった先生方、諸先輩方、諸学友にご指導、ご協力、助言などを頂き、厚く御礼申し上げます。

はじめに、始終にわたりご指導いただきました滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科の近藤隆二郎准教授に心から感謝申し上げます。「週一ベジタリアン運動」という国内における研究が皆無に近いテーマを選択したため、行き詰まりを繰り返しながら研究を進める私に対し、私の関心を大事にして頂きながら、的確なご指導を頂き、深く感謝しております。また私事となりますが、近藤先生には2回生から「あかりんちゅ」としてもお世話になり、研究以外の場においても私に成長する機会をたくさん与えて頂き、温かく、また時には厳しく見守って頂きました。近藤先生との出会いは私にとってとても大きく、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

そして、査読をして頂きました滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科の井手慎司教授には的確なご指導、研究に対する評価をして頂き、心より感謝しております。私の研究の査読を希望して頂いたこと、驚くと同時に、大きな喜びがありました。本当にありがとうございます。

研究対象とさせて頂きました EVA の Tobias Leenaert さんと Melanie Jaecques さんには、たくさんのご協力を頂き、とても感謝しております。流暢に英語を話せない私に対しても、丁寧に対応して頂き、研究を完成させることが出来ました。また現地調査の際には、快くご自宅に迎え入れていただき、本当に感謝しております。厚く御礼申し上げると同時に、今後のさらなるご活躍願っております。

I am grateful to Mr. Tobias Leenaert and Ms. Melanie Jaecques of EVA for their kind support my research. I deeply hope they have a great success.

そして、同じ研究室の仲間である栗谷瞳子さん、武田真由子さん、力石真野さん、辻雅人さんとは共に学び、支え、楽しみながら、それぞれが成長し、またたくさんの思い出を作ることが出来ました。本当にありがとう。

その他にも、東京ヴィーガンズ・クラブの方々を始め、たくさんの方にご協力頂き、この研究を完成させることが出来ました。とても感謝しております。

また私事にはなりますが、私をここまで育ててくれ、何も言わずに色んなことを経験させてくれた私の両親、兄、姉に感謝いたします。本当にありがとうございました。

最後にもう一度、近藤先生をはじめ、この研究にご協力頂きました皆様に、心より感謝申し上げます。今後の長い人生の中で、研究を含め、この大学4年間で得た貴重な経験や学びを生かしていければと思います。本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。